

この「履修案内」は2005年度の商学部第3学年および第4学年生に対して、履修の方法、手続き、講義内容、実際に適用される学則の「運用」等について解説したものです。

学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された日時に必ず履修申告を行ってください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。本案内を読んで疑問な点があれば学事センター商学部係または以下の学習指導に問い合わせてください。

学習指導主任 教授 平野 隆 研究室 435号室 (内線 23185)

e-mail : hirano@fbc.keio.ac.jp

学習指導副主任 助教授 伊藤 規子 研究室 401号室 (内線 23151)

e-mail : noriko@fbc.keio.ac.jp

学習指導に相談のある場合には、メールまたは内線電話にてアポイントをとること。留守番電話の場合には、連絡先電話番号、連絡のとれる時間、相談内容の概略をメッセージとして残しておくこと。

# 目 次

商学部の基本理念 .....	3
専攻課程に学ぶ諸君へ .....	4
三田における勉強とカリキュラムの特徴 .....	5
平成 17 年度（2005 年度）学事関連スケジュール .....	7
一般注意事項 .....	8
履修申告のしかた .....	16
履修要項 .....	23
講義要綱・シラバス .....	41
教職課程 .....	111
言語文化研究所特殊講座 .....	112
メディア・コミュニケーション研究所 .....	118
体育研究所設置講座 .....	135
福澤研究センター設置講座 .....	142
外国語教育研究センター設置講座 .....	144
慶應義塾大学在外研修プログラム .....	147
国際センター設置講座 .....	149
情報処理教育室設置講座 .....	187
知的資産センター設置講座 .....	190

## 商学部の基本理念

本学部は、福沢諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、現代社会の進歩と変革に対応して、つねに新鮮にして活力のある学部であることをめざす。

1. 本学部は、広い視野と創造的思考をもって、現代の産業社会を商学の理論と実証を通して把握し、その方向を洞察することを、研究と教育の基本とする。
2. 教育にあたっては、経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取り組む、体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす。
3. 本学部は、このような知的教育にとどまらず、教員と学生の人間的接触を重視し、個性の伸長をはかり、意欲的で国際性豊かな、活力ある人間の形成をめざす。
4. 「商学」の核を、経営学・会計学・商業学・経済学および産業経済論とする。
5. 本学部は、これらの実現のために、独自の研究教育体制とカリキュラムの有機的編成をはかる。

## 専攻課程に学ぶ諸君へ

2年間の日吉での課程を終えた諸君は、これからいよいよ商学部の専門科目を履修することになる。商学部では従来から日吉と三田での教育の連続性と一貫性という点を考慮してカリキュラムの編成を行い、何度かの改定をも試みてきた。こうした改定の結果、日吉のカリキュラムにおいても専門科目の基礎や入門的な科目が設置され、また三田にも教養科目に属するものが設けられている。

こうしたカリキュラム編成が試みられているのは、商学部の教育目的として、諸君らが幅広い知識と教養をそなえ、次代を担う知識人になってほしいという願いがあることと、一方で諸君らにできるだけ早く商学部の主要な学問分野の内容に接してもらい、商学部がどのような研究教育をする学部であるのかを理解する糸口になればという意図からである。三田におかれている教養科目についても同様の趣旨をもっており、三田で専門的な分野を学んでゆくなかで、基礎的な分野の学習の必要性を改めて認識した諸君のために履修可能なようにという意味から設けられている。また今日では、「地球環境問題」や「技術革新に関連する問題」のように、複合的な専門分野からのアプローチによって、はじめて問題の本質を把握できるものが増えている。商学部では、ある一定の条件をみたせば、このような複合的なアプローチによる大学院の科目も履修することができ、高度な専門知識を習得することもできる。

こうした三田、日吉の教育の連続性と一貫性を考慮に入れたカリキュラムではあるが、その中心をなしているのが商学であり、それは商業学、会計学、経営学の3分野から構成されている。しかし、こうした3つの専門分野についての学習をし、各々の分野についてその内容を理解するためには、産業・経済についての知識が当然のことながら必要とされる。そのために商業学、会計学、経営学の3分野に加え、産業・経済分野を合わせた4つの専門分野が商学部の専攻課程の中核にあるものと考え、それらがその他関連分野と有機的・体系的に組み合わせられたものこそが、商学部のカリキュラムの特徴である。諸君にはカリキュラム編成の意図を十分に理解し、広い視点から自らの問題発見と分析を深化させてほしいものと期待している。

とくに、近年のわれわれの存在する経済社会は激しく変化しており、社会からの大学や諸君へのニーズが変化する兆しを見せつつある。こうした状況のもとで、大学生活の後半である2年間の専攻課程をどう過ごすかということが、従来にも増して重要になってきているといえよう。三田での最初の1年間に、すでに述べたように、できるだけ幅広い視野を身につけ、そうした視点から社会で起こっている諸問題を見据え、深く分析してゆくという努力がなされなければならないといえる。時代の変化は、既存知識の適応能力の限界を示し、新たな知識の構築を要請してくるようになるであろう。そのためには現実や既存の知識や社会の仕組みを批判的に検討しうるような姿勢を作る努力が必要になってくるといえる。

三田での2年間の生活のなかで、諸君らの自信の視点、考え方を確立し、そのような立場から多様な社会問題を分析するような努力をされ、次代を担う豊かな知識人に成長されんことを願ってやまない。

学部長 桜本 光

## 三田における勉強とカリキュラムの特徴

商学部のカリキュラムの特徴は、①学生が自分で問題を発見し、より深くそれを探究できるように、学生の自主性、オリジナリティを重視していること、②基礎からより高度なものへと段階を踏んで学習できるように編成されていること、③多岐にわたる研究領域のスタッフを揃え、広い分野にわたって講座が均整をもって設置されていること、そして、④外国語と数学・統計学および情報処理関係の教育にかなりの比重をおいていることが挙げられます。

諸君は、日吉キャンパスでの2年間で、すでにこれらの特徴を実感し、着実に学力の幅を広げてきたことと思います。これからは、いよいよ、三田キャンパスでの2年間を通じて、学力を深化させ、そして問題を発見し、それを解決する経験を積みましょう。

商学部の専攻分野のコアは、①経営、②会計、③商業、④経済・産業の4分野からなり、さらに、経済・産業は、国際経済、計量経済、金融・保険、産業・交通、労働・社会、産業史・経営史から構成されています。諸君は、三田での2年間、これら専攻分野に属する科目から、幅広く履修科目を選択し、知識を広げ、解決方法の代替案を多く探索できる能力を持つ——すなわちジェネラリストを目指すこともできますし、また、特定の分野に焦点を当て、その分野の科目を集中して履修することにより、自己の専門分野を持つ——すなわちスペシャリストを目指すという選択もできます。ただし、問題発見能力や解決能力を身につけるためには、複数の専攻分野の知識を蓄えることが有益です。

また、各専攻分野のカリキュラムは、すべて総論科目と各論科目から構成されています。総論科目は、その名のとおり、より基礎的かつ概論的な科目で、原則として毎年設置され通年講義で行われていますが、春学期に週2コマの集中講義の形態を採る科目もあります。他方、各論的科目は、より専門的あるいは特別なテーマを講義する科目で、中には隔年で設置される科目もあります。したがって、履修の要領は、①段階を踏んだ学習のためには総論科目と各論科目のセットで選択すること、②各論科目については、第3学年と第4学年の2年間で履修したい科目の計画を立てることが肝要です。

ところで、本文冒頭でも述べたように、商学部では、外国語や数学、情報処理の教育を重視しています。そこで、三田キャンパスでも外国語や情報処理の鍛錬を継続できるように、あるいは応用数学の知識を増やすために、それらの講座が用意されていますので活用しましょう。卒業を目前にし、社会人の仲間入りを自覚する頃になると、日吉キャンパスでの2年間に数多くの講座が設置されていた自然科学や人文・社会科学の知識をより充実させておくべきだったという反省をよく聞きます。その為に三田キャンパスでもそれら総合教育科目に属する講座を幾つか設置してありますので、履修することを考慮してみてください。

「研究会」については若干後述しますが、研究会に所属しない（できなかった）学生諸君は、「外書演習」・「外国語特殊」・「外国語演習」・「専門演習」を重視しましょう。少人数のクラスで教員との質疑応答も大いに期待でき、研究会の先生に準じるような親しい教授を見つけることができるかもしれません。

詳細は後述しますが、商学部の卒業に必要な単位数128単位は、他の学部比べて少ないと思います。しかし、これは、最低の単位数であって、1年間で履修できる上限50単位を4倍すれば、合計200単位まで4年間で履修できます。三田キャンパスに限っても100単位まで履修できるのですから、思う存分履修し勉強してください。自主選択科目として20単位を認めたことや少ない卒業単位数である真の意味は、諸君が自主性をより発揮する為なのです。

以上の基本方針のもとに履修案を作成しましょう。なお、履修申告の際には、手続きに誤りがないよう充分注意してください。具体的な注意点は、履修案内の該当事項を参照していただきたいのですが、とくに重要な幾つかの点を箇条書きにしてみます。

1. 卒業に必要な単位数は、4学年を通じて、合計128単位です。そのうち、第3・第4学年で履修し合格しなければならないのは、必修・選択科目あわせて58単位（但し、平成13年度以前の入学者で第1・第2学年で68単位もしくは69単位を修得し、三田に上ってきた者を除く）です。

2. 専攻科目については、4学年を通じて、Ⅰ類からⅣ類まで合計58単位以上合格しなければなりません。

その場合、専攻科目Ⅲ類を2単位以上、専攻科目Ⅲ類とⅣ類をあわせて46単位以上を履修し合格する必要があります。専攻科目Ⅳ類には、関連科目を8単位まで専攻科目Ⅳ類に含めることができます。関連科目の範囲、履修の際の手

続きの注意について、履修案内の該当箇所をよく参照してください。

3. 各学年における履修単位数の最高限度は50単位（自由科目を除く）です。

4. 第3・第4学年において履修し合格した授業科目のうち12単位まで、自主選択科目として進級および卒業所要単位数にカウントされます。

なお、自主選択としての履修は、他学部設置の科目からも選択できます。詳細は自主選択科目に関する注意事項を参照してください。

5. 第3学年において合計12単位以上を履修し合格しないと第4学年に進級できません。また、第4学年においても12単位以上を履修し合格しないと卒業できません。なお、カウントされる科目の範囲が限定されていますので注意してください。

6. 研究会は、専攻科目のなかでもとくに特徴のある科目です。人数の制約から希望者全員が履修できるとはかぎりませんが、志望者は各研究会の行うゼミ入会選考を受けて入会許可を受けることになります。履修申告は第3・第4学年それぞれ行う必要がありますが、可否の判定は第4学年終了時に一括して行われ、合格すると8単位が付きます。したがって、履修可能上限50単位および履修合格必要下限12単位の条件に関して、研究会の8単位はすべて第4学年においてカウントされます。

7. 重複履修は原則としてできませんが、外国語については、科目名が同一でも担当者が異なる場合あるいは科目名および担当者が同一でも内容が異なる場合に、自主選択科目として再度履修ができる場合があります。詳細は重複履修に関する注意事項を参照してください。

なお、学士入学者については上記とは若干異なる規定がありますので注意してください。

履修案内に関し、疑問・不明な点があれば、学習指導または学事センター商学部係まで問い合わせてください。

時代の多様化に対応したカリキュラムの長所を生かし、各自が有意義な学生生活を送り、日吉で身につけた幅広い視野や基礎知識の上に、専門的知識や問題発見能力・解決能力の研鑽を積まれることを望んでやみません。

商学部学習指導主任（三田）

平野 隆



# 一般注意事項

## I 学生証(身分証明書)

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
  - (1) 本塾教職員の請求があった場合
  - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
  - (3) 各種試験を受験する場合
  - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続  
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真(縦4cm、横3cm、カラー光沢仕上げ)1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返却  
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、および退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

## II 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益をこうむることもあります。  
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所、各種センター設置科目・講座等については、共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項  
授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出し等。  
休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話(i-modeのみ)により学事Webシステムにおいても確認できます。(21ページを参照してください)  
また、定期試験時間割、その他掲示の一部は塾生ページ(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)でも確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、501番教室後方入口前の掲示板を利用してください。

## III 試験・レポート等

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。このようなことが絶対にないように学生諸君の自戒を強く要望します。

### 1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月19日(火)～27日(水)実施(春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とします)

秋学期末：1月23日(月)～2月4日(土)実施(秋学期に終了する科目および通年科目を対象とします)

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

#### 試験に関する注意事項

- ① 定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。
- ② 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ③ 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ④ **学生証を必ず携帯し、提示してください。**
- ⑤ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- ⑥ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑦ 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
- ⑧ 答案用紙の担当者および科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- ⑨ 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻を

しても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。

⑩ 試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

## 2. 平常試験

随時授業時間内に行われます。

## 3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目（総合教育科目「人の尊厳（社会と人権）」、専攻Ⅳ類科目「経済統計」「交通経済各論（経済地理）」「法学各論（経済法）」「法学各論（労働法）」「経済学史」）についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、事故の証明書、あるいは学習指導の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は原則として日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

## 4. 再試験

商学部学生に対してはその履修する科目が商学部・他学部いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

## 5. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

(1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センター窓口では、指定日時以外は一切受け付けませんので、掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

### 1. 授業期間中

月～金曜日…… 8時 30分～18時 10分

土 曜 日…… 8時 30分～16時 30分

※授業期間中であっても都合により閉室することがあります。

### 2. 休業期間中

月～金曜日…… 8時 30分～11時 30分、12時 30分～16時 30分

※休業期間中は土曜日の受付は行いません。

※その他の事務取扱時間については 11 ページも参照してください。

(2) 学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターと西校舎内の掲示板前に備えてあります。

(3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

## 6. 成績通知

成績結果を記載した学業成績表は、保証人宛に郵送されますが、春学期終了科目については 9 月中旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については 3 月中旬に発送となります。

なお、取得した科目の成績が成績証明書に記載される時期は、翌年度の 4 月以降となります。

ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を 1 月に掲示します。

## IV 諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

### 1. 休学願・就学届・退学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出で必要の期間休学することができる」（学則 152 条）。本年度休学希望者は、11 月末日までに学習指導主任と面接し、休学願用紙に承認印をうけたうえで学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3 月 31 日）までとします（38 ページも参照してください）。休学が次の年度に及ぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合にはあわせて医師の診断書を提出してください。

なお、休学者が休学許可を受ける前に修得した当該年度の科目について、申し出のあった場合は、自由科目に限り振り替えます。この場合、就学後再履修することは認められません。希望者は休学願提出時に窓口にて問い合わせてください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印のうえ、学生証を添えて学事センター窓口へ提出しなければなりません。

## 2. 留 学

「本大学が教育上有益と認めるときは休学することなく、外国の大学に留学することを許可することがある」(学則 153 条)。留学に関する手続き(国外留学申請書の提出)はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には済ませてください。また、帰国後は速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、商学部での留学に関する取扱いについては、38 ページを参照してください。

## 3. 住所変更届(本人・保証人)、保証人変更届、改姓(名)届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

- 住所変更届: 在学カード
- 保証人変更届: 変更届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 保証人住民票
- 改姓(名)届: 改姓(名)届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 戸籍抄本, 学生証再交付願

また、学生総合センター学生生活支援窓口に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

## V 各種証明書

証明書の発行、申込み、受取、いずれの場合でも学生証が必要です。

授業料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

### 1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書(和文)

※料金は改定されることがあります。

在学証明書(4月1日12時30分～)	1通200円
成績証明書(4月1日12時30分～)	
卒業見込証明書(5月6日～)	
履修科目証明書(6月1日～)	
卒業見込証明付成績証明書(5月6日～)	1通400円
学割証(JR各社共通)	無料
健康診断証明書(6月中旬～年度内)	1通200円

#### 注① 稼働時間

学事センター事務室内発行機: 学事センター事務取扱時間内

南校舎1階設置発行機: 9時～20時[授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く]

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

② 学割証(JR各社共通)は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも離籍した場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)の発行はできません。

③ 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください。(自動発行機で発行した証明書は厳封できません)

④ 健康診断証明書は6月中旬以降、定期健康診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

### 2. 学事センター窓口で即時発行する証明書(英文)

※いずれも1通200円。(料金は改定されることがあります)

- (1) 英文在学証明書(4月1日12時30分～)
- (2) 英文卒業見込証明書(5月6日～)
- (3) 英文成績証明書(4月1日12時30分～)

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

### 3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等(例: 司法試験用単位取得証明書, 公認会計士用証明書, 英文履修科目証明書, 他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は

申請後標準 3 日、英文書類は申請後標準 1 週間日数を要します。

## Ⅵ 教室使用申請について

### 1. 受付窓口

利用者により、受付窓口が異なりますのでご注意ください。

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

### 2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
  - (2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口「学内集会届」を提出してください。
  - (3) 申請は使用予定日の 2 週間前から 4 日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
  - (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
  - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた 4 日前とします。

### 3. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（4 枚複写の 4 枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。
  - (2) 学生団体は原則として、使用できません。
  - (3) 申請は使用予定日の 4 日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8 月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
  - (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
  - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた 4 日前とします。

## Ⅶ 学事センターの窓口

### 1. 学事センター事務取扱時間

- (1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8 時 30 分～18 時 10 分

（なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。）

8 時 30 分～16 時 30 分

- (2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8 時 30 分～11 時 30 分、12 時 30 分～16 時 30 分

※土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

### 2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み
- (6) 休学願・留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 公認会計士・司法試験等受験のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口で行います）
- (11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

卒業後の成績・卒業証明書等の申込み・発行は、塾員センター（北館 3 階）が取り扱います。

## VIII 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田研究室棟）
- 日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

## IX 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

### 学生生活支援

#### ○教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したいときは、使用希望日の4日前（休日を除く）までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。（「VI 教室使用申請について」も参照）

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9：00～18：00（ただし、第一校舎は20：00まで）

土曜日 9：00～18：00（全校舎）

音楽団体指定時間

月～金曜日 18：10～20：10

土曜日 13：00～18：00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

#### ○山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

#### ○学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

#### ○組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にご各自で問い合わせをしてください。

#### ○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

#### ○備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

#### ○郵便物の取扱い

外部から送付される各学生団体宛の郵便物は、学生生活支援窓口備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

#### ○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

#### ○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人の利用ができます。開室時間は8：45～21：00です。室内での飲食はできません。

#### ○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

#### ○その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

## ○奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

### ●慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

### ●慶應義塾大学特別奨学金〔給費〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。

募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

### ●日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と1999年度から設置された、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

### ●地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

### ●指定寄附奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

## ○奨学融資制度（奨学金付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

## ○学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

### (1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

### (2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

## 就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸出しも行っていきます。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

## 学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています（このスケジュールは相談室に問い合わせてください）。

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても、個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

## 学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援，就職・進路支援—

月～金曜日……8時30分～17時 ※都合により閉室することがあります。

土曜日……閉室

—学生相談室—

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

## 学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

### ① 正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい，次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき，卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし，もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において，これらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき，授業の準備もしくは後片付けを行っている間，または授業を行う場所，大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

### ② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

### ③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舎にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

### ④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用が円滑に行われるため，ゼミ合宿を学外で行う場合，および学内学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

## 任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては，保険と共済の2つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は，(株)慶應學術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先 (株)慶應學術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

## 学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません）

次に従って提出してください。

### 1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

### 2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

### 3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも，後日必ず学生生活支援窓口に出してください）。

大学に対する要望カードは，大学における今後の研究・教育・学生生活において，改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で，教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと，思ったことで大学に対する要望がありましたら，学生カードに連なる同じカードに記入し，学生総合センター学生生活支援窓口に出してください。

## X 定期健康診断について

定期健康診断は，学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

学則第 179 条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。  
未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

## XI 緊急時における授業の取扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取扱いは次のとおりとします。

### 1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取扱い

#### 【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

#### 【対象路線】

- ・山手線 ・中央線（東京－高尾間） ・京浜東北線（大宮－大船間）
- ・東急（電車に限る）

のいずれか 1 路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとします。

#### 【時間・対応策】

1. 午前 6 時 30 分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前 8 時までに運行を再開した場合は、第 2 時限から授業を行います。
3. 午前 10 時 30 分までに運行を再開した場合は、第 3 時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第 4 時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

#### 【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

※ 交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

### 2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱いは下記のとおりとします。

[1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

## XII 早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は 1 時限のみとし、2 時限以降は応援のため休講とします。

（3 回戦以降もこれに準じます）。

雨天等により試合が中止になる時は、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス TEL 03-3236-8000

# 履修申告のしかた

## 1. 履修申告について

### (1) 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、両方法を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ、メッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、本人宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください）。

### (2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、2004 年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し「履修要項」「履修申告のしかた」（本項）を熟読して、申告してください。特に誤登録、申告漏れ等によって不都合が生じることがあります（進級・卒業に影響する場合があります）ので十分に注意してください。

原則として、申告期間後は、履修科目の変更・追加・取消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分にする事となります。（学則第188条）

### (3) 学事 Web システムによる申告日程

4 月 14 日（木）10 時～4 月 16 日（土）13 時

※期間中は何回でも履修の修正が可能です。最終日に初めて申告するのではなく、なるべく早いうちから申告を行うようにしてください。ただし、毎日午前 4 時から 1 時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止しています。

### (4) 履修申告用紙による履修申告日（履修申告用紙提出日）

4 月 15 日（金）8 時 30 分～18 時 10 分 学事センター前受付ボックス

(5) 履修に関する疑問点、その他については履修申告の前日までに、学習指導担当または学事センター窓口にお問い合わせください。

(6) 履修申告科目確認表（履修申告した授業科目のリスト）は 5 月上旬に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）で、この期間経過後は確認は終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

(8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

## 2. 外書演習・外国語特殊・外国語演習 S・専門演習の事前登録および関連課題研究 D の履修者数調整について

専攻科目Ⅲ類のうち外書演習・外国語特殊・外国語演習 S・専門演習については、履修申告の前に事前登録が必要です。事前登録を怠ると履修できませんので十分注意してください。あわせて別紙「専攻科目Ⅲ類ガイダンスについて」および「専攻科目Ⅲ類履修希望クラスの申告について」を参照してください。また、関連課題研究 D についても、履修者数の事前調整を行う予定です。詳細は初回の授業に必ず出席して確認してください。

## 3. 分野の選択について

履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（従来の A 欄申告）と、各自分野を選択しなければならない場合があります（申告の際は 2 桁の B 欄分野番号を登録します）。

〈登録番号のみで自動的に分野が登録される科目（従来の A 欄申告、通常はこちら）〉

・ 商学部 3・4 年設置の授業科目
・ 商学部 1・2 年設置の授業科目（日吉設置）
・ 履修案内 37 ページに掲載の他学部設置総合教育科目*
・ <u>（自主選択科目として登録する）</u> 「全学部共通 外国語科目履修案内」に掲載の他学部設置科目*
・ <u>（自主選択科目として登録する）</u> 諸研究所（センターを含む）設置科目
○教職課程センター設置科目は「自由科目Ⅱ」として登録されます。
○体育研究所設置科目は「総合教育科目Ⅳ類」として登録されます。
○諸研究所（センターを含む）設置科目を関連科目や自由科目で登録したいときは B 欄分野番号を登録して申告してください。（次頁参照）

※ 次頁〈分野を選択する場合〉の表のうち自主選択科目の欄も参照してください。

〈分野を選択する場合（2桁のB欄分野番号を登録）〉

・下表に示される科目を履修する場合は **B欄** で申告し、その際分野欄には2桁の **B欄分野番号** を登録してください。

科目種類		授業科目	B欄分野
専攻科目 IV類	関連科目	他学部および諸研究所（センター等を含む）に設置されている科目で教授会が適当と認める授業科目 (29 ページ参照)	41
自主選択 科目	第3・4学年 配当科目	外書演習(2) 外国語特殊(2) 外国語演習S(2) 専門演習(2) (ただし、自主選択科目として履修する場合) 他学部設置の授業科目（前頁の※の科目は除く）	51
自由 科目	自由科目 I (*卒業単位 には含まれ ません)	○商学部設置科目（必修科目は、履修を許可された場合のみ） ○他学部設置の授業科目 ○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○体育研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○知的資産センター設置講座 ○外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部に設置されていない外国語（2005年度は対象科目無し）	60
	自由科目 II (*卒業単位 には含まれ ません)	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設 置講座 ○教育免許取得のために履修する教職課程授業科目	61

#### 4. 学事 Web システムの利用方法

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の5つの機能があります。

- ① 履修申告（履修申告期間中は、何度でも修正できます）
- ② 登録済科目確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます）
- ③ 休講・補講情報
- ④ パスワード変更
- ⑤ 受付確認メールの送付先アドレス変更

また、携帯電話（i-mode のみ）では上記のうち、③休講・補講情報の確認、④パスワード変更、を行うことができます。

#### … 注 意 …

学事 Web システムは、4月1日（金）から休講情報の確認ができます。必ず4月7日（木）までにログインできることを確認してください。もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（木）16時30分までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2004年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は2005年3月に送付した成績表に印字されています）

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC。大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます）

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

(学事 Web システムのユーザー名)      学籍番号  
(Windows アカウントのユーザー名)      f\*\*\*\*\*

## (1) 学事Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作をしないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。各種設定方法や履修エラーメッセージ詳細説明, Q&A (質問回答集), Web 履修にあたっての注意事項 (地区/学部別) については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ ([http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index\\_br\\_top.html](http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html)) からのリンクを参照してください。

## (2) 履修の申告

2005 年度の学事 Web システムを利用しての履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下のとおりです。

日程：4 月 14 日 (木) 10 時～16 日 (土) 13 時  
学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締切りまでに再申告 (申告の修正) を行ってください。

### ① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。  
履修申告は「インターネットエクスプローラ」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



### ② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法 (特にログインできない場合などの解説) や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



### ③ ログイン

「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログインできない時は」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

### ④ トップメニュー画面

右の画面 (トップメニュー画面) の「メールアドレス登録・変更」から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを2箇所入力し (再入力欄にも同じものを入力する)、[登録] ボタンをクリックしてください。

(学事センターからの連絡や呼出しなどがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります)

(注意) 学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて、学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しています。履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。

学事 Web システムには学校配付のメールアドレス (\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp 等) を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。

※ メールアドレスのユーザー名 (例: '\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp' の \*\*\*\*\* 部分) は変更できません。またユーザー名のみ登録しても届きません。ご注意ください。

### ⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

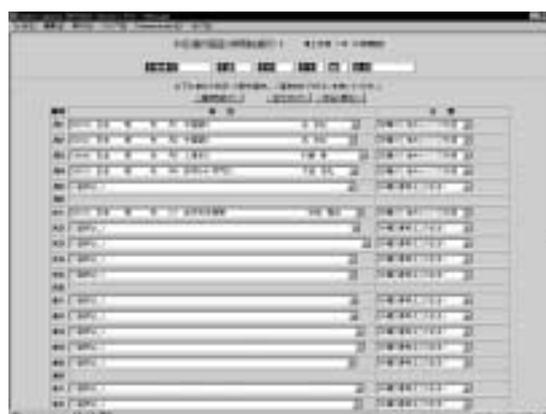
### ⑥ 科目の選択

右の画面が「履修申告メイン画面」になります。(a) と (b) の2通りの方法で科目の選択ができます。

#### (a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください (初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています)。

科目選択画面 (時間割選択) が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他学部の科目を履修する場合などで、分野を「A 欄」以外で選択する場合は前項「3. 分野の選択について」(16・17 ページ) をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



### (b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、履修書類配付時に配付された時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押してください。

※ (a) (b) いずれの方法も、分野（A・B欄）の選択方法は同じですので、「3. 分野の選択について」（16・17ページ）を参照してください。

※ (a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

※ 「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。



### ⑦ 選択した科目の確認

⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。（選択直後は〈状態〉欄に「未登録」として表示されます）



### ⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。

### ⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の[登録] ボタンを押してください。⑥および⑧で行った内容はこの[登録] ボタンを押すまで有効になりません。

### ⑩ 登録結果表示の確認

履修申告メイン画面の[登録] ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます（エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」のSTEP 2の横にある「エラーの詳細説明」をクリックし、参照してください）。右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。さらに、上部の「現在の登録状況」に必要条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控えとしてプリントアウトしておくことをお勧めします。



登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手順を再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ ここで Web ブラウザーを終了しないでください。（ブラウザの右上の×印をクリックして閉じないでください）

### ⑪ 受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、④で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。

④でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し[指定する] ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送

信されます（この場合は、メールアドレスの登録はされません）。[指定しない] ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配付のメールアドレスを指定するようにしてください（④参照）。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。

すべての作業終了後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

### (3) 登録済科目確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます（確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。http://www.gakuji.keio.ac.jp/）。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述 (2) の④（トップメニュー画面）までは、同様の操作です。画面上の、[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

### (4) 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、以下のページおよび各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

（塾生ページ URL） <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

#### [ブラウザ編]

- ① (2) の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。
- ② (2) の④（トップメニュー画面）の画面から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常通り実施する）科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

#### [i-mode 編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力（詳しくは携帯電話の説明書をお読みください）し、(2) の①の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくとも便利です。（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください）
- ② [サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。
- ③ 「学籍番号」と (2) で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
- ④ この画面から [休講情報] あるいは [補講情報] ボタンを押してください。  
※パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の (5) を参照してください。
- ⑤ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

### (5) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってくだ

さい。

- ① 前述(2)の④(トップメニュー画面)の画面から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所入力後(再入力欄にも同じものを入力する)、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

#### 【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください(大文字/小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するためのWindows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください(17 ページ「注意」参照)。



## 5. 履修申告用紙(マークシート)での申告について

Web による履修申告がやむをえずできない場合には、以下の日程で履修申告用紙(マークシート)を配付します。以下の提出日を過ぎると申告用紙での申告はできません。

#### 履修申告用紙配付日・場所

4月11日(月)・12日(火) 学事センター

#### 履修申告用紙提出日・場所

4月15日(金) 8時30分～18時10分 学事センター前受付ボックス

履修申告用紙記入の際は、以下の点に注意してください

- (1) 授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。  
1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。  
集中講義等、曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできませんので注意してください。  
また、商学部設置科目のうち、他学部・諸研究所と併設している科目(30ページ参照)については、必ず商学部の設置科目を履修しなければなりません。商学部の時間割の登録番号で登録してください。
- (2) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記、記入漏れがないように、丁寧に記入してください。  
特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。
- (3) 学籍等の記入方法  
学部、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。
- (4) A 欄記入上の注意事項(16ページの〈登録番号のみで自動的に分野が登録される科目〉を申告)  
ア 形態欄: その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を○で囲み、曜日・時限を記入します。  
イ 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。  
ウ 登録番号欄: 履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し、マークします。
- (5) B 欄記入上の注意事項  
ア 形態欄: その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を○で囲み、曜日・時限を記入します。  
イ 科目名・教員名を記入します。  
ウ 登録番号欄: 履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し、マークします。  
エ 分野欄: 2桁の履修申告用紙B欄分野番号を記入し、マークします。(17ページの〈分野を選択する場合〉を参照)
- (6) 「無効マーク」(A 欄・B 欄に共通)にマークすると、その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。
- (7) 履修申告用紙の再交付について
  - ① 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センター窓口に出してください。
  - ② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に出してください。

# 履修要項

## I 開講科目と単位数

2005年度に商学部が三田に設置する科目と単位数は次のとおりです。授業には週1回開講される通年科目、春学期または秋学期のみに毎週2回開講される集中科目、および週1回の春学期または秋学期のみの半期科目があります。

### 1. 総合教育科目

分類	科目名	単位数
I類	宇宙と人間	4
II類	人間と音楽Ⅰ	2
	人間と音楽Ⅱ	2
	人の尊厳（社会と人権）	2
III類	西洋文明学説史	4
	日本文明学説史	4
	総合教育セミナー（III類）	2

### 2. 専攻科目

#### (1) III類

科目名	単位数
外書演習	2
外国語特殊（ドイツ語口語表現）	2
外国語特殊（フランス語上級－講読）	2
外国語特殊（フランス語上級－演習）	2
外国語特殊（中国語中・上級）	2
外国語特殊（スペイン語）	2
外国語演習S（英語）	2
関連課題研究D	4
専門演習	2
専門外国書研究（独書）	2
専門外国書研究（仏書）	2
研究会	8または4

※他学部設置の研究会は専攻科目III類として履修することはできません。

#### (2) IV類

##### ① 専攻分野に関する科目

（注）次の表で備考欄が空白の科目は通年科目です。

なお、各論的科目は今年度開講されていても来年度必ずしも開講されるとは限りません。

特定期間集中の科目は、掲示板でその期間を確認してください。

分野		科目名	単位数	備考
経営	A 経営	《総論の科目》		
		現代企業経営論	4	
		経営管理論	4	
		経営学説史	4	
		《各論の科目》		
		現代企業経営各論（企業形態）	2	秋学期
		現代企業経営各論（企業倫理）	2	春学期
		現代企業経営各論（経営情報論）	2	春学期
		現代企業経営各論（経営組織）	2	春学期
		現代企業経営各論（組織文化論）	2	秋学期
現代企業経営各論（比較経営論）	2	秋学期		
経営管理各論（経営計画）	2	春学期		
経営学説史各論		休講		
会計	B 会計	《総論の科目》		
		財務会計論	4	
		管理会計論	4	
		会計史	4	
		《各論の科目》		
		財務会計各論（会計測定論）	4	
		財務会計各論（国際会計論）	2	春学期
		財務会計各論（財務諸表論）	2	春学期
		財務会計各論（資産会計論）	2	秋学期
		財務会計各論（デリバティブ会計論）	2	春学期
		財務会計各論（新会計基準概論）	2	秋学期
		財務会計各論（時価主義会計論）	2	秋学期
		財務会計各論（非営利法人会計論）	2	春学期
		会計監査各論（公認会計士による財務諸表監査）	2	秋学期
		会計監査各論（実態監査と情報監査）	2	春学期
		管理会計各論（原価管理論Ⅰ）	2	春学期
管理会計各論（原価管理論Ⅱ）	2	春学期		
管理会計各論（原価計算論）	4			
会計史各論		休講		
商業	C 商業	《総論の科目》		
		マクロ・マーケティング論	4	
		ミクロ・マーケティング論	4	
		《各論の科目》		
		マクロ・マーケティング各論（マーケティング学説史）	2	春学期
		マクロ・マーケティング各論（マーケティング史）	2	秋学期
		マクロ・マーケティング各論（流通論）	2	春学期
		ミクロ・マーケティング各論（グローバル・マーケティング論）	2	秋学期
		ミクロ・マーケティング各論（広告論）	2	秋学期
		ミクロ・マーケティング各論（消費者行動論）	2	春学期
		ミクロ・マーケティング各論（製品開発論）	2	春学期
		ミクロ・マーケティング各論（マーケティング経済学）	2	秋学期
ミクロ・マーケティング各論（マーケティング・リサーチ）	2	秋学期		
産業界・経済	D 国際経済	《総論の科目》		
		国際経済学	4	
		世界経済論	4	
		国際金融論	4	
		《各論の科目》		
国際経済学各論（国際経済政策論）	2	春学期		

経済 ・ 産 業		国際経済学各論（マイクロ貿易論）	2	秋学期	
		世界経済各論（中国経済論）	2	秋学期	
		国際金融各論（国際金融システム論）	2	秋学期	
	E 計量経済	《総論的科目》			
			理論経済学Ⅱ	4	春学期集中
			経済政策	4	
			経済統計	4	
			計量経済学	4	春学期集中
		《各論的科目》			
			理論経済学各論（応用マイクロ経済学）	2	春学期
			経済政策各論		休講
			経済統計各論（産業関連論）	2	春学期
			経済統計各論（数理統計基礎）	2	春学期
		計量経済学各論（応用計量経済学）	2	春学期	
	F 金融・保険	《総論的科目》			
			金融論	4	
			財政学	4	
			証券経済論	4	
			保険学	4	
		《各論的科目》			
			金融各論（企業金融論）	2	秋学期
		金融各論（資本市場論）	2	春学期	
		財政学各論		休講	
		証券経済各論（証券制度論）	2	秋学期	
		保険学各論（生命保険論）	2	春学期	
		保険学各論（損害保険論）	2	春学期	
		保険学各論（保険経営論）	2	秋学期	
	保険学各論（保険数理論）	2	秋学期		
	リスク・マネジメント各論（現代社会とリスク）	2	秋学期		
G 産業・交通	《総論的科目》				
		産業組織論	4	春学期集中	
		サービス経済学		休講	
		交通経済論	4		
	《各論的科目》				
		産業組織各論（規制の経済学）	2	春学期	
		産業組織各論（産業組織と企業戦略）	2	春学期	
		産業組織各論（社会問題の経済学）	2	秋学期	
	サービス経済学各論（非営利組織の経済学）	2	秋学期		
	交通経済各論（経済地理）	4			
	交通経済各論（国際交通論Ⅰ）	2	春学期		
H 労働・社会	《総論的科目》				
		労働経済学	4		
		産業関係論	4		
		産業社会学	4		
		組織心理学	4		
		社会保障論	4	春学期集中	
	《各論的科目》				
		労働経済学各論		休講	
		産業関係各論（労務管理論）	4		
		産業社会学各論（経営社会学）	4		
	組織心理学各論		休講		
	社会保障各論		休講		

経 済 ・ 産 業	I 産業史 ・経営史	《総論的科目》		
		産業史	2	春 学 期
		経営史	2	春 学 期
	《各論的科目》			
		産業史各論（科学技術政策史）	2	春 学 期
		産業史各論（日本産業史Ⅰ）	2	秋 学 期
		産業史各論（比較小売業史）	2	秋 学 期
	経営史各論（アメリカ経営史）	2	春 学 期	
	経営史各論（日本経営史）	2	春 学 期	

② その他の科目

科 目 名	単位数	備 考
企業の社会的責任（CSR）を考える（寄附講座）	4	
21世紀のマネジメント（特別講座）	2	秋 学 期
数学各論（確率解析）	2	秋 学 期
数学各論（経済数学基礎）	2	春 学 期
数学各論（ゲーム理論）	2	春 学 期
数学各論（最適化理論）	2	秋 学 期
情報処理Ⅲ（電子計算概論）	4	
情報処理Ⅳ		休 講
法学各論（民法Ⅰ）	4	
法学各論（民法Ⅱ）	4	
法学各論（商法Ⅰ）	4	
法学各論（商法Ⅱ）	4	
法学各論（経済法）	4	春学期集中
法学各論（労働法）	4	
ジャパニーズ・エコノミー	2	春 学 期
経済学史	4	
環境の経済・経営・商業・会計	2	春 学 期
イノベーションの経済・経営・商業・会計	2	春 学 期
非営利組織の経済・経営・商業・会計	2	秋 学 期
戦略の経済・経営・商業・会計	2	秋 学 期

3. 自主選択科目

科 目 名	単位数	備 考
中国語第 XX（表現練習）	2	
イタリア語	2	
ロシア語	2	
朝鮮語（初級）	2	
朝鮮語（中級）	2	
アラビア語	2	
ギリシャ語	2	
ラテン語	2	

※専攻科目の科目名について

履修案内その他において「～各論」と表記されている科目について、学部学則では「～各論Ⅰ」・「～各論Ⅱ」と表記しています。繁雑さを避けるため通常使用するに当たっては「～各論」という表記に統一します。

## II 卒業および進級所要単位数

「学部学則」をあわせて参照してください。

### 1. 卒業所要単位数

授業科目の種類			所要単位数
総合教育科目	I類	6単位以上必要  4単位まで算入	20
	II類		
	III類		
	IV類		
外国語科目	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語のうちから2か国語各8単位		16
基礎科目	I類	6	14
	II類A群	4	
	II類B群	2	
	II類C群	2	
専攻科目	I類	4	12
	II類	8	
	III類	2単位以上必要 } 46	46
	IV類		
自主選択科目	所要単位		
	第1・2学年	8単位 (第1・2学年で履修合格したもの)	8
	第3・4学年	12単位 (第3・4学年で履修合格したもの)	12
(この所要単位数には総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した単位は、自動的に、自主選択科目として算入されます。また、履修学年には充分注意してください。)			
合 計			128
◇第4学年における必要取得単位数.....			12単位以上
◇第3・第4学年を通じて履修し合格しなければならない単位数.....			58単位
(内訳：専攻科目Ⅲ・Ⅳ類と第3・4学年の自主選択科目)			
(不合格のため再履修した第1・2学年配当の必修科目および所定単位不足の選択科目(総合教育科目、基礎科目Ⅱ類、専攻科目Ⅰ・Ⅱ類)は、この58単位に含まれません)。			

- 1) 関連科目は専攻科目Ⅳ類のなかに8単位まで卒業所要単位として算入されます。
- 2) 自主選択科目については、上の表の内訳にあるように、3・4年では12単位分その枠が用意されています。  
商学部が自主選択科目として設置している科目をそのまま履修する他に、他学部や諸研究所の科目を自主選択科目として履修する、又は勉強をさらに深めたい者は、総合教育科目・基礎科目・専攻科目の内必須とされている単位数以上に履修し合格した場合、その単位は12単位を上限に、自動的に自主選択科目として算入されます。
- 3) 第4学年においては最低12単位以上、第3・4学年を通じて58単位以上履修し、合格しなければなりません。
- 4) 自由科目は卒業所要単位には算入されません。

### 2. 第4学年への進級所要単位数

第4学年に進級するためには専攻科目Ⅲ類、専攻科目Ⅳ類、および関連科目、総合教育科目、自主選択科目のうちから最低12単位履修合格しなければなりません。1単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。

※自由科目は進級所要単位には算入されません。

※関連科目は、何単位履修合格しても卒業・進級単位に算入される単位は、第3・4学年あわせて8単位までです。

※総合教育科目Ⅳ類(体育科目)は何単位合格しても卒業・進級単位に算入される単位は第1~4学年あわせて4単位までです。すでに第1・2学年でⅣ類を取得している場合は、第3学年で取得した4単位を超える分は、進級単位に算入されません。

### 3. 学士入学者

#### (1) 卒業所要単位数

授業科目の種類			単位数
専攻科目	I類	4	12
	II類	8	
	III類	2単位以上必要 } 46	46
	IV類		
自主選択科目	12単位まで算入		12
合計			70
◇第4学年における必要取得単位数……………			12単位以上

- 1) 関連科目は専攻科目IV類のなかに8単位まで卒業所要単位として算入されます。
- 2) 自主選択科目は第3・4学年において履修した専攻科目のうち12単位の範囲内で上記の所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることができます。
- 3) 自由科目は卒業所要単位には算入されません。

#### (2) 第4学年への進級所要単位数

第4学年に進級するためには専攻科目I類、専攻科目II類、専攻科目III類、専攻科目IV類、および関連科目（何単位履修合格しても第3・4学年あわせて8単位までしか算入されません）、自主選択科目のうちから最低24単位履修合格しなければなりません。1単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。自由科目は進級所要単位には算入されません。

## III 履修方法

### 1. 最高履修単位数について（三田）

1か年に履修できる単位数の最高限度は50単位です。限度を超過して申告した履修科目は無効です。ただし、次の科目の単位数はこれに含まれません。

- (1) 不合格のために再履修する第1・2学年配当の必修科目（外国語科目、基礎科目I類）および単位不足の選択科目（基礎科目II類、専攻科目I・II類）。なお、選択科目のうち、単位不足の分については制限外ですが、余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。
- (2) 総合教育科目。ただし、(1)と同様、単位不足の分については制限外ですが、余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。
- (3) 自由科目I  
8単位以内に限り履修できます。対象科目は36ページを参照してください。
- (4) 自由科目II  
単位数の制限はありません。対象科目は36ページを参照してください。

### 2. 研究会の履修について

研究会を履修する学生は、志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け、担当者に入会許可を得なければなりません。また、第3・4学年を通じて履修するものですが、第4学年でのみ8単位として履修単位数に算入されます（第3学年では履修単位数に算入されません）。ただし、履修申告は第3学年では「研究会（3年）」を、第4学年では「研究会（4年）」をそれぞれ申告しなければなりません。なお、研究会を退会した場合は、学事センターに申し出てください。

（他学部の研究会について）

他学部の研究会を履修する際は関連科目・自主選択科目・自由科目Iのいずれかで登録してください。専攻科目III類として履修することはできません。

### 3. 専門演習の履修について

商学部設置の研究会を履修している人は、専門演習を専攻科目III類として履修することはできません。自主選択科目として履修してください。（外書演習・外国語特殊・外国語演習Sは専攻科目III類として履修することができます）

### 4. 自主選択科目の履修について

- ① 自主選択科目は商学部が自主選択科目として設置している科目、および他学部（諸研究所やセンター等を含む）設置科目のうち商学部設置科目と同一名称の科目および商学部と併設されている科目を除いたものから選択できます。ただし、第3・4学年をあわせて12単位まで進級・卒業所要単位数に算入されます。

また、第3・4学年において履修した商学部設置科目のうち卒業所定単位数を超えて履修合格した単位を12単位の範囲内で充てることもできます。この場合は改めて自主選択科目として履修申告する必要はありません。なお、「7.重複履修について」の項も参照してください。

- ② 自主選択科目として外書演習・外国語特殊・外国語演習S・専門演習を履修する場合は、専攻科目の外書演習・外国語特殊・外国語演習S・専門演習とは区別してB欄で履修申告してください。ただし、専攻科目として申告したクラスが不合格で自主選択科目として申告したクラスが合格した場合には、そのクラスを専攻科目に振り替えることはできません。また、自主選択科目として希望するクラスに、専攻科目としての希望者が多い場合は専攻科目の希望者を優先します。
- ③ 他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や関連科目としても履修できますが、履修申告時に自由科目や関連科目として申告した科目を後に自主選択科目に振り替えることはできません。

## 5. 関連科目の履修について

三田設置の他学部および諸研究所（センター等を含む）の科目のうち、商学部設置科目と同一名称の科目および商学部併設されている科目を除いたもので、総合教育科目および外国語科目以外の科目でなくてはなりません。関連科目として認められない科目は、自由科目Iとして登録される場合もありますので注意してください。

第3・4学年を通じて8単位までが専攻科目IV類として進級・卒業所要単位に算入されます（8単位を超えた分は、自主選択科目としても算入されません）。ただし、履修単位数は、すべて履修単位数制限に算入されますので注意してください。なお、他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や自主選択科目としても履修できますが、履修申告時に自由科目や自主選択科目として申告した科目を後に関連科目に振り替えることはできません。

## 6. 他学部・諸研究所・他地区の履修について

他学部および諸研究所（センター等含む）設置科目を履修する場合、各学部および共通掲示板で履修不可の科目が無いかを確認したうえで、事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を得てから（承認印は不要。口頭承認で可）履修申告してください。諸研究所科目では、事前に手続きが必要なものもありますので、履修案内で確認して必ず済ませておくようにしてください。他学部・諸研究所科目の履修申告の際には、分野の指定が必要になる場合があります。詳細は、16・17ページの「3.分野の選択について」の項を参照してください。

日吉設置科目を履修する場合は、三田の設置科目と時間が重複しないように注意してください。特に、時限が連続（例 1時限三田，2時限日吉）した履修は不可能ですので注意してください。なお、昼休みを挟んだ場合は可とします。その他の地区の科目を履修する場合も移動時間を十分考慮のうえ履修計画を立ててください。移動不可能と思われる履修申告をした場合は三田の履修科目を無効とします。定期試験は授業時間割と異なる時間帯で試験が行われることがありますので、試験時間割が他の地区の科目と重複することがあります。その場合の取扱いについては試験時間割発表時に掲示しますので、確認して所定の手続きをとってください。

## 7. 重複履修について

- ① 曜日、時限を重複して履修した授業科目は無効です。
- ② 同一名称の科目は、同一学年内および学年が異なっても重複して履修することはできません（原則として担当者が異なっている場合でも不可）。ただし、以下の例外があります。

- ・一方の科目を自由科目Iとして履修申告すれば、重複履修が認められます。ただし、自由科目Iは進級卒業所要単位に算入されません。履修申告時に自由科目Iとして申告した科目の分野を後に変更することもできません。
- ・自主選択科目として履修可能な外国語科目は科目名が同じでも担当者が異なれば履修を認めます。科目名と担当者が同じでも内容が異なる場合には担当者の承認を得ることを条件に履修を認めます。外書演習・外国語特殊・外国語演習S・専門演習は担当者が異なる場合に限り、担当者の承認を得ることを条件に自主選択科目としての履修を認めます。詳細は「4.自主選択科目の履修について」の項を参照してください。
- ・進級不合格者が前年度に単位を取得した科目の成績評価はすべて認められますが、同じ科目を履修上限の50単位の枠内で再履修することもできます。この場合評価の良い方がその科目の成績評価として記録されます。ただし自由科目Iとして単位を取得した科目の再履修はできません。
- ・総合教育科目については、例えば「歴史」と「歴史I」・「歴史II」，「歴史a」・「歴史b」は、同一名称の科目とみなすため重複履修できません。ただし、総合教育科目II類の諸科目は担当者が異なれば重複履修可能です。同じ担当者の場合は原則重複履修が認められませんが、必要な許可を受ければ履修が可能になります。なお、IV類の体育実技科目も同名科目を重複履修することができます。

- ③ 商学部と他学部と同じ名称の科目が設置されている場合には、商学部が設置している科目のみ履修することができます。  
(例：文学部設置「宗教学」、経済学部・法学部設置「金融論」「経営学」、経済学部設置「産業組織論」「産業社会学」、法学部設置「経済政策」。これらの他学部科目は履修できません。履修申告は無効となります。)

ただし「研究会」については、志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け、授業担当者の入会許可を得られれば、他学部のものも履修できます（商学部の「研究会」と他学部の「研究会」の重複履修も可能です）。

- ④ 商学部と他学部とで併設されている以下の科目を履修する場合は、たとえ科目名が異なっても商学部の設置科目を履修しなければなりません。

商学部設置科目	他学部併設科目（他学部での科目名）
経済統計	(経済学部) 経済資料論
交通経済各論（経済地理）	(経済学部) 経済地理
経済学史	(経済学部) 経済学史 I
財務会計論	(経済・法学部) 会計学
法学各論（労働法）	(経済・法学部) 労働法
国際経済学	(法学部) 国際経済論
世界経済論	(法学部) 国際経済論
法学各論（経済法）	(法学部) 経済法
総合教育セミナー（Ⅲ類）	(国際センター) 日本の金融ビッグバン

- ⑤ 以下の科目は同一名称とみなされる科目の一覧です。同一名称とみなされる科目を重複して履修する場合、両方を卒業単位に含めることはできません。どちらか一方を自由科目として登録してください。

商学部設置科目	同一名称とみなされる他学部設置科目
簿記論	(経済学部) 簿記
経済政策	(経済学部) 経済政策論
計量経済学	(経済学部) 計量経済学 I
財政学	(経済・法学部) 財政論
労働経済学	(経済・法学部) 労働経済論
法学各論（民法Ⅰ）	(経済・法学部) 民法Ⅰ
法学各論（民法Ⅱ）	(経済・法学部) 民法Ⅱ
法学各論（商法Ⅰ）	(経済・法学部) 商法Ⅰ
法学各論（商法Ⅱ）	(経済・法学部) 商法Ⅱ

## 8. 第 1・2 学年の不合格科目の履修について

### (1) 日吉でのガイダンスについて

必修の外国語科目に不合格がある者は、三田には特修授業等は設置されていませんので、日吉設置の授業科目を履修しなければなりません。「商学部外国語科目履修案内」をあわせて参照してください。なお、以下のとおり日吉でガイダンスを行いますので必ず出席してください。

4月5日（火）13：00～14：30

英語・ドイツ語履修者	23 番教室
英語・フランス語履修者	J21 番教室
英語・中国語履修者	J24 番教室
英語・スペイン語履修者	26 番教室

- (2) 不合格のために再履修する第 1・2 学年設置の以下の必修科目は第 3 学年で履修することを原則とします。第 3 学年で単位が取得できない場合、第 4 学年で履修しなければなりません。授業時間割が重複したり、定期試験で日吉・三田の試験が重複して受験できず卒業できなくなることがありますので注意してください。

- 外国語科目 2 か国語 16 単位
- 基礎科目Ⅰ類 6 単位
- 基礎科目Ⅱ類 A 群 4 単位、Ⅱ類 B 群 2 単位、Ⅱ類 C 群 2 単位
- 専攻科目Ⅰ類 4 単位、Ⅱ類 8 単位

なお、総合教育科目は卒業までに 20 単位必要になりますが、第 3 学年での履修の仕方および成績によっては、第 4 学年に進級できても第 4 学年の履修申告時点で卒業できないことが決定する場合があります。卒業所要単位を考慮に入れて誤りがないよう十分に注意してください。

### ※新カリキュラム導入に伴う注意事項

商学部は 2005 年度入学者より新カリキュラムが導入されました。ただし、2004 年度以前の入学者のみ皆さんの卒業・進級条件は変わりません。第 1 学年の不合格科目を再履修する際には、「2004 年度以前入学者用」の時間割で履修クラスを確認するようにしてください。

また、日吉設置の総合教育科目は半期科目移行に伴い、以下のように多くの科目名が変更となっています。

[総合教育科目 半期科目移行に伴う科目の見方]

- ・科目名の末尾に I, II がつくもの  
半期完結型科目で成績は, I が春, II が秋にそれぞれにつきます。  
先習条件※がある場合やセットでの履修が推奨されている場合もありますので, シラバスで確認してください。  
※「〇〇II」を履修するには, 原則として「〇〇I」を履修しなければならない。
- ・科目名の末尾に a, b がつくもの  
セット履修しなければいけない科目で, a, b いずれも成績は学年末につきます。
- ・科目名に D, S がつくもの  
科目名の D は通年もしくは半期集中科目で 4 単位, S は半期科目で 2 単位になります。

※科目廃止に伴う注意点

- ①「商学概論」は以下の科目を読み替え科目としますので, 単位未取得者は以下の 5 科目の中から選択してください。

基本簿記と財務諸表の見方  
経営学 (環境と戦略)  
経営学 (組織と管理)  
商業学 I  
商業学 II

なお以下の表のとおり履修出来ないケースもありますので注意してください。

	経営学既習者もしくは履修希望者	商業学既習者もしくは履修希望者
基本簿記と財務諸表の見方	○	○
経営学 (環境と戦略)	×	○
経営学 (組織と管理)	×	○
商業学 I	○	×
商業学 II	○	×

○は履修可, ×は履修不可

- ②「社会科学の考え方」

履修希望者は以下の科目のいずれかを選択し, 通年セットで履修してください。

社会科学概論 I・II (小野修三) (セット履修)

近代思想史 I・II (小野修三) (セット履修)

ただし, 成績は 1 科目通年 4 単位として取り扱われます。

- ③時間割の見方

時間割には, 以下のように表記されます。

商学概論 (基本簿記と財務諸表の見方)

商学概論 (経営学 (環境と戦略))

商学概論 (経営学 (組織と管理))

商学概論 (商業学 I)

商学概論 (商業学 II)

社会科学の考え方 (社会科学概論 I・II)

社会科学の考え方 (近代思想史 I・II)

- (3) 中国語第Ⅲが不合格の場合, 日吉設置の特修クラス中国語第 X を履修しなければなりません。中国語第 X は 2 つ設置されますが, クラス指定になります。履修者は, 学事センターで自分の履修クラスを確認してください。なお, クラス変更に関する注意事項および所定の用紙は学事センター窓口で配付しています。間違ったクラスで履修した場合, 成績がつかませんので, 十分に気を付けてください。

## 9. 学士入学者の履修について

上記の事項とあわせて次の事項にも注意してください。

- ① 学士入学する以前の学部において取得した単位を認定する場合がありますので認定を希望するものは学習指導に申し出てください。
- ② 学士入学する以前の学部における履修状況により, 学習指導が商学部の必修科目 (基礎科目 I 類) の商学概論, 経済学を自主選択科目 12 単位のうちで, 履修を指定する場合がありますので学士入学者は 4 月に必ずガイダンスを受けてください。

## IV その他

### 1. 退学処分について

- ① 4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。
- ② 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できないときなどには学則第188条により退学処分となります。

### 2. 再試験について

商学部学生に対しては再試験は行いませんので注意してください。

### 3. 学業成績について

学業成績の評語は、A, B, C, Dの4段階で示されます。A, B, Cは合格、Dは不合格です。所定の授業に出席し、評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。また、教授会が認めた特定の授業科目は、評語をP, Fの2種とし、Pを合格、Fを不合格とします。なお、他大学等で履修した科目の単位を認定した場合は、Gとします。

商学部所属の学生で履修した科目の成績評語に対して、確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者は、質問制度を利用することができます。詳細は、提出期限を掲示で確認のうえ、学事センター窓口にお問い合わせください。なお、提出期限を過ぎたものはいかなる理由があっても一切受け付けませんので注意してください。

V 商学部の分野番号表（下線のついてる科目は今年度開講されません）

科目種類 (括弧内は卒業所要単位数)	分野	授業科目	申告欄	B欄分野	
総合教育科目 (20単位以上)	I 類 (6単位以上)	01-01-01	心理学(4) 心理学I・II(各2) 地学(4) 地学I・II(各2) 地学a・b(各2) 天文学(4) 天文学I・II(各2) 天文学a・b(各2) 宇宙の科学(2) 生命の科学(2) 宇宙と生命(4) 宇宙と人間(4) 人類学(4) 人類学I・II(各2) 生命現象の分子科学(2) 動物の科学(2) 植物の科学(2) 健康科学(2) 自然人類学(2) 生態学(2) 地球科学概論(2) 基礎の数学(2) 現代化学概論(2) 現代生物学概論(2)	A 欄	
		01-01-02	物理学(6) 物理学I・II(各3) 化学(6) 化学I・II(各3) 生物学(6) 生物学I・II(各3)		
		01-01-03	総合教育セミナー(I類)(2または4) 総合教育セミナーS(I類)(2) 総合教育セミナーD(I類)(4)		
	II 類	01-02-01	哲学(4) 哲学I・II(各2) 哲学a・b(各2) 倫理学(4) 倫理学I・II(各2) 倫理学a・b(各2) 論理学(4) 論理学I・II(各2) 論理学a・b(各2) 宗教学(4) 宗教学I・II(各2) 宗教学a・b(各2) 歴史(4) 歴史I・II(各2) 歴史a・b(各2) 科学史(2) 科学史I~IV(各2) 文学(4) 文学I・II(各2) 文学a・b(各2) 漢文(4) 漢文a・b(各2) 国語国文(4) 国語国文I・II(各2) 国語国文a・b(各2) 音楽(4) 音楽I・II(各2) 音楽a・b(各2) 美術(4) 美術I・II(各2) 美術a・b(各2) 民族音楽学(4) 地域研究(2または4) 経済人類学(4) 経済人類学a・b(各2) 言語認識論(2) 現代メディア論(2) 論理学序論(2) 論理学本論(2) 現代思想論(2) 現代芸術論(2) 身体文化論(2) 映像・音響文化論(2) 文化人類学(2) 造形・デザイン論(2) 地域文化論(2) 地域文化論I~IV(各2) 女性学(2) 現代日本史(2) 現代世界史(2) 言語・文化論(2) 言語・社会論(2) 地域生態文化論(2) 言語学(4) 言語学I~IV(各2) ジェンダー論I・II(各2) 住宅・建築史概論(2) 人の尊厳(社会と人権)(2) 人文総合講座(2) 中国事情(2) 人間と音楽I・II(各2)		
		01-02-02	法学(憲法を含む)(4) 法学I・II(憲法を含む)(各2) 政治学(4) 政治学I・II(各2) 社会学(4) 社会学I・II(各2) 社会学a・b(各2) 近代思想史(2または4) 近代思想史I・II(各2) 近代思想史a・b(各2) 地理学(4) 地理学I・II(各2) 地理学a・b(各2) 社会科学概論(4) 社会科学概論I・II(各2) 現代社会論(2) 日本の政治(2) 世界の政治(2) 社会心理学I・II(各2)		
		01-02-03	総合教育セミナー(II類)(2または4) 総合教育セミナーS(II類)(2) 総合教育セミナーD(II類)(4)		
	III 類	01-03-01	日本の産業と経営(2) 社会との対話I(2) 社会との対話II(2または4) 社会との対話D(4) 社会との対話S(2) 21世紀の実学(2)		
		01-03-02	放送文化とヴァチュアル・リアリティ(2) 情報文化とヴァチュアル・リアリティ(2) 地域と文化(4) 比較文化論(4) 比較文化論a・b(各2) 表象文化論(4) 表象文化論a・b(各2) 身体/感覚文化(2) 日本文明学説史(4) 西洋文明学説史(4) 自然とヒト(4) ラテンアメリカ研究(4) ラテンアメリカ研究a・b(各2) 文明学説史(4) 文明学説史I・II(各2) 戦争と社会(2) 近代日本と福澤諭吉(2) スタディ・スキルズI・II(各2) 生命の教養学(2) アカデミック・スキルズI・II(各2) 東アジアの中の近代日本(2)		
		01-03-03	総合教育セミナー(III類)(2または4) 総合教育セミナーS(III類)(2) 総合教育セミナーD(III類)(4)		
	IV 類 (4単位まで算入)	01-04-01	保健衛生(1) 体育理論(1) 体育学講義(2) 体育学演習(1)		
		01-04-02	体育実技I(1) 体育実技II(1) 体育実技A(1) 体育実技B(1)		
	外国語科目(計16単位)	第1学年 配当科目 (2か国語 各4単位)	02-01-01		
02-01-02			ドイツ語(各2)		
02-01-03			フランス語(各2)		
02-01-04			中国語(各2)		
02-01-05			スペイン語(各2)		
02-01-11			日本語(各2)		

外国語科目 (計16単位)	第2学年 配当科目 (2か国語 各4単位)	02-02-01	英語(各2)			
		02-02-02	ドイツ語(各2)			
		02-02-03	フランス語(各2)			
		02-02-04	中国語(各2)			
		02-02-05	スペイン語(各2)			
		02-02-11	日本語(各2)			
基礎科目	I類 (6単位)	03-01-01	商学概論(2) 経済学(4)			
		03-02-01	簿記論(4) 社会科学の考え方(4) 情報処理Ⅰ(4) 情報処理Ⅱ(4)			
	II類	B群 (2単位)	03-02-02	数学基礎(2) 線形代数(2) 微分法(2) 解析Ⅰ(2) 解析Ⅱ(2) 数理計画法(2)		
		C群 (2単位)	03-02-03	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2)		
(日吉設置) 専攻科目	I類 (4単位)	04-01-01	経済史(4) 社会経済学(4) 私法基礎(4)			
	II類 (8単位)	04-02-01	経営学(4) 会計学(4) 商業学(4) 理論経済学Ⅰ(4) 産業経済論(4)			
専攻科目 (三田設置) (Ⅲ・Ⅳ類 あわせて 46単位)	III類 (2単位以上)	04-03-01	外書演習(2)			
			専門外国書研究(2)			
			外国語特殊(2)			
			外国語演習S(2)			
			関連課題研究D(4)			
			専門演習(2)			
		04-03-02	研究会(3年生)(0)			
	04-03-03	研究会(4年生)(8または4)				
	IV類	A経営	04-04-01	総論的科目 現代企業経営論(4) 経営管理論(4) 経営学説史(4)		
			04-04-02	各論的科目 現代企業経営各論(2または4) 経営管理各論(2または4) 経営学説史各論(2または4)		
		B会計	04-04-03	総論的科目 財務会計論(4) 管理会計論(4) 会計史(4)		
			04-04-04	各論的科目 財務会計各論(2または4) 会計監査各論(2または4) 管理会計各論(2または4) 会計史各論(2または4)		
				C商業	04-04-05	総論的科目 マクロ・マーケティング論(4) ミクロ・マーケティング論(4)
					04-04-06	各論的科目 マクロ・マーケティング各論(2または4) ミクロ・マーケティング各論(2または4)
		D国際 経済	04-04-07	総論的科目 国際経済学(4) 世界経済論(4) 国際金融論(4)		
			04-04-08	各論的科目 国際経済学各論(2または4) 世界経済各論(2または4) 国際金融各論(2または4)		
		E計量 経済		04-04-09	総論的科目 理論経済学Ⅱ(4) 経済政策(4) 経済統計(4) 計量経済学(4)	
			04-04-10	各論的科目 理論経済学各論(2または4) 経済政策各論(2または4) 経済統計各論(2または4) 計量経済学各論(2または4)		
		F金融・ 保険	04-04-11	総論的科目 金融論(4) 財政学(4) 証券経済論(4) 保険学(4)		
			04-04-12	各論的科目 金融各論(2または4) 財政学各論(2または4) 証券経済各論(2または4) 保険学各論(2または4) リスク・マネジメント各論(2または4)		

A  
欄

IV 類	G 産業・ 交通	04-04-13	総論的科目	産業組織論(4) サービス経済学(4) 交通経済論(4)	A欄			
		04-04-14	各論的科目	産業組織各論(2または4) サービス経済学各論(2または4) 交通経済各論(2または4)				
	H 労働・ 社会	04-04-15	総論的科目	労働経済学(4) 産業関係論(4) 産業社会学(4) 組織心理学(4) 社会保障論(4)				
		04-04-16	各論的科目	労働経済学各論(2または4) 産業関係各論(2または4) 産業社会学各論(2または4) 組織心理学各論(2または4) 社会保障各論(2または4)				
	I 産業史・ 経営史	04-04-17	総論的科目	産業史(2) 経営史(2)				
		04-04-18	各論的科目	産業史各論(2または4) 経営史各論(2または4)				
	J その他	04-04-19		情報処理Ⅲ(4) 情報処理Ⅳ(4) 経済学史(4) ジャパニーズ・エコノミー(2) マーケティング戦略(2)				
		04-04-20		数学各論(2または4)				
		04-04-21		法学各論(4)				
		04-04-22		デリバティブ(2) ポートフォリオ・マネジメント(2) バンキング・ビジネス(2) 21世紀のマネジメント(2) 経済の構造変化と雇用制度(4) 企業の社会性(4) 製品・ブランドをつくりマネジメントする(4) 変革の時代を生き抜くための経営(4) 企業の社会的責任(CSR)を考える(4)				
		04-04-23		環境の経済・経営・商業・会計(2) イノベーションの経済・経営・商業・会計(2) 非営利組織の経済・経営・商業・会計(2) 戦略の経済・経営・商業・会計(2)				
	関連科目 (8単位まで 算入)	04-04-25		他学部および諸研究所(センター等を含む)に設置されている科目 で教授会が適当と認める授業科目(29ページ参照)			B欄	41
	自主 選択 科目 (20 単位)	第1・2学年 配当科目 (8単位)	—	*総合教育科目・基礎科目・専攻科目Ⅰ・Ⅱ類のうち所定単位数を超えて履修 合格した単位をもって充てることもできます。 (1・2年で履修合格したものに限られます)			A欄	
05-01-01			商学部設置の外国語科目 ドイツ語インテンシブ(2) フランス語インテンシブ(2) 中国語週3クラス(2) スペイン語第X(2) スペイン語インテンシブ(2) アラビア語Ⅰ(2) 英語アカデミックライティング(2) 英語ディスカッション(2) 英語ディベート(2) 英語プレゼンテーション(2) 英語リーディングセミナー(2) 英語リスニングセミナー(2) 英語第X-レベル2(2), レベル3(2), レベル4(2) 英語第X-TOEFL/TOEIC Practice(2) イタリア語入門(2) イタリア語入門a・b(各1) 確率論基礎(2) 線形代数演習(2) 微積分演習(2)					
			他学部設置の授業科目(単位数は当該学部の学則に従う)	B欄	51			
		05-01-02	英語第X-TOEFL/TOEIC(2)					
第3・4学年 配当科目 (12単位)		—	*総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した 単位をもって充てることもできます。 (3・4年で履修合格したものに限られます)		A欄			
	05-01-01	英語第XX-レベル2(2) 英語第XX-レベル3(2) 英語第XX-レベル4(2) 英語第XX-TOEFL/TOEIC Practice(2)						

自主 選 択 科 目 ( 20 単 位)	第3・4学年 配 当 科 目 ( 12 単 位)	05-01-01	ドイツ語第XX(2) フランス語第XX(2) 中国語第XX(2) スペイン語第XX(2) イタリア語(2) 朝鮮語(2) ロシア語(2) ギリシャ語(2) ラテン語(2) アラビア語(2)	A欄	51
			外書演習(2) 外国語特殊(2) 外国語演習S(2) 専門演習(2) (ただし、自主選択科目として履修する場合)	B欄	
			他学部設置の授業科目		
		05-01-01	○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○知的資産センター設置講座	A欄	
		05-01-02	英語第XX-TOEFL/TOEIC(2)		
自 由 科 目	自由科目Ⅰ (*卒業単位には含 まれません。 1カ年につき8単位 まで)	06-01-01	○商学部設置科目(必修科目は、履修を許可された場合のみ) ○他学部設置の授業科目 ○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○体育研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○知的資産センター設置講座 ○外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部に設置されていない外国語 (2005年度は対象科目無し)	B欄	60
	自由科目Ⅱ (*卒業単位には含 まれません)	06-01-02	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュ ニケーション研究所設置講座 ○教員免許取得のために履修する教職課程授業科目		61

(注) 専攻科目Ⅳ類の各論的科目の( )内の科目名は省略してあります。

※三田設置の総合教育科目について

三田における他学部設置（他地区を除く）の授業科目のうち、以下の授業科目は、商学部の総合教育科目として扱われます。  
履修申告に際しては、以下の点に注意してください。

- ① 以下の授業科目については下表中の分野以外での履修申告はできません（関連科目・自主選択科目として履修申告できません）。
- ② 履修申告用紙の場合は **A 欄** で申告してください（Web 申告の場合は **B 欄** 分野番号の指定は必要ありません）。※16 ページ参照
- ③ 履修人数が多い場合は設置学部の学生が優先となります。必ず履修申告前に授業担当者に許可をもらうようにしてください。
- ④ 講義要綱・時間割は設置学部のもので確認してください（学事センターにて閲覧できます）。

授業科目の種類	分野	科目名	設置学部
総合教育科目Ⅰ類	01-01-01	数学Ⅴ	法
		数学Ⅵ	法
		統計学Ⅲ	法
		統計学Ⅳ	法
総合教育科目Ⅱ類	01-02-01	映画演劇論Ⅰ	文
		映画演劇論Ⅱ	文
		映画演劇論Ⅲ	文
		映画演劇論Ⅳ	文
		ロシア文学	文
		現代芸術Ⅰ	文
		現代芸術Ⅱ	文
		詩学Ⅰ	文
		詩学Ⅱ	文
		地域研究－中国事情Ⅲ	経
	自由研究セミナー	経	
	01-02-03	人文科学研究会Ⅰ	法
		人文科学研究会Ⅱ	法
		人文科学研究会Ⅲ	法
人文科学研究会Ⅳ		法	
総合教育科目Ⅲ類	01-03-02	基礎情報処理	文
		自然科学特論Ⅰ	法
		自然科学特論Ⅱ	法

海外の教育機関に留学する場合の取扱いについて（商学部）

(1) 在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

	留 学	休 学
種 類	<p>教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）</p> <p>なお、留学には</p> <p>①「交換留学」</p> <p>②「奨学金による留学」</p> <p>③「私費留学」の3つの区別があります。</p>	<p>語学研修</p> <p>その他左記の留学と認定されない場合</p>
期 間	<p>申請期間</p> <p>留学の開始日から最長1年まで</p> <p>●年度の途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2005. 9. 22～2006. 9. 21</p>	<p>年度末日（3月31日）まで</p> <p>●年度末をまたいで休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。</p> <p>●休学の開始日がいつであっても<u>その年度はすべて休学の扱いになります。</u></p> <p>●休学願の提出締切はその年度の11月末日です。</p>
	<p>延長</p> <p>1回まで可能 (最長で留学開始日から2年まで)</p> <p>それ以降は「休学」となります。</p> <p>●延長する場合、「国外留学申請書」を改めて提出してください。</p>	<p>次年度も休学する場合は、再度休学願を提出してください。</p>
学 費・ 渡 航 費	<p>学費減免措置</p> <p>●1年目：減免制度はありません。</p> <p>●2年目：減免される場合があります。</p> <p>●留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除します（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します）。</p>	<p>減免制度はありません。</p>
	<p>渡航費補助</p> <p>「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。</p>	
単 位 取 得 ・ 認 定	<p>は留学 さむ 期間 履修を</p> <p>年度の途中から留学する場合は、留学前に履修申告した科目を留学後継続履修し、単位取得することが可能です（同一科目同一担当者が原則となります）。</p> <p>●必ず留学前に各科目担当者に、留学終了後に継続して履修する意志があることを伝えておいてください。</p>	<p>休学中の年度は履修できません。</p> <p>[年度始めから休学] 履修申告は不要です。休学願を履修申告日までに提出してください。</p> <p>[年度途中から休学] 4月に履修申告した科目はすべて削除されます。</p>
	<p>得た 留学 した 単 位 の 認 定</p> <p>30単位を超えない範囲で、慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。</p> <p>●認定を希望する場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出のうえ、就学届提出時に申請することを原則とします。</p> <p>なお、認定単位により帰国年度末の進級・卒業を希望する場合は、原則として1月末日を期限とします。</p>	<p>単位認定はありません。</p>
在 学 年 数 へ の 算 入	<p>進級・卒業</p> <p>1年間に限り留学期間を慶應義塾大学の在学年数に参入することがあります。ただし、遡及卒業は認められません。</p> <p>[例] 3年夏から留学し、1年後帰国した場合、在学年数への算入が認められれば第4学年に遡及進級となり、その年度末に卒業することも可能です。ただし、4年生夏に留学し、1年後帰国した場合、卒業は早くても帰国した年度の年度末になります。</p>	<p>在学年数に算入されません。</p> <p>休学終了後は原級にとどまります。</p>

・網掛け部分については(2)を参照してください。

※注意 TOEFL, GRE, GMAT等受験の際、身分証明書としてパスポートが必要になります。  
早めに準備するよう心掛けてください。

(2)

単位取得・認定	留学期間をはさむ履修	継続履修の条件	同一科目同一担当者が原則です。 体育実技は、①履修登録が学期開始日前で、②履修定員に余裕があり、③健康診断証明書を持参した場合のみ可能になります。
	外国で取得した単位	認定対象となる科目	原則として専門教育科目です（総合教育科目・語学科目等は含まれません。また、既に単位を取得した科目と同一の科目名での認定は原則としてできません）。
		履修上限との兼ね合い	認定の結果、認定された単位と履修申告した単位を合計して履修上限単位を超えても、そのまま履修できます（削除等の必要はありません。ただし、認定した科目と同一名称科目の履修申告は原則としてできません）。
在学年数	進級・卒業	遡及進級の条件	<商学部3年生で留学> 1年後帰国した際、4年生への進級を希望する場合は、次の条件を満たすことが必要となります。 ・以下の①と②の合計が12単位（3年生から4年生への進級条件）以上であること ①留学前に3年生で履修し取得した単位 ②留学先で取得した単位で認定されたもの ※遡及進級を希望される際の研究会の扱いについては、事前に学事センターにご確認ください。

秋学期から休学する際の履修申告していた科目の取扱いについて	秋学期（9/22～11/30（休学締切日））に休学を開始する場合、それまでに修得した春学期終了科目はすべて削除されます。ただし、特に申し出のあった場合は自由科目に限り振り替えますので、休学願提出時に窓口にて問い合わせてください（この場合、就学後再履修することは認められません）。
-------------------------------	---

(3) その他

●学籍についての注意

留学は二重学籍を認めるものではありませんので、次の点に注意してください。

- ① 慶應義塾大学で取得した単位を外国大学に振り替え（Transfer）した場合その単位は慶應義塾大学から抹消される。
- ② 外国大学で学位を取得せずに帰国する場合、①により抹消した単位は慶應義塾大学での単位として認定し、外国大学で取得した単位も慶應義塾大学に振り替え（Transfer）可能とする。
- ③ 外国大学で学位を取得した場合、外国大学に振り替え（Transfer）した単位および外国大学で取得した単位ともに外国大学での取得単位として扱う。

なお、上記のことについて確認するために、帰国後に成績証明書の提出を求めることがあります。

# 講義要綱・シラバス

## 〔講義要綱〕

### 総合教育科目

#### 宇宙と人間

講師 高柳 雄一

##### 授業科目の内容：

宇宙、そして地球、生命について、科学がもたらす知見は、温暖化、エル・ニーニョなど社会が直面する様々な地球環境問題を理解するうえで不可欠になっている。地球文明の持続が問題とされている現代社会を広い視点から考えるうえで役立つ宇宙科学と生命科学の成果を平易な解説でまとめたい。

##### テキスト：

特になし

##### 参考書：

その都度紹介したい。

#### 人間と音楽Ⅰ（春学期）

現代社会と音楽文化

講師 増田 聡

##### 授業科目の内容：

20世紀を代表する音楽文化であるポピュラー音楽を対象に、その歴史、美学、テクノロジー、概念、産業、聴衆、解釈などの諸問題について検討する。そのことを通じて、現代社会における音楽文化のあり方について多面的にアプローチできる知見を養成することを目的とする。春学期は主に理論的なトピックを中心とする。

##### テキスト：

東谷護（編著）『ポピュラー音楽へのまなざし』（勁草書房）

##### 参考書：

- ・増田聡『その音楽の〈作者〉とは誰かーリミックス・産業・著作権』（みすず書房）
- ・増田聡・谷口文和『デジタル技術時代の音楽文化（仮題）』（洋泉社）
- ・キース・ニーガス『ポピュラー音楽理論入門』（水声社）

#### 人間と音楽Ⅱ（秋学期）

現代社会と音楽文化

講師 増田 聡

##### 授業科目の内容：

20世紀を代表する音楽文化であるポピュラー音楽を対象に、その歴史、美学、テクノロジー、概念、産業、聴衆、解釈などの諸問題について検討する。そのことを通じて、現代社会における音楽文化のあり方について多面的にアプローチできる知見を養成することを目的とする。秋学期は主に歴史的なトピックを中心とする。

##### テキスト：

特に指定しない。

##### 参考書：

授業時に指示する。

#### 人の尊厳（社会と人権）（春学期）

文学部 教授 関 場 武

文学部 教授 安 藤 寿 康

##### 授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまざまわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち

向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

#### 西洋文明学説史

キリスト教と儒教の古典主義的近代化

教授 松村 宏

##### 授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男によって行われた各西洋文明学説の検討を手がかりに、ヴィンデルバントの哲学史とヴェーバーの文明史を再検討する。とくに日本文明学説史との併行異同関係を考え、世界市民文明学説への展望を拓く。実はプラトンとソフィストの論争は世界史を貫いて厳存しており、この問題の解法史を辿り新たな工夫をこらす。いわゆる関係（相関）主義ならびに外在要因対応としての人間研究である。具体的には、ヴェーバーの「儒教と道教」の対訳構成資料を読みこむことから始める。ヴェーバーには日本古学派以来の日本近代化がぬけているので大幅な見解の組みかえを行う。

##### テキスト：

上記四者の原本と翻訳本を多く参照するが、必要箇所を編集して複写を配布する。

##### 参考書：

- ・ヴィンデルバントの「哲学史」
- ・ヴェーバーの「経済と社会」と「宗教社会学論集」

#### 日本文明学説史

古代から近代までの論語老子解釈史

教授 松村 宏

##### 授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男の近代文明学説の原型を日本近世の祖来学に求め、論語と老子・孫子を連動させた日本独自の近代文明学説の枠組を創出した思案の跡を辿る。そして上級武士道と市民文明の生成を研究する。

##### テキスト：

- ・荻生徂来『論語微』（平凡社東洋文庫一と二）。
- ・論語微原文、論語古訓外伝、論語稽古などの原文と上泉信綱文書など資料は、配布する。

##### 参考書：

丸山真男『日本政治思想史研究』（東大出版会）

#### 総合教育セミナー（Ⅲ類）（春学期）

日本の金融ビッグバン

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

講師 ハリス, グレアム O. B. E

##### 授業科目の内容：

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

##### テキスト：

Current materials will be used.

## 【専攻科目Ⅲ類】

### 1. 目的および概要

1999年度から、専攻科目Ⅲ類で履修可能な「科目」が増え、従来の外書演習（通年2単位）のほかに、専門外国書研究（通年2単位）、専門演習（通年2単位）、外国語特殊（通年2単位）、研究会（2年間で8単位）が新たに加わりました。以上の科目の中には、担当教員の専門に応じて、複数の「クラス」が設置されています。これは、少しでも学生諸君の興味や関心に沿った形で、演習形式の授業を充実させることを目的とした改革です。それぞれの科目の大きな内容は、次のとおりです。

- \*外書演習：商学部にあさわしい内容-1) 商学部の専門に属する内容、2) 専門のバックグラウンドとなるような社会・文化的な内容、3) ビジネス関係の実用的内容-のいずれかについて、原書を題材に、演習形式で学ぶ科目です。
- \*専門外国書研究：外書演習より高度な専門的研究を、原書を教材に演習形式で行う科目です。
- \*専門演習：研究会に属さない学生のために、専門科目の基礎を演習形式で勉強する科目です。
- \*外国語特殊および外国語演習：三田へ来てからも外国語を学びたい学生諸君を対象に設けられた、中・上級向けの演習形式の授業です。
- \*関連課題研究：これまで学んできた外国語や外国の知識を専門分野と関連づけながら、小人数のゼミ形式で深めていく科目です。
- \*研究会：2年間にわたって、特定分野の研究を演習形式で行う科目です。

専攻科目Ⅲ類に属する以上の科目の中から、1科目2単位以上を履修しなければなりません。ただし、同一科目内では1クラスしか選択できません。また、研究会を選択する場合は、担当教員の承認を得て、第3・第4学年にわたって履修しなければならず、専攻科目Ⅲ類として専門演習を履修することはできませんので、注意してください。

### 2. 担当者間の取り決め

成績評価の方法や出席の取扱いに関する担当者間のバラツキや、情報の不徹底からくる不満を少しでも解消するため、原則として、担当者間で次のような取り決めをしています。

(なお、以下の取り決めはあくまでも原則であって、実際の授業は担当者の裁量によって運営されます。)

- イ) 成績評価について：各人の基本方針をあらかじめ講義要綱に明記する。
- ロ) 出席の取扱いについて（共通ルール）：年間3分の1程度を超えて欠席した場合は不合格とする。共通ルールを採用しない場合は、それと同等以上の負担を課す。

### 3. 履修希望クラスの選択・申告

履修案内と一緒に配付された案内で確認してください。

## 【外書演習】

### 外書演習

助教授 伊藤 規子

#### 授業科目の内容：

数学を一切使わないで市場経済を説明したテキストを輪読する形で、市場と資本主義の根本概念と考え方の整理を行うことを目的とする。経済学を復習することに興味のある人には、現実世界での経済の動きと理論との対応を確認してもらうのが目的。他方、世界情勢のジャーナリズムに興味のある人は、経済制度やメカニズムと現実との関連がいかに深いかという点を納得してもらうのが目的。

#### テキスト：

“The Truth about Markets; Why Some Nations are Rich but Most Remain Poor” by John Kay (Penguin Books 2004)

## 外書演習（秋学期集中）

The WTO and world trade issues 助教授 遠藤 正寛

#### 授業科目の内容：

国際貿易問題におけるWTO (World Trade Organization) の役割について考えます。下記テキストおよび関連記事をもとに、受講生に発表していただきます。

#### テキスト：

WTO, “Understanding the WTO,” 2003.

WTO website ([http://www.wto.org/english/thewto\\_e/whatis\\_e/whatis\\_e.htm](http://www.wto.org/english/thewto_e/whatis_e/whatis_e.htm)) よりダウンロード可能（2004年12月確認）

#### 参考書：

なし

## 外書演習

助教授 木地 孝之

#### 授業科目の内容：

私の外書演習のキャッチ・フレーズは、“Japan in the World” および “Living with the Asian Country” である。その時々の政治・経済問題に関する各国人の見方・考え方を知ることによって、グローバル化した社会の中で生きていくための素養を身に付けることを目的としており、英語の専門書を読むこと自体を目的にしたものではない。

#### テキスト：

適宜配布する。

## 外書演習

助教授 吉川 肇子

#### 授業科目の内容：

1. 組織心理学の英語論文集を読みます。
2. 授業の進め方は、(1) 単語テスト、(2) 該当箇所の発表（発表担当者）および受講生を指名して内容について尋ねる、(3) まとめ、という3つのステップを毎時間繰り返します。
3. 毎時間受講生全員を指名できるように、努力します。

#### テキスト：

Leigh, L. Thompson 2002 Social Psychology of Organizational Behavior: Key Readings, Psychology Press.

## 外書演習（春学期集中）

教授 権 丈 善 一

#### 授業科目の内容：

The Economist を読みながら記事を題材としてディベートも行う予定である。

#### 参考書：

The Economist 各号

## 外書演習

教授 八代 充 史

#### 授業科目の内容：

「外書演習」という授業の性格上、単なる英語→日本語の翻訳ではなく、企業組織や労務管理に関する基礎知識を身につけることを重視します。

ただし、夏休みと冬休みは視野を広げるため授業内容に関連する範囲で皆さんに自由にテーマを選んでレポートを執筆してもらいます。

#### テキスト：

Stewart, Rosemary, et al., *Managing in Britain and Germany*, Macmillan, Basingstoke, 1994.

## 外書演習（ドイツ語）

プロイセンの女王たちのなかで最もよく知られている女王ルイーゼの生涯について

助教授 フォーグル, ヴァルター

#### 授業科目の内容：

本授業では、プロイセンの女王たちのなかでもとりわけその名が知

られている、プロイセンの薔薇とも呼ばれた女王ルイーゼの生涯について読みます。女王ルイーゼの生きた時代は、まさにナポレオンがヨーロッパを震撼させた時期で、その動乱のなかでプロイセンはまさに瀕死の極みにありました。女王ルイーゼは美貌の誉れ高さ女性で、個人的にもその時代の有名な男性たち—たとえばシラーやナポレオン—と邂逅しています。そのような女王ルイーゼが若くして亡くなったあと、彼女の名は神話の域にまで高められ、やがてはプロイセンとドイツのアイデンティティーをシンボライズする人物となりました。本授業で教科書として使用する本は、有名なドイツの現代文学作家でありエッセイストである Gunter de Bruyn が、この女王ルイーゼの神話を追究した同名の本の抜粋です。

#### テキスト：

Gunter de Bruyn: Preusens Luise (btb-Verlag) ISBN 3-442-73232-8

#### 参考書：

Karin Feuerstein-Praser: Die preussischen Koniginnen (Piper-Verlag) ISBN 3-492-23814-9

#### 外書演習(中国語)

助教授 櫻庭 ゆみ子

#### 授業科目の内容：

中国語の基礎学力をひとつおりに身につけ、今後それぞれの専門分野で中国と関わっていくこうと考えている学生諸君が、その前段階として触れるべき様々な文書の講読訓練を行うクラスです。

政治、経済、文化等、多彩な分野にわたる文章を読みながら、言葉の表面的な理解にだけでなく、それぞれの文章が伝える意味、書き手のメッセージ等まで理解できる講読力の獲得を目指します。授業ではみなさんがこれまで触れてきた中国語の文章より長いものを精読・多読します。

曖昧かつ(おそらく)混乱状態にある文法事項については訳の作業の中で確認しながら定着をはかります。

テキストの他にその時々で話題となっている中国内外のニュースを随時とりあげ、原文から訳す練習も行います。

#### テキスト：

東京大学教養学部中国語部会編『中国語講読教材 園地』(CD付き)(東京大学出版会 2002年 3000円)

#### 参考書：

『現代中国を知るための60章』〔第2版〕高井潔司・遊川和郎編著、明石書店、2003

#### 外書演習(スペイン語)

専任講師 安井 伸

#### 授業科目の内容：

時事的な話題を中心に、スペイン語圏の新聞・雑誌記事等を読み解く。読解・音読・聴解能力の養成を図るとともに、ラテンアメリカ地域を中心とする国際情勢の理解を深める。

#### テキスト：

Iyo Kunimoto & Alejandro Kuda. *Leyendo las noticias en español*. Editorial Asahi, 2005.

その他、必要に応じて配付する。

### 【外国語特殊】

#### 外国語特殊(ドイツ語口語表現)

ドイツ語を話し、読み、聞き、書く。

助教授 フォーグル、ヴァルター

#### 授業科目の内容：

すでに2~3年ドイツ語を履修した学生を対象にした本授業は、そこで習得したドイツ語の基礎能力をさらに発展、充実することを目指しています。ドイツ語圏で出版されている目下最も新しい教科書のひとつを用いて、学生は毎回システムチックにドイツ語を「話し、読み、聞き、書く」能力を鍛えられるしくみです。

#### テキスト：

Delfin. Lehrbuch und Arbeitsbuch, Teil 3 - Lektionen 15-20 著者：Aufderstras, Muller, Storz. ISBN 3-19-421601-5 出版社：Max Hueber

#### Verlag

#### 参考書：

なし

#### 外国語特殊(フランス語上級—講読)

教授 鈴木 順二

#### 授業科目の内容：

1・2年生で身につけたフランス語の読解力を伸ばすとともに、フランス語を通じて現代世界について学ぶ授業です。

今年度は、フランス及びフランス語圏の社会・文化に関する文献を読みます。

#### テキスト：

ドラ・トーザン著『現代フランスの基礎知識(改訂版)』(白水社)およびプリント

#### 外国語特殊(フランス語上級—演習)

フランス語会話の実践

訪問講師(招聘) アブリアル、ジャン・ピエール

#### 授業科目の内容：

会話を通して、1・2年生で学んだフランス語の知識をコミュニケーション・ツールとして活用するトレーニングをします。

#### テキスト：

プリントを配布します。

#### 外国語特殊(中国語中・上級)

助教授 許 曼麗

#### 授業科目の内容：

入国するところから生活する場面まで、様々な必要な言い回し、人とのやり取りの表現を学習する。

各場面について、先ず短い基本的な会話を学習してから、長い会話を練習する。暗記、発表の繰り返しが授業のメインな形式になる。

この他、ヒアリングの練習、穴埋め形式の作文、暗記した内容について質問するなどの練習も取り入れる。

#### テキスト：

「情景汉语」一意図と場面による中国語表現 CD付 邱质朴他(2004年 朋友書店 3360円)

#### 外国語特殊(中国語中・上級)

講師 劉 穎

#### 授業科目の内容：

いままで習得したものに新しい表現を、耳で意味を理解する訓練と、自分の考えを口頭でスムーズに表現できる基本的なコミュニケーション能力を身につけていくためのレッスンである。

#### テキスト：

『二年生のコミュニケーション中国語』劉穎著 白水社

#### 外国語特殊(スペイン語)

講師 ヨルディ、マリア C.

#### 授業科目の内容：

TEMA: CULTURA ESPAÑOLA

En esta clase al tratarse de estudiantes que tienen un nivel superior de español, a la vez que es un repaso de lo estudiado hasta ahora, se desea que sea a su vez una profundización en la conversación y en la cultura. Procurando que se tengan temas que les pueda ser útiles en su especialidad de Comercio y también en su vida futura.

Por lo tanto se necesita que los estudiantes que tomen esta clase tengan un nivel superior y también que estén dispuestos a realizar las tareas que cada semana se les dará, así como a preparar y repasar para la clase.

De vez en cuando se verán videos y se comentará sobre ello. Tendremos un libro de texto fácil de comprensión, pero que ayude a tener conocimientos sobre la cultura, costumbres y vida de España y Latinoamérica. A su vez, ello ayudará a tener en la clase mayor faci-

dad para exponer su pensamiento y llegar a tener mayor fluidez en la conversación.

LIBRO DE TEXTO: CURSO DE ESPAÑOL PARA EXTRANJEROS  
Intermedio, libro del alumno  
Autores: Virgilio Borobio y Ramón Palencia  
Edit: SM.

CALIFICACIÓN: Todas las semanas cada alumno deberá exponer sobre un tema, por lo que la calificación se realizará por medio de esas ponencias, la asistencia y participación en las clases y un examen oral al final del curso.

## 【外国語演習】

### 外国語演習 S (英語) (春学期)

英語で学ぶ国際問題 (環境問題を中心に)

助教授 大矢 玲子

#### 授業科目の内容:

急速にグローバル化が進む社会のなかで、英語で情報を収集・理解し、自分の意見を発表する能力はますます重要となっています。この授業では環境破壊や国家間の経済摩擦を中心に、地球規模の問題に関するさまざまな論説文の読解とディスカッション、また学生自身の関心に基づくプレゼンテーションなどをおして、総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事などに基づいたエクササイズも随時取り入れます。

#### テキスト:

講師が配布。

### 外国語演習 S (英語) (秋学期)

英語で学ぶ国際問題 (日本の外交問題を中心に)

助教授 大矢 玲子

#### 授業科目の内容:

急速にグローバル化が進む社会のなかで、英語で情報を収集・理解し、自分の意見を発表する能力はますます重要となっています。この授業では最近起きた日本の外交問題を中心に、国際問題に関するさまざまな論説文の読解とディスカッション、また学生自身の関心あるトピックに関するプレゼンテーションなどをおして、総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事などに基づいたエクササイズも随時取り入れます。

#### テキスト:

講師が配布。

### 外国語演習 S (英語) (春学期)

Psychological Approach to Impressive & Effective Presentation

助教授 深澤 はるか

#### 授業科目の内容:

Knowledge and skills of presentation are inevitable in business situation. This course studies how to make an impressive and effective presentation from psychological perspectives. We will study the psychology of human's visual and auditory processing in brain. On the basis of this, we will investigate the methods for the most impressive and effective presentation.

#### テキスト:

The course packet of reading materials will be available at Coop.

#### 参考書:

- (1) Thompson, Richard F. (1993) "The Brain: A Neuroscience Primer, 2nd edition" W.H. Freeman.
- (2) Johnson-Laird, Philip N. (1988) "The Computer and the Mind" Harvard University Press.

### 外国語演習 S (英語) (秋学期)

Cognitive Scientific Approach to Gender

助教授 深澤 はるか

#### 授業科目の内容:

This course will investigate gender differences from the viewpoint of cognitive science: (1) how men and women's brain structures are different, (2) whether the differences actually affect on human's behavior such as thinking, memory, language, etc.

#### テキスト:

The course packet of reading materials will be available at Coop.

#### 参考書:

- (1) Thompson, Richard F. (1993) "The Brain: A Neuroscience Primer, 2nd edition" W.H. Freeman.
- (2) Johnson-Laird, Philip N. (1988) "The Computer and the Mind" Harvard University Press.
- (3) Pease, Allan & Barbara Pease (2001) "Why men don't listen and women can't read maps" Orion Books Ltd.

### 外国語演習 S (英語) (春学期)

"Presentation and Discussion Class"

助教授 吉田 友子

#### 授業科目の内容:

Being able to deliver an effective presentation and discuss controversial topics in English are critical skills in today's business world. In this class, students will take turns making presentations on controversial topics of their interest. The presenter will be responsible for providing reading materials, vocabulary lists, and discussion questions in advance. The other class members will have one week to read the articles provided by the presenters and prepare for discussion. On the day of the presentation, the presenter will provide a short synopsis of the article and present various perspectives on the particular topic. Students are encouraged to use Power Point when making their presentations. The rest of the class will then break up into small groups and discuss their thoughts and opinions. Students should keep a journal on the various topics discussed in class along with the various viewpoints presented by their classmates. In addition to these regular presentations, there will be a final report and a final exam each semester. For the final report, students are encouraged to pick a topic of interest (or expand on a topic they chose for their presentation) and present it analytically. The final exam given at the end of each semester will be based on the topics presented during that semester.

#### テキスト:

Current materials will be provided.

#### 参考書:

- ・ Academic Writing I — Eigo Ronbun Sakusei Hou By: Tomoko Isogai Keio Daigaku Shuppan Kai
- ・ Publication Manual of the American Psychological Association 5<sup>th</sup> Edition

### 外国語演習 S (英語) (秋学期)

"Presentation and Discussion Class"

助教授 吉田 友子

#### 授業科目の内容:

Being able to deliver an effective presentation and discuss controversial topics in English are critical skills in today's business world. In this class, students will take turns making presentations on controversial topics of their interest. The presenter will be responsible for providing reading materials, vocabulary lists, and discussion questions in advance. The other class members will have one week to read the articles provided by the presenters and prepare for discussion. On the day of the presentation, the presenter will provide a short synopsis of the

article and present various perspectives on the particular topic. Students are encouraged to use Power Point when making their presentations. The rest of the class will then break up into small groups and discuss their thoughts and opinions. Students should keep a journal on the various topics discussed in class along with the various viewpoints presented by their classmates. In addition to these regular presentations, there will be a final report and a final exam each semester. For the final report, students are encouraged to pick a topic of interest (or expand on a topic they chose for their presentation) and present it analytically. The final exam given at the end of each semester will be based on the topics presented during that semester.

テキスト：

Current materials will be provided.

参考書：

- ・ Academic Writing I — Eigo Ronbun Sakusei Hou By: Tomoko Isogai Keio Daigaku Shuppan Kai
- ・ Publication Manual of the American Psychological Association 5<sup>th</sup> Edition

## 【関連課題研究】

### 関連課題研究 D

SEMINAR IN GLOBAL BUSINESS STRATEGY

教授 トビン, ロバート I.

授業科目の内容：

This course examines current issues related to global business strategy including innovation, growth of economies in China and India, strengths of Japanese and foreign capital companies, technological innovation, localization, entrepreneurship, marketing, joint ventures, and global leadership styles.

The course will be conducted as a seminar with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

This course is conducted entirely in English and enrollment is limited to 20 students. See the website, [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com) for additional information.

テキスト：

World View: Global Strategies for the New Economy, edited by Jeffrey Garten, Harvard Business School Press, 2000.

## 【専門演習】

### 専門演習 (経営学) (秋学期集中)

助教授 神戸 和雄

授業科目の内容：

企業経営に関する基本的な知識を習得するとともに各自が興味をもった企業および産業に関して調査、発表を行い質疑応答を通じて実際の企業経営に関する理解を深めることを企図している。

テキスト：

必要に応じて資料を配布する。

参考書：

必要に応じて紹介する。

### 専門演習 (経営学)

企業制度論

助教授 谷口 和弘

授業科目の内容：

春学期は「制度経済学」、そして秋学期は「企業境界」にかんして、理論と現実のバランスをとりながら、多様なテーマを毎回設定していく。

テキスト：

春学期は、論文のコピーを適宜題材として進めていく予定である。また秋学期については、R. Langlois and P. Robertson (1995), *Firms, Markets, and Economic Change: A Dynamic Theory of Business*

*Institutions*. New York: Routledge. (谷口和弘訳『企業制度の理論：ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT出版, 2004年)をテキストとして採用する予定である。

参考書：

- ・ 現代企業経営研究会編 (2002) 『現代企業経営のダイナミズム』税務経理協会。
- ・ 青木昌彦 (瀧澤弘和・谷口和弘訳) (2001) 『比較制度分析に向けて』NTT出版。

### 専門演習 (会計学) (春学期集中)

助教授 吉田 栄介

授業科目の内容：

この授業では、さまざまな管理会計手法の現代的意義について講義・議論する。

テキスト：

上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。

参考書：

- ・ 興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編著『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
- ・ 吉田栄介『持続的競争優位をもたらす原価企画能力』中央経済社。その他、トピックに応じて、適宜紹介する。

### 専門演習 (商業学)

教授 櫻原 正勝

授業科目の内容：

本講ではマイクロマーケティングの理解を深める意図をもってマーケティングマネジメント論のテキストを取上げ、学習する。

マーケティング概念拡張論をはじめ今日のマーケティング研究に多大な影響を与えているマーケティング研究の第一人者P.コトラーの主要著作である「マーケティングマネジメント」のミレニアム版を輪読し、マーケティングの理解を深めていきたい。

テキスト：

P.コトラー, 恩蔵直人監修, 月谷直紀訳「コトラーのマーケティングマネジメント (ミレニアム版)」(ピアソン・エデュケーション, 2001年) 定価 8,000 + 税円

参考書：

授業時その都度指示する。

### 専門演習 (商業学) (春学期集中)

マーケティング・サイエンス

助教授 里村 卓也

授業科目の内容：

マーケティング・サイエンスとは、マーケティング上のマネジリアルな課題に対して、データに基づく論理的な意思決定を支援するための研究領域である。マーケティングのマネジリアルなプロセスでは様々な意思決定を行う必要があるが、それら各段階には固有の問題がある。これら固有の問題を考慮しつつ意思決定を行う方法について習得する。

履修者がマーケティング上のある課題について自ら問題設定を行い、データ収集・分析することにより結論を導けるようになることが本講の目的である。

テキスト：

古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣, 2003年

### 専門演習 (経済・産業)

助教授 木地 孝之

授業科目の内容：

本演習の目的は、①主要な経済統計の仕組みと見方を知り、②実際の統計を利用して経済の現状分析を試み、さらに、③産業連関表とGDP (国内総生産) 統計に関する理解を深め、④簡単な産業連関分析を行えるようにすることである。

テキスト：

- ・ 中島隆信他『経済統計』(東洋経済新報社)

・宮澤健一編『産業連関分析入門〈新版〉』（日経文庫）

**参考書：**

- ・「産業連関分析のすすめ」木地孝之ホームページ
- ・環太平洋産業連関分析学会ビジネスジャーナル「産業連関」各号。

**【専門外国書研究】**

---

専門外国書研究（独書）	助教授 前田 淳
-------------	----------

---

**授業科目の内容：**

グローバル化の本質、実態、さらに危険を扱った著作やフォルクスワーゲンにおける共同決定を扱った著作といったドイツの最新の文献を輪読していく。

なお、授業の進行方法は、参加者による翻訳と内容説明を主体とするので、必ず前もっての予習が必要である。試験は行わないので、出席、翻訳・内容説明、レポート（2回）が成績評価の基準である。

**テキスト：**

Globalisierung der Unsicherheit

---

専門外国書研究（仏書）	講師 大井 正博
-------------	----------

---

**授業科目の内容：**

フランス語の基礎を学んだ人に対して、経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し、日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに、慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。

**テキスト：**

J. et G. Grémond, “L'économie française face aux défis mondiaux”, Hatier

**【研究会】**

---

研究会	教授 赤川 元章
-----	----------

---

**授業科目の内容：**

「本ゼミ」

旧年度に卒業した赤川ゼミOBの卒業論文について、要約・検討・批評などを行い、自己体験を通して、「卒業論文とは何か？」を体得する。そのうえで、自らの卒業論文の中間発表を行い、問題意識・方法論・対象・構成・引用・など論文の書き方を学習していき、研究会での勉強成果を卒業論文に集約していく。

「サブゼミ」

週一回『日本経済新聞』の金融記事を中心とした経済問題について討論する。このような方法で問題意識や構成員、表現力を養うと共に現実の経済・企業の動きや仕組み・問題点などを学習する。さらに夏期合宿などでその成果を集約して、各人がテーマ別に発表し、全体で討論し、レベルアップに努める。

---

研究会	教授 跡田 直澄
-----	----------

---

**授業科目の内容：**

なぜ20歳から国民年金の保険料を払わなければならないのか。なぜアルバイトで稼いだお金に税金がかかるのか。なぜ営団だけではなく都営地下鉄が必要なのか。なぜ国立大学が必要なのだろうか。われわれの生活の身近なところで、政府部門はかなりの規模で活動している。その実態を知り、なぜそうした組織や制度が作られたのかを探り、その上で本当に必要か否かを検討する必要がある。本研究会では、こうした問題を議論しながら、政府部門のあり方を考えていきたい。

---

研究会	教授 井手 秀樹
-----	----------

---

**授業科目の内容：**

産業組織論に関する基本的文献の輪読と最近のトピックについて、産業組織論の観点から分析する能力を養う。

---

研究会	助教授 伊藤 規子
-----	-----------

---

**授業科目の内容：**

本研究会は、形式上は「交通・公益事業論・規制の経済学」をタイトルに掲げています。インフラストラクチャー（社会資本）・交通・公益事業といった産業分野に対する介入や規制が社会にどんな影響を及ぼすか、また実際にどういう成果を与えてきたか、といったテーマを追求することが中心になっています。

ただ、そういった方面においてリサーチを深めれば深めるほど、日本における政府の役割・政策の方向がいかに特殊であるのかが浮かびあがってくるのも事実です。そして、公的介入の程度・方法を研究しようとする場合に、同時に日本経済・社会の特殊性も見えてきます。契約社会である西欧で元々発展してきた経済理論を、そのまま現実の日本の経済活動に適用して考えるのは少々難しいのですが、日本がどう特殊なのかという点をあえて考えることで、表面的な学習だけでなく幅広く批判的に考える力をつけていくメンバーが最近多くなっています。ですから、本研究会では交通や公益事業というような狭い分野だけではなく、日本における市場の働き方全般について考察することも一つの目的です。

研究に必要な分析方法を学ぶための導入として、まず春学期に3年生には経済学的なものの考え方、ミクロ経済学、産業組織論に取り組んでもらうこととなります。そして、秋学期に三田祭で発表するプロジェクトを進めながら、プロジェクト・テーマにそくした形で、他にも何らかの応用的な分野一例えば公共経済学、財政学、公共選択論などの考え方にもなじむこととなります。

もう一つ、ゼミのメンバーに「独立心」を持ってもらうことも本研究会の目的です。自ら疑問を投げかけ、何が問題なのか、なぜ問題なのか、どのように問題なのかを徹底して考え抜き、独自のものの考え方ができることをめざしています。大上段に振りかぶって言うなら、自分で自分を教育するという意味での「独立自尊」の精神をメンバーに持ってもらうことが本研究会の理想とも言えます。

知識・考え方がネットワークとしての広がりをみせてこそ「研究会」の役割があると考えられるので、担当教員は強制的に何かを「教え込む」ことは基本的には行ないません。また、何かを誰かから与えられてくるまで待ってしようというようなスタンスも期待していません。「自分のプロジェクト」、「自分の卒論」という意識で責任を持って、各メンバーにリサーチをしてもらいます。

---

研究会（3年）	教授 伊藤 眞
---------	---------

---

**授業科目の内容：**

この研究会の研究対象は、金融商品に関する会計である。金融商品とは何か。金融資産／負債に係る発生の認識、消滅の認識、評価、ヘッジ会計、そして、複合金融商品の会計処理方法の検討（日本基準を主軸として、必要に応じ、IAS、米国基準も探る）を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。

金融商品会計の原点である、金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、及び金融商品会計に関するQ&Aの輪読を行い、設例を解く。毎回担当者がレジメを作成し、解説し、質疑応答・討論する。

卒論については、各自が自由なテーマを選定し、執筆する。

**参考書：**

- ・「金融商品の完全解説-5訂版」伊藤・花田・荻原編著、財経詳報社
- ・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編、税務研究会出版局
- ・金融商品に関する文献（金融商品に係る会計基準、金融商品会計に

関する実務指針、金融商品会計に関する Q & A 等々〈監査小六法（平成 17 年版を入手すること）に掲載〉の原典)

## 研究会 (4 年)

金融商品会計論その 2 + 企業組織再編論

教授 伊藤 眞

### 授業科目の内容:

卒論 (テーマは各自が自由に選定) については、最初に研究テーマ・方針を報告し、研究途中で 2 回程度及び最終段階で、その内容を報告する。

卒論テーマの報告以外のときは、有価証券・金銭の信託・デリバティブ・債権以外の具体的な金融資産/負債に係る発生の認識、消滅の認識、評価を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。また、企業組織再編及びこれに関する会計の概要を理解する。

毎回担当者がレジメを作成し、解説し、質疑応答・討論を行う。

### 参考書:

- ・「金融商品の完全解説 - 5 訂版」伊藤・花田・荻原編著、財経詳報社
- ・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編、税務研究会出版局
- ・「企業組織再編の会計」醍醐責任編集/伊藤・加藤編著、東京経済情報出版
- ・金融商品に関する文献 (金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、金融商品会計に関する Q & A 等々〈監査小六法 (平成 17 年版を入手すること) に掲載〉の原典)、企業結合に係る会計基準。

## 研究会

企業の成長・衰退と戦略的マネジメント

教授 今口 忠政

### 授業科目の内容:

研究会では、経営現象に対して理論的な考察ができる能力、創造的に対処できる能力、わかりやすくプレゼンテーション (発表) する能力を育成することが目的である。そのため、1) マネジメントに関する文献の輪読、2) 現実の企業動向の資料をもとに分析する学習、3) 研究課題を解決するグループ実習と発表、4) 各自の研究課題に対する研究発表などを取り混ぜて進める。

具体的には、文献を輪読し発表しながら、理論的な概念を学習することから始め、発表、質問、コーディネートの役割を体験できるようにする。夏休みの合宿 (2 泊 3 日を予定) では、各自の研究課題に関する発表を中心とし、普段の研究会では時間的に難しい問題解決の実習やケース研究を行う。

秋学期は、研究課題に関するさらに高度な文献を輪読し、グループごとに課題の設定、資料の収集・分析、発表を中心とした研究会を行い、三田祭の発表準備も並行して実施する。最終的に、1 年間の内容をレポートにまとめて提出する。

### テキスト:

上記タイトルに関連する書物を輪読し、適宜、関連する論文や資料等を配布します。

### 参考書:

随時、研究会の場で紹介します。

## 研究会

助教授 牛島 利明

### 授業科目の内容:

この研究会では、明治期から現代にいたる日本の産業・経営の「歴史」を研究分野とします。しかし、産業史・経営史研究は決して過去のものに完結するものではありません。その重要な課題のひとつは「いま現在」私達が抱える問題の歴史的な背景を読み解くことによって新たな展望を獲得する、ということにあります。ある問題がどのような社会的・経済的要因の相互作用の中で形成されたのか、さらに今なぜ変化しつつあるのか (またはなぜ変化しないのか)、その理由を歴史

的文脈の中で解き明かすことが研究上の重要な視角の一つなのです。

問題意識なしに歴史を見ても、それは無味乾燥な出来事の羅列にすぎません。今日的な問題を考える上で、できあいの説明、根拠のない通説を疑い、長期的な視野を持って考えることができるかどうか、ということが大切です。ゼミで扱うテーマは産業・経営の歴史にかかわるものであれば特に限定しません。共同研究や個人卒論作成を通じ、鋭い問題意識、的確な情報収集と分析をもとに議論を進める能力を培う。これをゼミの最終目的にしたいと考えています。

### テキスト:

特に指定しない。

### 参考書:

必要に応じてその都度指示する。

## 研究会

助教授 梅津 光弘

### 授業科目の内容:

本研究会は企業倫理 (Business Ethics) および企業と社会 (Business and Society)、経営社会政策 (Corporate Social Policy) などの分野を研究する集まりであり、以下にあげる諸点をその研究目的とします。

- 1) 企業経営を経営学のみならず哲学・倫理的な視点からもとらえ、それらを理論、実践、制度の側面から分析、調査して課題事項の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 2) 企業経営を事業体を取りまく様々なステイクホルダーとの関係からとらえ、そこにあらわれる経済的、法的、倫理的、社会貢献的などの企業社会責任の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 3) 今後発展の予想される NGO、NPO などの非営利組織の在り方を考察し、そうした組織と企業との連携の可能性、企業の先導、経営者のリーダーシップのあり方などの理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。

3 年生は企業倫理学、企業社会責任論に関する主要論文を主テキストに使い、発表と討論を中心に進める予定です。

4 年生は卒論中間発表を中心に進める予定です。

参加者はこうした分野に関心を持ち、2 年間真剣に研究してみようという意志のあること、専門の論文が読める程度の英文の読解能力のあること、春学期に開講している現代企業経営各論 (企業倫理) を同時履修することなどです。

## 研究会

教授 岡本 大輔

### 授業科目の内容:

本研究会は日本企業の経営方法、行動、成果の評価分析を目的としている。これは通常言われる経営学研究に他ならない。ただしその方法として実証研究に重点を置き、各要因と成果との関係を計量的に評価する、という特色を持っている。

従来日本の経営学はアメリカの経営管理論、ドイツの経営経済学などを中心に発展してきた。しかし絶えざる日本経済の成長、発展の結果、いまや日本の経営は、良い意味でも悪い意味でも、世界の注目を浴びるようになった。そこで、日本の経営を対象とした日本独自の経営学を研究する必要が生じてきた。そのためには従来の文献研究に加えて、実際の日本の経営、企業行動を把握するための実証研究が不可欠なのである。

そこで本研究会では各種経営学の文献に触れ、経営学の基礎を学び、また実証研究の武器となる統計的手法を修得する、といった目的を持って活動を行なう。さらにこれらをもとに 4 年生修了時には全員が卒業論文を書けるよう、指導する。

## 研究会

教授 檜原 正勝

### 授業科目の内容:

マーケティング現象を経済学的接近をもって認識、分析する「マーケティング経済学」及び「経済学方法論」を研究する。授業では「マーケティング論」「経済学」「方法論」の基本文献を併行的に輪読し、それぞれに関連づけながら総合的理解をめざす。

## テキスト：

- ・マーケティング関係：成生彦彦「流通の経済理論」、丸山雅祥「流通の経済分析」、田村正紀「流通原理」、P. エトラ「マーケティングマネジメント」その他
- ・経済学関係：L.V. ミーゼス「経済科学の根底」、尾近他「オーストリア学派の経済学」その他オーストリア派経済学の著作
- ・方法論関係：K. ポパー「フレームワークの神話」、歴史主義の貧困」、M. ウェーバー「職業としての学問」、「社会科学の方法」その他

## 参考書：

その都度指示する

---

## 研究会

金融論・ファイナンス

教授 金子 隆

---

## 授業科目の内容：

金融に関する様々な事象を、経済学的な視点から理論的かつ実証的に分析する。新聞などで目にする金融的なトピックスについて、ただ表面的な知識を得るだけでなく、問題を発見し、背後にある本質を理解し、通説や政策の妥当性を検討する。そうした作業を通して、物事の是非を先入観抜きで客観的に判断し、自分の考えを論理的に述べる力を養ってもらおう。これがゼミで私がもっとも心掛けている点である。

---

## 研究会

教授 唐木 園 和

---

## 授業科目の内容：

### <研究対象>

国際経済学は、国境を越えた経済諸現象を研究対象とする学問である。国際間における財貨・サービスの取引、さらに、外国に資本を貸付いたり、企業を設立したりする資本移動などにとまらぬ経済現象が、主たる研究対象である。

国際貿易の純粋理論、関税理論、貿易政策、国際収支論、資本移動論、多国籍企業論などが、国際経済学の研究領域に含まれる。このほかに、多国間にわたる経済問題も近年ますます重要度を増している。

例えば南北問題、経済統合、国際通貨体制なども重要な研究対象である。

なお本研究会では、国際経済学のほかに、経済発展論も研究領域とするため、各国の経済発展に関心を抱いている諸君も受け入れる。例えば「直接投資と経済発展」とか「中国の経済発展」「経済発展と環境問題」というような課題について卒業論文を書く場合である。

### <研究方針と研究会活動>

国際経済学の研究領域はこのように広いため、2年間でそのすべてを研究することは不可能である。そこで、研究会では次の3つの方針を採っている。

- (1) 経済現象を理解するための理論的基礎を築くこと。そのために、国際経済学や理論経済学に関する基本的文献を輪読する。
- (2) 国際経済における現在の主要問題は何かを的確に認識し、それについて自分なりの分析視角をもつこと。そのために、現実の諸問題について春・秋学期各3回程ずつ討論会を行う。
- (3) 各自がおのおののテーマにしたがって、様々な知識を体系的に整理した上で、新しい何かを発見すること。卒業論文の作成がこれにあたる。その準備のために、文献を探し文章を書く練習として課題レポート(4篇)、自分で課題を設定する能力を開発するための夏期自由論文、原書を読む力をつけ、あわせて卒論の資料とするための欧米文献紹介(3年秋学期から4年春学期にかけ月1篇)が課せられる。このようにして、実力と資料の蓄積が無理なく徐々に増大するように配慮している。

### <その他の活動>

夏期合宿では、ハイエク『隷属への道』、シュムペーター『資本主義・社会主義・民主主義』など、社会科学の基本的考え方に関する文献を読み、討論を行なう。

## テキスト：

「国際経済学」に関するテキストで、2005年4月初めの時点で最もよいと思われるものを、ゼミ員諸君の同意を得て選択する。

---

## 研究会

助教授 神戸 和 雄

---

## 授業科目の内容：

当研究会は経営学の領域一般を研究対象としているが、特に企業における情報の取り扱いに注目して研究を行う方向を企図している。

近年、インターネットの急速な普及に伴い、情報ネットワークに関する関心が高まりつつあるが、現実の企業における情報システムの導入は必ずしも円滑に行われているとは言い難い側面がある。情報システムの大規模投資に見合うだけの効果が得られるかどうかは個別企業の特徴にどれだけ合致した情報システムを構築、運用できるかにかかっている。情報技術の進歩は目覚ましいものがあり、的確な方向性を見出すためにはある程度、技術的な側面を理解することも必要になってくるものと考えている。

着実な分析を行うために、まず経営学の基礎的な知識の確認を行うことが必要となる。3年生の前半は経営学の基礎的な知識を確認するための基本文献を輪読する。それと併せて、企業経営の評価を行うために財務データによる分析を3名程度の小人数グループにより行う。基本文献の輪読は主として授業時間中に、財務データに基づく企業分析は各グループが個々に進めてゆくこととなる。

---

## 研究会

助教授 木地 孝 之

---

## 授業科目の内容：

本研究会のテーマは『経済を見る目』であり、マス・コミ等の報道に惑わされることなく、正しく経済の現状と問題点を把握する力量を身につけることを目的としている。

まず、各自が最も興味のあるテーマについて、仮説を立て、関連統計を収集し、分析することを通じて経済統計と経済分析に関する知識を深め、次いで、産業連関分析に挑戦する。分析の対象には、経済成長、貿易、物価、労働といった一般的な問題の他に、エネルギー・環境および東南アジアに重点を置いた国際経済分析が含まれる。分析手法の修得より、そこに表われた経済現象の理解を重視するので、数学的な知識はさほど必要ではない。

また、さまざまなテーマについてディスカッションを行い、時には専門家を招いた講義や工場見学等も実施する。

## テキスト：

授業の中で指示する。

## 参考書：

- ・「ゼミナール日本経済入門」(日本経済新聞社)
- ・「環太平洋産業連関分析学会」のビジネス・ジャーナル『産業連関』各号。

---

## 研究会

助教授 吉川 肇 子

---

## 授業科目の内容：

この研究会では、人間の社会的な行動を、実証的な手法を用いて分析することを目的としています。

3年生では、(1) 調査や実験をもとにした論文を批判的に読む訓練をします。(2) 調査や実験の手法を身につけます。(3) 英語の論文をもとに、卒業論文の計画を立てます。

4年生では、データをもとにした卒業論文の作成を行います。

## テキスト：

- ・浜田 麻里(著) 大学生と留学生のための論文ワークブック くるしお出版
- ・吉田寿夫(著) 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてある すごく初歩の統計の本 北大路書房
- ・他3冊(開講時に指示します。)

---

## 研究会

助教授 木戸 一 夫

---

## 授業科目の内容：

この研究会では、システム・組織・制度に共通する相互作用、特に

補完性、を数理的に研究します。

Machiavelli や孫子などの古典の教え、システムの法則から、企業組織における仕組み、世の中の仕組みまで、広く研究対象とします。頻繁に観察される法則や仕組みには、必ず、理論的妥当性があるはずです。

ゲーム理論と、スーパーモジュールの理論（補完性を定式化するための新しい理論）を武器に、モデル化という形で、理論的根拠を追求していきます。

「可能性の追求」をモットーとして、なぜそうなっているのか？どうしたら現状を変えられるのか？あるいは逆に、どうしたら現状を維持できるのか？とことん追求します。

そのために、理論的書物の輪読と、応用研究・事例研究のグループ学習・発表を並行して進めます。

2005年度は第1期なので、創業の時にあたります。まずは、研究会の運営方式や、みなで進める大規模プロジェクトを決めなければなりません。

これを当面の具体的課題と捉え、ベストの解決策を追求する中で、最新の経営組織の勉強から入り、必然的な形で、ゲーム理論や補完性の理論（組織の数理）に至ります。

---

研究会 教授 工藤 教和

---

**授業科目の内容：**

個別産業史、比較産業史、経済史、経営史などの分野から各自卒業論文の課題を設定し、完成に向けて努力することを基本とする。その上で、研究会構成員が討論を通じてそれを援助する。分析に必要な基本的な知識・手法などについては研究会のとくに初期に集中して身に付けることになる。また、現実社会に対する問題意識（それは歴史研究の出発点でもある）を磨くために現代の社会経済についてのディベート、時事問題討論を行なう。

**テキスト：**

大河内暁男『経営史講義 [第2版]』東京大学出版会 2001年

**参考書：**

- ・武田晴人（編）『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会 1995年
- ・湯沢威（編）『イギリス経済史 — 盛衰のプロセス —』有斐閣 1996年
- ・中山敬一郎『比較経営史序説』東京大学出版会 1981年

---

研究会 教授 黒川 行治

---

**授業科目の内容：**

私の見るところ、会計とは、企業の経済的活動及びその結末を測定・伝達する人間の行為であり、また測定・伝達された情報を解釈・利用する人間の行為である。かかる見地に立つと、人間の行為を研究対象とする他の学問の方法論が会計を研究対象とする会計学においても用いることができるのではないかと考えられる。学際的研究という言葉がいわれてから久しいが、事実、会計学は今や、行動科学、意思決定論、情報理論、財務論、社会学、政治学といった隣接諸科学の影響を受けて、非常に多様な学説あるいはアプローチが乱立する時代を迎えている。

かかる会計学の現状の中で、私自身の目標は、学際的アプローチによって会計行為を再解釈すること—時には理論モデルを使った演繹、また時には統計手法を使った実証—であった。何故ならば、かかるアプローチにもとづく解釈結果が既存の解釈を補強し、あるいは凌駕するような新発見となるかもしれないからである。

私の現在の興味は、①キャッシュフロー計算書の有用性の検証と財務流動性の新指標の開発、②企業の会計代替案選択行為および会計手続変更に関する実証的研究、③意思決定論を用いたエージェンシーセオリーの探究、④会計学の分野におけるプロスペクトセオリーの適用等の心理学的研究、⑤株式評価と合併比率の決定に関する実証的研究、⑥M&Aと連結・合併会計との関連、⑦オフバランス取引と会計認識・測定等である。

もちろん、これらは私の個人的研究テーマであって、ゼミ生諸君の

卒論のテーマとして固執するものではない。

**テキスト：**

3年生、4年生：

・パレプ・バーナード・ヒーリー著 齊藤静樹監訳

『企業分析入門』（第2版）東京大学出版会、2001年。

---

研究会 教授 権文 善一

---

**授業科目の内容：**

<http://fbc.keio.ac.jp/~kenjoh/seminar/> を参照してもらいたい。

---

研究会 名誉教授 小林 啓孝

---

**授業科目の内容：**

私の研究領域は管理会計である。管理会計は企業の経営者や管理者に計画設定やコントロールを行なうに有用な情報を提供することを任務とすると言われている。

より良い計画設定のためには、企業の内外環境を分析、総合し、内外環境に適合した計画設定を心掛けていかねばならない。計画設定やコントロールに有用な情報の提供を重視するならば、これら計画設定やシステム設計に従事する者に必要とされる知識の範囲は広大となる。このような考えから、本研究会の研究領域は管理会計を中心としながらも、企業経営に関連した広範囲の分野となる。

---

研究会 助教授 斉藤 通貴

---

**授業科目の内容：**

私の研究領域は、マーケティング戦略と消費者行動論である。P.ドラッカーは、マーケティングの目的は「セリング（販売・売込み）を不必要にすること」と述べている。これは、消費者（市場）のニーズをよく理解し、そのニーズに対して適切な製品をデザインし、広告や他のコミュニケーション手段によって、買手に製品のコンセプトやアイデアが良く理解され、適切な価格、場所で売られれば、売込みをしなくても消費者の満足をもたらして売れる、ということを表している。この売れの仕組み作りこそがマーケティング戦略だと言ってもいいだろう。このドラッカーの考え方の焦点となっているのは消費者であり、消費者の理解なくしては効果的なマーケティングの展開は不可能である。

では、消費者行動研究の対象とはどのようなものなのだろう。第一に、標的市場の選定に必要な研究が挙げられる。経済的な豊かさや物質的な充足は、モノの所有ではなく、製品やサービスの生活における意味やコンセプトを消費する成熟した市場を産んだ。つまり、モノを持つことによる満足から、生活を豊かにし、自己実現を達成する小道具、大道具として製品やサービスが買われるようになったのである。その結果、企業は特定のニーズやライフスタイルを共有する部分市場に狙いを定め、製品開発を行い、その他のマーケティング手段を用いて消費者の満足を得ようと努力する。こうした目標となる市場（標的市場）を決定するためには、経済的要因、人口統計学要因、生活研究やライフスタイルからの分析を組み合わせる必要がある。

第二に、どのように消費者は購入ブランドを決めるか、といった選択行動の研究が挙げられる。消費者は、自らの経験や知識、知人や友人の話、広告や雑誌などの情報をもとに購入ブランドを決めていく。こうした情報の処理プロセスの理解は、有効なマーケティング戦略意思決定において非常に重要なテーマである。

この他にも、どんなタイプの人かオピニオンリーダーとなるか、文化や人種の違いが購買行動にどんな影響を与えるか、近未来の消費トレンドはどうなるか、などなど多様な研究がある。

いずれも、マーケティング戦略を考えていくうえで不可欠であり、消費者行動を理解との有効な戦略を策定するには、心理学、社会心理学、社会学、文化人類学をはじめ多くの学問分野の成果を援用したインターディシプリナリー（学際的）な視点が必要である。

以上、簡単に消費者行動研究について触れてきたが、こうした研究を中心に据え、ゼミ員の関心に基づいてマーケティング、流通についても広く考えていきたい。

## 授業科目の内容：

当研究会は、経営学の学説史的分析を主たる目的とする。

経営学説史というと、過去の経営学説や理論を年代順に整理して紹介するだけの学問と思われがちだが、むしろ歴史を学ぶ本当の意味は、過去を通して現在を知ることにある。つまり経営学説史の意義とは、経営学の発展のために先人達が払ってきた多くの努力の成果を理解し、それらを正確に位置づけることでこの学問の現状を知り、またそれによって将来の発展のための手掛りを得ることにある。

経営学は学問としてすでに1世紀の歴史をもち、今日では社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得している。しかし近年における対象領域の拡大や研究分野の細分化は、隣接諸科学との境界をますます不明確にし、今や経営学は「セオリー・ジャングル」と形容されるほど錯綜した様相を呈している。それだけに、目下の経営学にさらに実り豊かな発展を望もうとすれば、既存の諸理論、諸学説の体系的な整序が何よりも急務な課題となる。とりわけ新しい理論が次々と唱えられる今日、学説史の理解なしにそれらの真価を見極めることは不可能であろう。

もっともその場合、観点の選択次第で多様な学説史が描けることを知ることは重要である。したがって学説史の研究にあっては、「科学の進歩とは何か」「理論の真の理解とは何か」といった根本的な問題を避けて通ることはできない。それには単に経営学の知識のみならず、方法論や哲学などの幅広い知識が必要とされるのである。

本研究会ではこのような問題意識に基づき、まず学説分析に必要な基礎知識の習得を目指す。とくに方法論の習得は決して容易なものではなく、多くの努力と忍耐を要するが、研究会ではこうした思考のトレーニングを通して、幅広いものの見方、考え方を養成してゆくつもりである。

## 研究会

計量経済学・国際産業連関分析 教授 桜本 光

## 授業科目の内容：

当研究会の研究領域は、計量経済学であるが特に、国際産業連関表を用いた世界経済と日本との相互依存関係を分析する産業連関分析を専攻する。本ゼミでは、専攻分野の研究は勿論、より広く現代の経済現象を実証科学の立場で正確に理解し、自ら判断し行動できるような一般の知性をも養成する。サブゼミでは、計量分析の基礎知識を確保するのに必要な書物、論文等を適時輪読する。過去の卒業論文は、原則として統計資料を使った計量分析を伴う研究が多いが、テーマ及び分析手法は各自自由である。

## 研究会

助教授 佐藤 和

## 授業科目の内容：

本研究会は、現代企業経営についての実証研究の方法を学び、卒業時までには全員が各自の研究を卒業論文としてまとめることを目標としている。

実証研究とは、理論だけを単独で研究したり、逆にただ単に事例(ケース)を集めたりするだけではなく、両者を組み合わせることによって、企業経営を理論から導かれた仮説を通して考え、データや事例によって検証してゆく方法論である。

そして計量経営学(Manage-metrics)の研究会として、少なくとも「数字」には強くなってもらいたい。まず企業に関するデータの収集・分析の方法を体系的に学び、さらにその実習を通じて統計的な分析の「結果」を吟味できる能力を身につけてもらいたい。そこでは必ずしも数学的な「知識」は要求されないが、統計的な「センス」を磨いてほしいのである。

そして各人の問題意識に合わせて、3年でのグループ研究及び4年での卒論の研究テーマは、広く経営学全般から自由に選んで取り組んでほしい。

研究会は一般の授業とは異なり、各メンバーのより能動的な参画が要求される。研究会の活動内容や雰囲気を、自分たちで積極的に創り

出していこうと考えている学生を希望したい。

## 研究会

マーケティングと消費者行動 助教授 里村 卓也

## 授業科目の内容：

本ゼミでは、マーケティング現象をモデルにもとづいて理解できるようになることを目的とする。マーケティングおよび消費者行動のモデル化が本ゼミの主なテーマとなる。複雑なマーケティング現象を理解し、マネジリアルに活用していくためには、抽象化・単純化された「モデル」を用いて分析していくことが有用である。本ゼミという「モデル」とは数理的なモデルだけでなく、概念的なもの、グラフィカルなもの等、現象を抽象化する手段全般を指す。現象を抽象化することは理論的考察へとつながり、またデータを利用した計量的な分析も可能となる。

研究会の参加者は、「モデル」と「データ」を利用しながら各自興味のあるマーケティング上のテーマについて探求を行っていくことになる。

## 研究会

知的財産

教授 清水 啓助

## 授業科目の内容：

この研究会は、知的財産をビジネスという側面から捉え、経営や新事業の資源とすることを研究の対象とします。

特許、ブランド、デザイン、ソフトウェア、コンテンツ等の知的財産は企業の新たな競争力の源泉として注目されています。そして、これからの経済成長の原動力として知的財産を日本の産業の基盤とする「知的財産戦略」が打ち出されました。

当研究会では、知的財産の多様性や特殊性についての理解を深めるとともに、産学連携、ベンチャー創出、知的財産戦略や知財ビジネスについて、ケーススタディや討論を行っていきます。

## 参考文献：

- ・西村吉雄 著「産学連携」日経 BP 社
- ・岡本薫著「著作権の考え方」岩波新書
- ・リベット／クライン 著「ビジネスモデル特許戦略」NTT 出版
- ・清水啓助他 著「知的創造時代の知的財産」慶應義塾大学出版会

## 研究会

教授 新保 一成

## 授業科目の内容：

本研究会では地球環境・地域環境保全のための制度や政策について実証経済学の立場から考えて行く。環境を保全しながら持続的な発展を可能にするには、物質的な意味での科学技術の開発と人々のライフスタイルの見直し、そしてそれらを実現するインセンティブを持たせるための経済的手段が必要である。これまで物質文明の豊かさを謳歌してきた先進諸国は1997年の京都会議で温暖化ガスの排出枠設定に関する協調政策に合意した一方で、世界人口の大部分をしめる開発途上国では貧困の解消がいまだに重要な課題であり、人々は実質的文明の成果を享受したいと願っている。この意味で地球環境を保全しながら持続的な発展を遂げるためには、われわれが将来世代に対してどのようなビジョンを持つかということと同時に、開発途上国の経済発展政策との協調という視点を欠かすことができない。研究会では、文献の輪読とともに産業連関モデルおよび計量経済モデルによるシミュレーションを通じて、経済と環境の関連についての理解を深めるように努める。

## テキスト：

1. Wassily W. Leontief(1970), "Environmental Repercussions and the Economic Structure", Review of Economics and Statistics, 52, 262-72.
2. Wassily W. Leontief(1974), "Structure of the World Economy : Outline of a Simple Input-Output Formulation", Nobel Memorial Lecture, reprinted in American Economic Review, December, 823-34.
3. Faye Duchin and Glenn-Marie Lange(1994), The Future of the

Environment, Oxford University Press.

4. W. D. ノードハウス, 『地球温暖化の経済学』, 室田泰弘・山下ゆかり・高瀬香絵 訳, 東洋経済新報社, 2002年。

**参考書:**

1. Wassily W. Leontief, Anne P. Carter, and Peter P. Petri(1977), The Future of the World Economy, Oxford University Press.
2. 日引聡・有村俊秀, 『入門 環境経済学』, 中公新書, 2002年。
3. 松橋隆治, 『京都議定書と地球の再生』, NHK ブックス, 2002年。
4. 高村ゆかり・亀山康子 編, 『京都議定書の国際制度』, 信山社, 2002年。
5. 小宮山宏, 『地球持続の技術』, 岩波新書, 1999年。

---

**研究会** 教授 **清家 篤**

---

**授業科目の内容:**

この研究会では、自分の頭でものを考えられる人間を育てることを目的にしています。そのときどきの環境のもとで大切なことは何かを判断し、行動できる知性を身につけるということです。これは意識して磨かないと身につけません。

そのためには、自分の身の廻りのことや社会現象にいつもみずみずしい関心をもつことがまず必要です。そのうえで、その自分の関心のあることを、できるだけ論理的に説明するトレーニングをしなくてはなりません。

具体的には、ゼミ員に卒業論文を書いてもらうことによってこのトレーニングを行います。論文のテーマはおよそ世の中に存在するものであれば何を選んでもかまいません。またそれを、説明する方法も、論理的であるかぎり特に限定はしません。要は、私や他のゼミ員を納得させられるかどうかということ、そして社会に新たな叡智をもたらすものであるかどうかということです。

3年生は、まず最初に、卒業論文を書くための基礎能力、すなわち問題発見能力、分析能力、表現力を身につけるために、毎回1~2名のレポーターに課題を与えて報告してもらいます。また4年生は卒業論文の中間報告を中心に活動します。いずれも報告者以外のゼミ員は、必ずひとつは質問ないしコメントをする義務を負うということにしています。またゼミ員全員で分担を決めて参加する三田祭の共同研究や、野外の企業見学といったことも行っています。

---

**研究会** 教授 **十川 廣 國**

---

**授業科目の内容:**

ゼミ員が経営学の基本的な知識の理解とそのような基礎知識を応用して現代企業経営の実態を分析しようとする能力を培うことを目標としている。

そこで、前半のゼミでは経営学の基礎知識を理解するために、主な経営学説の流れや戦略、組織など経営全般にわたる分野について、それぞれに指定する複数の文献を参考にしながらゼミ員による発表形式をとり、議論とコメントを行ってゆく(具体的な内容の目次と参考文献については初回のゼミで配布する)。また、企業の実態分析のための一つの用具である財務諸表分析の方法については、別の時間を設けて説明する。

このような準備がある程度整った段階で、3名程度のグループによる企業の実態分析を試みることになる。産業や企業の選択については全員で議論しながら決定したい。

**テキスト:**

未定(4月第1週に掲示する)

**参考書:**

- ・十川廣國『企業の再活性化とイノベーション』中央経済社, 1997年
- ・十川廣國『戦略経営のすすめ』中央経済社, 2000年
- ・慶應戦略経営研究グループ『組織力の経営』中央経済社, 2002年
- ・十川廣國『CSRの本質—企業と市場・社会』中央経済社, 2005年
- ・その他: 必要に応じて指示する。

---

**研究会** 助教授 **園田 智 昭**

---

**授業科目の内容:**

私の研究分野は管理会計論です。管理会計は、企業の経営に有用な会計情報を、経営者・管理者・現場の作業員に提供します。管理会計を理解するためには、その前提として広く企業活動全般について理解する必要がありますので、本研究会ではそれらについての学習も補足的に行います。

**テキスト:**

最初の時間に指定します。

**参考書:**

最初の時間に指定します。

---

**研究会** マーケティング研究 教授 **高橋 郁 夫**

---

**授業科目の内容:**

当研究会は商業学・マーケティング分野に属し、様々なマーケティング現象を理論的・実証的に解明するための基礎知識とその方法を習得することを目標としている。その上で、マーケティング戦略の立案等の応用面にも目を向け、マーケティング的なものの見方を養うことも重視している。

具体的な研究方法としては、学術書および論文の講読に加え、コンピュータによるマーケティング・データの解析、ケース・メソッド、ディベート、合宿研修等を適宜取り入れる。2年間の総合的な学習を通じて、マーケティングに対する専門的知識と企画提案力が身につくように指導して行きたい。

**テキスト:**

高橋郁夫(2004)『消費者購買行動—小売マーケティングへの写像【増補版】』千倉書房。

---

**研究会** 産業組織論/競争戦略論/中小・ベンチャー企業論 教授 **高橋 美 樹**

---

**授業科目の内容:**

私の研究会では、市場・産業内部での企業間競争の分析を基本とします。各自の研究テーマは、なんらかの形で「市場(Market)」、「競争」が関連する限り、自由に選択できます。研究会での活動を通じて、専門分野の基礎的知識、問題発見・分析・解決の能力、発表・討論の仕方など様々なことを身につけてもらいたいと思います。

具体的な研究対象としては、①多角化、広告、研究開発、海外進出などの企業戦略、②製造業にとどまらず、流通分野、公的規制分野等も含む個別産業分析、③企業集団・系列などの日本経済・産業の制度分析—などが考えられ、その範囲は非常に多岐にわたります。ちなみに、ここ数年の三田祭研究のテーマは「環境問題と中小企業」「ベンチャービジネスの資金調達」「中小流通業の活性化戦略」「中小企業の戦略的連携」「中小企業の人材活用戦略」「地域活性化と中小企業」「中小企業再生支援と金融機関」などでした。

本研究会での学問的基盤をなす産業組織論は、元来、独占禁止政策・公共政策の理論的なバックグラウンドとして展開されてきました。そこでは、「市場構造」(集中度、参入障壁など)—「市場行動」(企業の戦略的行動)—「市場成果」(利潤率、技術進歩など)という大きな枠組みにそって、産業が分析され、望ましい市場成果を得るために必要な政策が考察されます。つまり、産業組織研究の最終的な目的は、企業だけでなく、消費者や政府の立場をも視野に入れ、具体的に公共政策を考察することにあるということです。私自身は、産業組織論の応用として、ベンチャー企業の戦略や中小企業政策の研究を進めています。

なお、研究会に関するより詳しい情報は、下記ホームページにありますので、参照下さい。

<http://www.fbc.keio.ac.jp/~takamiki/>

**テキスト:**

最初の授業までに入手方法を示します。

**参考書：**

必要に応じて、授業中に紹介します。

---

**研究会**

助教授 谷口和弘

---

**授業科目の内容：**

現代企業は、さまざまな制度（組織構造、戦略、文化、ガバナンス・システム、ビジネス・モデルなど）によって構成されたまとまりをもつシステム（制度の複合体）としてとらえることができる。とくに近年、企業は経済のグローバル化や ICT（情報・通信技術）の発展による環境変化のなかで、ドラスティックに変化している。本研究会は、比較制度分析や経営学の研究成果をふまえたうえで、現実世界で進化を遂げている企業のさまざまな制度的特徴にフォーカスをあてて研究を進めていく。

**テキスト：**

適宜指定する。

**参考書：**

- ・ R. ラングロウ・P. ロバートソン（谷口和弘訳）（2004）『企業制度の理論：ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT 出版。
- ・ 青木昌彦（瀧澤弘和・谷口和弘訳）（2001）『比較制度分析に向けて』NTT 出版。
- ・ 吉森賢（2001）『日米欧の企業経営：企業統治と経営者』放送大学教育振興会。

---

**研究会**

社会問題の経済学・交通経済学 教授 中条 潮

---

**授業科目の内容：**

自由経済体制の中にあっても、我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実を照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

この研究会では、社会的問題とされている様々な問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論する。

また、上記の政府規制が特に多く関係している分野が交通と公益事業（電力、ガス、通信等）である。この分野については、上記と同様の公共経済学的なアプローチを行うとともに、交通・公益事業に固有の経済的特徴・問題についても研究する。

したがって、本研究会の論文の過去のテーマ例は、教育自由化、医療保険の民営化、地方分権、農業保護の撤廃、上下水道・電気通信・電力など公益事業の規制緩和、金融規制緩和、外国人労働者問題、政府開発援助、大型店舗規制の廃止、自然保護、ゴミ処理、レンタル CD 問題、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、プロ野球、オリンピック、航空、大都市鉄道、新幹線等多岐にわたっている。

---

**研究会**

教授 辻 幸民

---

**授業科目の内容：**

当研究会の研究対象は、金融に関するものであれば何であっても構わないが、分析のための手法は経済学をバックグラウンドとするものに限定する。当研究会の目的は、金融の現象を経済学の観点から分析する基本的な手法を習得することであり、そして各自の問題意識に応じて問題を設定し、習得した分析手法を応用することで見出される答を、卒論としてまとめて頂く。

具体的には資本市場や企業金融、デリバティブといった分野で使われる基本的な分析手法を勉強していく。この結果、2年後に卒論を完成させることが出来た者は、「ファイナンス」という分野の基本的な知識と分析手法を身に付けていることになる。そのためには、経済学と統計学および数学が必要不可欠であり、また実証的な問題解決のための道具としてコンピューターの利用も欠かせない。これらは各自の必要に応じて補習していく。

**テキスト：**

- 今年度のテキストは、
- ・ 榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄『現代の財務管理』（有斐閣）
- ・ 辻 幸民『企業金融の経済理論』（創成社）

**参考書：**

必要に応じて指示する。

---

**研究会**

教授 友岡 賛

---

**授業科目の内容：**

本研究会は会計学の研究会であって、その研究対象は、会計にかかわる問題でありさえすれば、とくに限定しないが、いずれの問題についても、基本的な思考に立ち返って考える研究姿勢を肝要視する。そしてまた、思索と議論とによって理論を構築することの甘苦を共にする。

---

**研究会**

教授 中島 隆信

---

**授業科目の内容：**

本ゼミの目的は、実証科学としての経済学の分析手法を身につけることである。大学卒業後、社会人となる学生諸君にとって最も必要となるのは、社会が様々な問題に直面したときに正しい判断を下せる能力を身に付けておくことである。そして、正しい判断の拠り所となるのは、事実に対する鋭い観察眼と、それを解析するための経済学の理論である。本ゼミは、学生諸君個々人の問題意識を引き出すとともに、それら問題点を実証分析の手法に則って解明し、研究成果をゼミ員との活発な議論を通じて磨き上げて2年後の卒業論文の形で完成させるという順序で進めていく。

---

**研究会**

監査論

助教授 永見 尊

---

**授業科目の内容：**

この研究会は、「監査論」を中心とし、監査人の独立性とは何か、証拠とはどのような構造となっているのか、最新のリスクアプローチはどのような要素が取り込まれているのか、近年開始されたゴーイング・コンサーン問題（決算日後1年の間に企業が倒産の危機に直面している状態）はどのように実施されているのか、といったテーマが研究対象となります。しかしそれだけではなく、企業のコントロールという視点から、現実の経済社会で起きているさまざまな動き、事件あるいは問題などを検討していきたいと思っております。

**テキスト：**

最初の時間に指定します

---

**研究会**

マーケティング・サイエンス

教授 濱岡 豊

---

**授業科目の内容：**

このゼミでは、複雑に見える「市場」における現象の本質的な部分をみだし「論理」「モデル」を組立てて、「データ」を用いて検証し、それを実際に「マネジリアル」に役立てようというアプローチ、つまりマーケティング・サイエンスの視点から分析できるようになることを目的とする。

**テキスト：**

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。  
<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka/>

**参考書：**

上記を参照

---

**研究会**

教授 早見 均

---

**授業科目の内容：**

卒論となる研究論文ないしはそれに類する創作物を仕上げるのが研究会の到達目標である。そのためには、研究テーマの選択、構成、必要な資料の収集、適切な分析、類似研究のサーベイ、文章作成上の留意点や論文としての体裁、効果的な発表方法などを身につけていく

必要がある。

各自の研究テーマはさまざまで、担当者自身、これまで労働経済や環境問題の分野で、統計的手法を応用して、労働時間・ワークシェアリング、リンクしたマイクロデータによる雇用分析、工学的データや貿易データを産業連関表とリンクさせて環境影響評価をおこなう、中国と日本の多部門マクロモデルとエネルギーバランスシミュレーションなど分野横断的研究をおこなってきた。したがって、この研究会の得意とする内容は①統計的な手法を利用し、さまざまなデータを加工して、仮説を検証していく計量経済学の領域、②技術や新製品などの情報と産業連関表を利用した環境影響評価、③分析に応じて必要とされる統計学、計算手法、コンピュータ利用など方法論的な課題である。研究分野の内容にこだわらず、重要な意義のあるテーマをいくつか選んで履修者全員で検討したい。

テキスト：

特になし

参考書：

D. Williams(2001) *Weighing the Odds*, Cambridge University Press.

---

研究会 教授 樋口 美雄

---

授業科目の内容：

このゼミでは、まず経済現象の変化や政策の有効性に関する議論に着目し、つづいてそれらの背景を知る上で必要となる分析ツールを勉強する。そして最終的にはそれらを援用して、自分の興味のある現象を実証的に分析し、政策の是非を評価できるまでになれるよう目指す。研究対象となるテーマは社会現象であれば、とくに問わない。

---

研究会 教授 平野 隆

---

授業科目の内容：

この研究会は、おもにつぎの二つの分野を領域とする。①近代日本経済史・経営史：幕末・明治維新から現在に至る日本の経済・経営・社会の歴史的研究、および日本と欧米あるいはアジア諸国との比較的研究。②消費社会論：消費文化と小売業、広告、マスメディアなどの関係についての歴史的・社会学的研究。

3年次では、専門基本文献の輪読、あらかじめ与えられたテーマによるディベート、各自が選んだ文献・論文のレビューなどにより、経営史・消費社会論の基礎知識、分析方法やプレゼンテーションなどの基本的なアカデミック・スキルの修得を目指す。夏休み以降は、卒論作成のための個別指導（テーマの設定、研究文献・資料の探索、論文構成、執筆の技法など）を併行して行う。4年次は、主に卒論の中間報告を中心とし、私を含めたゼミ全員との質疑応答を通じて、より完成度の高い論文に仕上げることを目指す。

---

研究会 国際経済（国際金融論とコーポレート・ガバナンスの国際比較）  
教授 深尾 光洋

---

授業科目の内容：

大学での勉強は、試験対策のための短期決戦型になり勝ちで、陸上競技で言えば短距離競走のようなものであることが多いように思います。しかし就職してからの社会生活での競争は、むしろ自分でペースを作って自らの市場価値を維持し高めていく、マラソン型のものになります。会社で上司からの仕事を必死にこなしているだけでは、短期的な評価は上がっても、長い目で見ると競争力をなくしてリストラ対象になりかねません。終身雇用・年功序列の日本型人事制度は崩れて行く方向にあり、そうなると自分自身に投資を続け、市場価値を維持できる人と、そうでない人の格差は、長期的には大きなものになることが予想されます。そこで私のゼミでは、就職してからも自分の市場価値を維持し高めて行くサバイバルのノウハウを身に付けることを大きな目標にしたいと思います。そのために、読書の仕方、情報整理の仕方、パソコンを使った情報収集や情報交換のやり方について、実践的に学ぶことを目標にします。具体的には、国際金融とコーポレート・ガバナンスの国際比較という金融のマクロとミクロの側面を毎年

交互に勉強し、二年間のゼミを通して学ぶことにより、現実の金融・経済動向を見る目を育ててゆきたいと思っています。

テキスト：

深尾光洋、『実践ゼミナール 国際金融』、東洋経済、1990年。この教科書を使って国際金融論の授業を行うので受講すること。ゼミでは輪読は行わない。

参考書：

授業計画を参照。

---

研究会 教授 堀田 一善

---

授業科目の内容：

マーケティングおよび流通現象の経済分析を中心とする学説史関係の基礎的文献を輪読し、レポートの作成を通じて各自の関心に応じた論文テーマの選定、論文作成を指導する。またサブゼミでは、科学方法論を学習する。本年度、本ゼミではマーケティングの経済理論を中心に関連文献を輪読し、サブ・ゼミではカール・R・ポパーの科学哲学関係の文献を輪読する予定である。

テキスト：

・N.H. Borden, *Advertising in Our Economy*, R.D. Irwin, Inc., 1945  
・カール・ポパー『フレームワークの神話』未来社 1998

参考書：

適宜、指示する。

---

研究会 保険学・保険政策論 教授 堀田 一吉

---

授業科目の内容：

本研究会は、保険学および保険政策論を研究する。国民生活が豊かになるにつれて、保険制度は、我々の生活に深く浸透し、身近な存在になってきた。我々の安定した生活は、多くの人々との関わりの中で、広い意味で、さまざまな保険制度に支えられているということができる。したがって、我々の研究対象は、生命保険や損害保険に限らず、公的年金や医療保険などの社会保険の分野をも含んでいる。しかも、それぞれに他の制度とのつながりを深めていることから、一つの問題を取り上げる上で、保険制度全体の理解が必要とされる。我々の最終的な課題は、経済活動をより安定的かつ発展的に営むためには、保険制度がどの程度有効に機能するか考究すると共に、その限界を把握することにある。そうした研究過程を通じて、さまざまな社会問題に対する本質的理解と、その解決策を追究する。

テキスト：

堀田一吉『保険理論と保険政策 — 原理と機能』東洋経済新報社

参考書：

西村周三『保険と年金の経済学』名古屋大学出版会

---

研究会 教授 堀越 比呂志

---

授業科目の内容：

本研究会は、マーケティング論の研究会であるが、私の主たる研究領域がマーケティング方法論とマーケティング学説史であるということから、マーケティング論だけでなく、科学哲学および関連諸学科の文献も題材として取りあげられる。本研究会では、このより広い領域の基本的知識の概要を提示した上で、そこから自分のテーマを選定してもらい、論文作成を指導する。

本研究会の目的は、このプロセスからの知識修得よりも、むしろそのプロセスにおける要約力・批判力・構成力という知の技法を磨くことにある。それゆえ、自分の中に表現したい熱いものを持ち、どんなテーマでも自分とつながりがあるのだという気持ちで、積極的に討論に参加できる人をゼミに迎え入れたい。

---

研究会 助教授 前川 千春

---

授業科目の内容：

一般に企業会計は、株主や債権者など企業外部の利害関係者に損益計算書・貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書等の財務諸表を通じ

て企業の経営成績および財政状態を報告することを目的とする財務会計と企業内部の管理者各層に意思決定を行いまたは業績を評価するのに有用な会計情報を提供することを目的とする管理会計の2つに大別されるが、当研究会は前者の財務会計を研究対象とする。外部利害関係者に提供される会計情報は法律等の規制を受けることが多いため、財務会計の勉強といえば専ら会計処理や表示に関する現行の諸基準・諸規則を覚え込むことであるかのように思われがちであるが、研究会では、単なる知識の習得ではなく、常に、何故そのようになっているのか、果たしてそれでよいのか、といった問い掛けをし、自分で答えを見出そうとする姿勢を身につけることを目標とする。

3年の本ゼミでは財務会計の基本書を2～3冊選んで輪読を行う。前もって割当てを決め、レジュメの作成・発表という形を採って進めていくが、ゼミそのものは担当者の発表に基づいて全員で議論することが中心となる。4年の本ゼミは主に卒業論文作成のための発表に充てられ、各自2～3回の中間報告を行って最終的な完成を目指す。その他にサブゼミ・合宿・三田祭発表なども行う予定である。

#### テキスト：

- ・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社
- ・岸本光永監訳『ヘルファート企業分析（第2版）』中央経済社
- ・田中茂次『現代会計学総論』中央経済社
- ・広瀬義州『財務会計』中央経済社  
など。

#### 参考書：

授業の中で紹介する。

---

### 研究会

助教授 前田 淳

---

#### 授業科目の内容：

現在、国際経営、国際経済をめぐる動向は、実に目まぐるしい。北海道拓殖銀行、山一証券、三洋証券の経営破綻、旧財閥の枠組みを越えたさくら銀行と住友銀行の合併、日産自動車に対するルノーの資本参加、国外に目を転じれば、東西ドイツ統一、欧州連合の結成、ユーロバンクの設立、アジア経済危機など枚挙にいとまがない。この企業・経済を巡る激変の本質や原理を客観的に理解し分析できる能力が益々必要とされる時代となっている。この能力を少しでもより多く身につけてもらうために3つの主たるメニューを用意している。

第1に、基本的な経営学、経済学の文献を輪読し、著者の主張する論点を正しく把握し理解できる能力をつけてもらう。レポーターと司会役を決め、レポーターの報告を基に質疑応答を通して文献の理解度を深めてもらう。

第2に経営分析である。今年は、電機メーカーの経営分析を予定している。この目的は、論理的思考力と分析力の養成と発展である。

第3に、卒論作成である。上記2項目を通して身につけた論理的思考力、実証的分析力を遺憾なく発揮し、論文作成に取り組んでもらう。論文のテーマは各自自由に設定する。

#### テキスト：

- ・『現代企業の財務戦略』小松章・丑山優編著
- ・『アフター・フォーディズム』ロバール・ボワイエ／ジャンピエール・デュラン著
- ・『日本の生産システムとフレキシビリティ』丸山恵也著  
の3冊を予定している。

#### 参考書：

授業の中で随時紹介する。

---

### 研究会

教授 牧 厚 志

---

#### 授業科目の内容：

この研究会では「経済を見る目」を養い、複雑な経済現象を自分なりにわかりやすい言葉で説明できるような能力を開発していきたいと思えます。

---

### 研究会

教授 三浦 雄 二

---

#### 授業科目の内容：

私の研究会は、「経済社会学」の名称のもとで現在我々が展開して

いる経済生活における人間問題の社会構造的背景の究明が試みられる。中心に置かれるのは私自身の専門である産業社会研究（したがって、人間問題として浮かびあがってくるのは労働者の社会的存在性であり、分科社会学の名称としては「産業社会学」がより近い）であるが、研究会としてはやや枠を広げ、経済活動との係わりで生じてくる多様な人間問題の中から各員が知的関心を持つものを選べるようにしてある。しかし、これだけでは些か漠然とし過ぎるので、研究会としては、一方で「社会学的思考法を磨く」ことに努めるとともに、他方で現在の我が国に代表される「資本主義の高度産業社会における人間問題の具体的諸相の確認」が果たされていく。何はともあれ、現代の経済生活は産業社会として結実しているからである。各員はこの二つの方向性を結びつけようとする努力の中から、直接的ないし間接的に自らの研究テーマを選ぶことになっている。

#### テキスト：

その都度指定する。

#### 参考書：

必要に応じて紹介している。

---

### 研究会

教授 八代 充 史

---

#### 授業科目の内容：

この研究会では、労務管理論、特に企業の労務管理の実態面にに関心を持つ学生を対象に、専門課程の2年間で卒業論文をまとめるために必要な指導を行う。

ただし労務管理の実態については、新聞、雑誌、単行本その他で日々洪水の様態に情報が供給されている。こうした「圧倒的」な事実を埋没しないためには、理論的・歴史的視座を持つことが不可欠である。こうした複眼思考で労務管理をとらえることに関心のある学生の参加を歓迎する。

ゼミの活動について触れると、本ゼミでは基本文献を何冊か定めて、その輪読を行う。年度の後半には、卒業論文の指導に入る。また、研究会の参加者には、関心のあるテーマごとにいくつかのサブゼミに分かれてもらい、そこで文献に目を通し、討論を行いながら労務管理について「頭」と「体」で勉強してもらう。

その他、工場見学などの「野外実習」なども行いたいと考えている。

#### テキスト：

八代充史『管理職層の人的資源管理—労働市場論的アプローチ』有斐閣、2002年。

#### 参考書：

適宜指示する。

---

### 研究会

教授 横田 絵 理

---

#### 授業科目の内容：

このゼミでは管理会計を中心として研究を進めていく予定ですが、私の研究の関心は管理会計のほか、組織、組織行動の分野にあります。つまり、会計情報と組織および人に関心を持っています。といいますのは、管理会計はマネジメントに役立つための会計ですから会計についてのみならずマネジメントについても理解を深めなくてはなりません。マネジメントの立場から管理会計を学ぶには、知識のみならず「考える」ことが重要です。そこで、理論および、事例などの検討から自分ならどのように考えるか、ゼミ生同士のディスカッションを中心に運営します。

#### テキスト：

授業内で提示します

#### 参考書：

授業内で提示します

---

### 研究会

産業研究所 教授 吉岡 完 治

---

#### 授業科目の内容：

この研究会では、「経済活動と地球環境に関する計量分析」を行う。各ゼミ員の自主性を重んじ、ゼミの計画、活動も全てゼミ員が合意のもとで決定していく方式をとります。したがって商学部の学生が卒業までに必要な経済学、商学などの幅広い教養育成は、当ゼミでは行わ

ず授業で補っていただく。ゼミ活動を楽しんで卒業してもらうには、次のような学生が望ましい。

1. 数学、統計学が比較的苦にならない人
2. コンピューター・プログラムに関心を持って、経済分析に活用してみたいと考えている人

---

## 研究会

教授 吉田 正樹

---

### 授業科目の内容：

1. 企業経営と企業者活動について経済的・経営的考察を行います。中心的課題となるのは企業経営の発展・成長であり、これを文献および歴史資料等を用いて輪読をおこない、レポートを作成して理解を深めていきます。なお、理論・歴史のいずれの研究領域においても日本とアメリカを中心にとりあげます。
2. 比較検討の視点を養い、また多面的アプローチによる総合的理解力を深めていくうえで、文献精読とその成果発表は欠かせません。このため毎週数人の発表をもとに議論する形式をとっていきますが、具体的な文献リストは春学期最初に提示します。

### テキスト：

- ・アルフレッド・キヤンドゥー「経営者の時代」鳥羽欽一郎他訳、東洋経済上・下
- ・ヒルシュマイヤー「日本の経営発展」東洋経済

---

## 研究会

教授 和気 洋子

---

### 授業科目の内容：

国境をこえた経済取引にかかわる問題発見とその解明を研究領域とする。したがって、今日では、外国貿易、通商政策、直接投資（多国籍企業）、国際金融、国際マクロ運営、開発途上国問題そして地球環境問題とその研究テーマは多岐にわたっている。

当研究会では、経済分析のための理論的素養と、グローバルな視点からの現実認識を2つの基本方針として、グループを中心とした作業や報告、そして討論を通じて自己を磨くことを主眼としている。また、最終的には独自の問題意識にそって各自テーマを絞り、理論と実態を体系的に整理・分析し、卒業論文の作成にあたることになる。

---

## 研究会

教授 渡部 直樹

---

### 授業科目の内容：

私達のゼミナールの研究領域は、大きく分類すれば「経営学」ないし「企業研究」といったジャンルに入る。しかし、このようなことはゼミナールのメンバーが、この領域に属する研究のみに従事することを意味している訳ではない。

つまり私のゼミの各メンバーには、各々が主体的に自分達の領域及び課程を見つけ、これらを深化させていくことが望まれている。各メンバーは自分達の関心に従って、自分自身の問題を自らの方法によって探究し、それを発展させることが常に求められている。そのため各メンバーの研究テーマが、従来の「経営学」の領域からはみ出してしまふことは、当然のことである。

ゼミナールの各メンバーに望まれることは、より具体的には、三田の2年間という短い時間の中で、いかに自ら問題を深め、他の人とは一味も二味も違った卒業論文を書きあげるかということになる。

しかし、このことは言う程は易しいことではない。私達が皆さんにできることは、この分野の問題はこの様なものであり、これを解決するのはいくつかのやり方が考えられる、といったこと（＝いわば料理のレシピ）を提示することと考えている。どのレシピを選ぶのか、そしてそれをどのように使うのかは、皆さんゼミの各メンバーの仕事なのである。

### テキスト：

テキストは授業の進行にあわせて示すが、今年は以下のもの考えている

- ・青木昌彦著『比較制度分析に向けて』NTT出版

### 参考書：

参考書は経営学、経済学、ゲーム理論の入門書を使用する予定である。

## 【専攻科目Ⅳ類】

### 〔 A 経営 〕

現代企業経営論 名誉教授 植竹晃久(春学期)  
教授 十川廣國(秋学期)

#### 授業科目の内容：

現代における企業と企業経営の特徴について講述し、企業経営に関する基本的知識の修得と今日的課題について考察していく。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

- ・植竹担当分：必要に応じて適宜指示していく。
- ・十川担当分：十川廣國『戦略経営の進め』中央経済社、2000年、同『CSRの本質—企業と市場・社会』中央経済社、2005年、『新戦略経営・変わるミドルの役割』文眞堂、2002年

#### 経営管理論

戦略構築と組織設計のマネジメント

教授 今口忠政

#### 授業科目の内容：

経営管理とは企業の目標を効果的に達成するために、組織メンバーの協働をいかに確保して実現するか、に関する学問である。そのために、目標をいかに設定すればよいか、設定した目標をどのような戦略として具体化するか、役割分担をどのようにすればよいか、動機づけやリーダーシップをどのように発揮すればよいか等の問題を解決しなければならない。経営管理とはこのような一連の行動を指したものであるが、その良し悪しによって生産性や企業業績が左右される。

講義はマネジメントに対する考え方を理論的に説明するとともに、実際の企業の事例を用いて、できるだけ理解しやすいように心がける。

#### テキスト：

今口忠政著「戦略構築と組織設計のマネジメント」(中央経済社、2001年、2500円)

#### 参考書：

教科書に記載、他は講義中に紹介します。

#### 経営学説史

教授 榊原研互

#### 授業科目の内容：

経営学が学問として成立してから約1世紀が経過し、経営学は今日社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得するに至っている。しかしこのことは、経営学がもはや十分な体系性を具えているということではない。むしろ今日の経営学の対象領域の拡大は、学際的研究の名のもとに多種多様な理論や命題を次々と生み出し、それは「セオリー・ジャングル」と呼ぶにふさわしい様相を呈している。こうした状況にあって、われわれがさらに実り豊かな発展を経営学に期待しようと思うならば、われわれは何よりもこれら諸理論・諸学説の関係を明らかにし、かつそれらの科学性や説明力を批判的に吟味する必要がある。このような問題意識から、本講義では、まず科学的知識とはどのようなものかという方法論的基本問題から説き起こし、経営学の科学化のために先人たちが払ってきた多くの努力の成果をドイツやアメリカの諸学説を通して明らかにしながら、経営学の今日的課題を考察する。

#### テキスト：

とくに指定しない。

#### 参考書：

- ・G.シャッツ／小島三郎編著『経済科学と批判的合理主義』慶應通信、1988年
- ・土屋守章・二村敏子編『現代経営学説の系譜』有斐閣、1989年
- ・G.シャッツ著、榊原訳『経営経済学の課題と方法』同文館、1991年
- ・H.ウルリッヒ／G.プローブスト著、榊原他訳『全体的思考と行為の

方法』文眞堂、1997年

- ・A.ピコー／H.ディートル／E.フランク著、榊原他訳『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年

#### 現代企業経営各論(企業形態)(秋学期)

助教授 谷口和弘

#### 授業科目の内容：

株式会社形態をとる大企業は、現代の資本主義経済システムにおける代表的なゲームのプレイヤーとなっている。本講では、株式会社形態を中心として、企業形態の多様性と進化について検討する。さらに制度を重視する視点から、比較コーポレート・ガバナンス、企業間関係やクラスターの進化、新しい組織アーキテクチャ(たとえば、NPO[非営利組織])などにかかわる問題を考察する予定である。

#### テキスト：

特定のテキストを用いる予定はない。文献(論文や著作など)については、テーマに応じて適宜紹介していく。

#### 参考書：

- ・R.ラングロウ・P.ロバートソン(谷口和弘訳)(2004)『企業制度の理論：ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT出版。
- ・青木昌彦(瀧澤弘和・谷口和弘訳)(2001)『比較制度分析に向けて』NTT出版。
- ・鈴木清之輔(1999)「現代企業の株式所有構造と支配構造：企業の所有・支配分析の基礎視角」植竹晃久・仲田正機編『現代企業の所有・支配・管理：コーポレート・ガバナンスと企業管理システム』ミネルヴァ書房、pp.23-38。
- ・植竹晃久(1984)『企業形態論：資本集中組織の研究』中央経済社。

#### 現代企業経営各論(企業倫理)(春学期)

助教授 梅津光弘

#### 授業科目の内容：

昨今の企業不祥事の多発や不透明な取引引き慣行への批判などから、企業倫理やコーポレート・ガバナンスの問題が企業経営の中核を担う課題として日本でも自覚されるようになってきた。このクラスではこうした事情を踏まえて、近年アメリカを中心に急成長してきた“Business Ethics(企業倫理学・経営倫理学)”という新学問領域の概説を行いながら、企業経営における社会的・道義的責任とは何かを共に考えてみたい。企業倫理は日本企業が今後直面する規制緩和、国際化、職場環境の多様化、社会全体の成熟化などの企業経営を取り巻く環境の変化との関係から今後もその重要性が増すと考えられる。また、国際化、地球環境保全、従業員の人権といった「新たな規範」に関する問題は企業だけでなくあらゆる組織が取り組まなければならない課題でもある。参加者との活発な討論を通じて、国際的にも通用する経営理念と指導原理とを確立する契機になればと思う。

#### テキスト：

- ・『ビジネスの倫理学』丸善
- その他必要な文献は適宜プリントにして配布する。

#### 現代企業経営各論(経営情報論)(春学期)

助教授 神戸和雄

#### 授業科目の内容：

企業経営における情報の取り扱いに関する理解を深め、経営情報システムの活用と問題点を把握することを目的とする。

#### テキスト：

必要に応じて資料を配布する。インターネット経由での配布を予定している。

#### 参考書：

必要に応じて紹介する。

---

## 現代企業経営各論（経営組織）(春学期)

教授 渡部直樹

---

### 授業科目の内容：

一 組織・市場・情報一

本講義では、従来からの組織に関する有力なアプローチをレビューするとともに、近年盛んになりつつある経済学的アプローチ、及びゲームの理論からのアプローチ、更に進化論的なアプローチといったものを検討し、これらを用いてわが国における組織問題一企業内のみならず企業間の一を説明することにある。

### テキスト：

テキストについては、授業の進行にあわせて具体的に指示する。

### 参考書：

ピコー他著『新制度派経営学による組織入門』（丹沢 他訳）白桃書房、1999年

---

## 現代企業経営各論（組織文化論）(秋学期)

助教授 佐藤和

---

### 授業科目の内容：

特にバブル崩壊以降、従来の日本型経営を行ってきた企業では、大きな変革が進行している。果たして「日本的」な要素は、21世紀にはすべて姿を消してしまうのだろうか。本講義では、現代企業経営を組織文化論という視点から捉え、特に国や社会の持つ文化との関係を踏まえて考えてみたい。

### テキスト：

必要に応じて講義の中で紹介する。

### 参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

---

## 現代企業経営各論（比較経営論）(秋学期)

助教授 前田淳

---

### 授業科目の内容：

日本的生産システムの特徴をよりよく理解するために、テイラーシステム、フォードシステムとの相互の比較検討をテーマとする。生産システムの史的展開の中で日本的生産システムの意義と特徴を理解して欲しい。

### 参考書：

講義の中で紹介する。

---

## 経営管理各論（経営計画）(春学期) 教授 岡本大輔

---

### 授業科目の内容：

経営計画を策定する際多くの手法が用いられる。そのほとんどは大型コンピュータ、パソコン上を走るソフトウェアによって行なわれる。従って多くの場合、結果のアウトプットだけが示され、途中の考え方、プロセスは示されない。重要なことはアウトプットの数字をどう解釈するかであるが、プロセスを理解していないと間違った判断を下す恐れが大きくなる。本講義では現代企業が利用している数学的・統計的手法を使いこなすため、それら手法のプロセス理解を目的としている。

### テキスト：

清水龍瑩（岡本大輔補訂）『経営数学』慶應義塾大学出版会、2003年

---

## 〔 B 会 計 〕

---

### 財務会計論

教授 黒川行治

---

### 授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み、会計基準の設定過程の問題、会計代替案選択に関する企業の会計意思決定の問題、会計認識および測定に関する

基本的論理、会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の具体的内容について、理解を深めることを目標とする。

### テキスト：

- ・武田隆二「会計学一般教程〔第六版〕」（中央経済社）
- ・黒川行治「連結会計」（新世社）

### 参考書：

黒川行治「合併会計選択論」（中央経済社）

---

### 管理会計論

教授 横田絵理

---

### 授業科目の内容：

企業の経営管理に役立つ会計情報を経営管理者や従業員に提供する管理会計は、経営に会計情報の側面から重要な役割を果たしている。講義では、管理会計の基礎的な考え方をはじめ、広く管理会計に関連した項目を講義する。

### テキスト：

山口 操（著）『エッセンス管理会計』中央経済社

### 参考書：

必要があれば授業内で提示する。

---

### 会 計 史

教授 友岡 賛

---

### 授業科目の内容：

そもそも会計とは何か、をかんがえる手掛かりとして、会計というものを経てきた変遷の姿、ときの経過にともなって過去から現在にいたるまで移り変わってきたそのプロセスをみる。方法としては、経済発展のプロセスに沿った通史的なそれが採用される。

また、会計の変遷と相即不離の関係にある企業形体の変遷を検討し、とりわけ、今日もっとも一般的な企業形体であるところの株式会社というそれについて、そもそも株式会社とは何か、をかんがえる。

### テキスト：

友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣

### 参考書：

- ・友岡賛『近代会計制度の成立』有斐閣
  - ・友岡賛『株式会社とは何か』講談社
  - ・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣
  - ・友岡賛（監訳）『会計破綻』税務経理協会
- 

### 財務会計各論（会計測定論）

助教授 前川千春

---

### 授業科目の内容：

近年、我が国においてもキャッシュ・フロー計算書が貸借対照表・損益計算書とともに基本財務諸表の一つとして位置づけられるようになってきた。当科目は、キャッシュ・フロー計算書の意義ならびに他の財務諸表との関係を理解し、具体的な作成方法・読み方を習得することを目的としている。

### テキスト：

第1回の授業の際に指示する。

### 参考書：

必要に応じてプリントを配付する。

---

### 財務会計各論（デリバティブ会計論）(春学期)

名誉教授 笠井昭次

---

### 授業科目の内容：

今日、デリバティブの進展は著しいが、その会計処理についての理解は、きわめて混乱している。その理解の仕方が、現代会計の本質にも徹底しているだけに、今日の状況はきわめて問題である。この講義では、資本貸与活動という視点から、その解明を図ることとする。

---

### 財務会計各論（時価主義会計論）(秋学期)

名誉教授 笠井昭次

---

### 授業科目の内容：

今日、実践的には、時価評価が導入されているが、その理論的根拠

は、明らかになっているとは言えない。本講義では、取得原価主義会計の延長線上で時価主義会計を構想する立場、および流動・固定分類に依拠する時価主義会計の立場を検討する。

### 財務会計各論（国際会計論）(春学期)

教授 伊藤 眞

#### 授業科目の内容：

国際会計基準（IAS、国際財務報告基準 IFRS を含む。）の歴史、現状、今後の展開を簡潔に紹介、IAS 財務諸表の作成と表示に係るフレームワーク、主要な IAS の会計基準—棚卸資産、キャッシュ・フロー計算書、法人所得税（税効果を含む。）、金融商品等を事例又は簡単な設例とともに解説

#### テキスト：

レジュメを配布又はホームページからダウンロード

#### 参考書：

- ・ International Financial Reporting Standards 2004（原書）、IASB
- ・『国際財務報告基準ハンドブック』中央青山監査法人 中央経済社 2004
- ・『国際会計基準書 2001』日本公認会計士協会訳、同文館 2001 年
- ・『テキスト国際会計基準』桜井久勝編著、白桃書房 2002 年

### 財務会計各論（新会計基準概論）(秋学期)

教授 伊藤 眞

#### 授業科目の内容：

会計ビッグバンといわれる会計基準の整備改善が行われ、連結財務諸表原則及び外貨建取引等会計処理基準の改訂、並びに税効果会計に係る会計基準、連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準、研究開発費等に係る会計基準、退職給付に係る会計基準、及び金融商品に係る会計基準等の設定が行われた。その後も固定資産の減損に係る会計基準、企業結合に係る会計基準の設定が行われた。これらは、新会計基準と呼ばれている。各会計基準について、その考え方や会計処理について、事例又は簡単な設例とともに概要を講義する。

#### テキスト：

レジュメを配布又はホームページからダウンロード

#### 参考書：

各基準及び実務指針（日本公認会計士協会による監査小六法に掲載されている。）

### 財務会計各論（財務諸表論）(春学期)

教授 友岡 賛

#### 授業科目の内容：

会計は事業の経営者から資本主への説明であって、財務諸表はそうした説明行為のための、いってみれば道具として位置づけられる。本講義は、会計という行為の目的から説き起こし、その目的に適うべき財務諸表の性格をかんがえる。財務諸表の在り方を規定する会計の基本的な思考、これをいくつかの具体的な論点を材料として検討する。また、ときとして歴史的な視座がもちいられる。

#### テキスト：

- ・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣
- ・友岡賛、福島千幸『アカウントティング・エッセンシャルズ』有斐閣

#### 参考書：

- ・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣
- ・友岡賛『株式会社とは何か』講談社
- ・友岡賛（監訳）『会計破綻』税務経理協会

### 財務会計各論（非営利法人会計論）(春学期)

講師 千葉 洋

#### 授業科目の内容：

非営利法人には、プライベート・セクターとしては学校法人、社会福祉法人、医療法人、宗教法人および民法法人などの公益法人と中間法人などが、またパブリック・セクターとしては独立行政法人や各種

の特殊法人などがある。本講義では非営利法人の概要をみたあと、とくに学校法人会計をとりあげ、以下の順で考察することにする。

- I 学校法人会計の概要
- II 資金収支計算の構造
- III 消費収支計算の構造
- IV 基本金の特質

#### テキスト：

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

### 財務会計各論（資産会計論）(秋学期)

講師 千葉 洋

#### 授業科目の内容：

本講義では「貸借対照表の借方項目としてほんらい何を計上すべきか。」という命題を以下の順で考察することにする。

- I. IAS における資産概念
- II. 資産概念をめぐる二つのアプローチ
- III. リース契約の資産性

#### テキスト：

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

#### 参考書：

『財務諸表の作成表示に関する枠組み』

\*日本公認会計士協会国際委員会の訳により国際会計基準委員会が公表したもの。

### 会計監査各論（実態監査と情報監査）(春学期)

助教授 永見 尊

#### 授業科目の内容：

企業経営における監査は、会計情報に対する監査のみならず、経営トップの職務執行に対する監査、あるいは企業内に設置された内部監査など、いくつかの形態のものがあります。本講義では、「監査の主題」という視点から、監査を「情報監査（あるいは表現の監査）」と「実態監査（あるいは行為の監査）」という2つの枠組みで捉えて、それぞれの監査の理論、法律や規定、そして実務の姿を理解していきます。

#### テキスト：

鳥羽至英・秋月信二著『監査の理論的考え方』森山書店、2001 年

#### 授業の計画：

- ・監査の主題 (2)
- ・監査の生成 (2)
- ・2つの監査の枠組み (1)
- ・情報監査の理論 (3)
- ・実態監査の理論 (3)
- ・社会のニーズと監査の拡張 (2)

#### 成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

### 会計監査各論（公認会計士による財務諸表監査）(秋学期)

監査論

助教授 永見 尊

#### 授業科目の内容：

公認会計士による財務諸表監査は、「監査主体論」「監査証拠論」「監査報告論」の3つの側面から把握することができます。本講義では、証券取引法に基づく財務諸表監査において、独立性の問題、監査証拠、リスク・アプローチ、内部統制、監査意見の形成およびゴーイング・コンサーン問題といった、これら3つの側面に見られるさまざまな論点を学んでいきます。

#### テキスト：

最初の時間に指定します

---

## 管理会計各論（原価管理論Ⅰ）（春学期）

助教授 吉田 栄介

---

### 授業科目の内容：

この授業では、原価管理（コストマネジメント）の様々なトピックスについて講義・議論する。ここでコストマネジメントとは「適正なコスト水準を確保する」ことを意図するだけでなく、「コストの観点からビジネス・システム全体の最適化」を意図するアプローチである。

### テキスト：

上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。

### 参考書：

- ・興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編著『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
  - ・吉田栄介『持続的競争優位をもたらす原価企画能力』中央経済社。
- その他、トピックに応じて、適宜紹介する。
- 

---

## 管理会計各論（原価管理論Ⅱ）（春学期）

助教授 吉田 栄介

---

### 授業科目の内容：

この授業では、原価管理（コストマネジメント）の様々なトピックスについて講義・議論する。ここでコストマネジメントとは「適正なコスト水準を確保する」ことを意図するだけでなく、「コストの観点からビジネス・システム全体の最適化」を意図するアプローチである。

### テキスト：

上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。

### 参考書：

- ・興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編著『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
  - ・吉田栄介『持続的競争優位をもたらす原価企画能力』中央経済社。
- その他、トピックに応じて、適宜紹介する。
- 

---

## 管理会計各論（原価計算論）

助教授 園田 智昭

---

### 授業科目の内容：

原価計算論では、企業が生産する製品の製造原価の計算を中心として、販売費及び一般管理費の計算と管理についても学習します。原価計算を理解するためには、その前提として広く企業活動全般について理解する必要があるため、本講義では、関連する個所で適宜それらの説明も行います。

### テキスト：

櫻井通晴『経営のための原価計算』中央経済社

### 参考書：

授業中に紹介します。

## 〔 C 商業 〕

---

## マクロ・マーケティング論

マクロ・マーケティング・システムと社会のインタラクション  
教授 高橋 郁夫

---

### 授業科目の内容：

生産、流通、消費の関係を巨視的に捉え、それをマーケティング・システムと呼ぶとき、本講はシステムそれ自体と、加えて、それを取り巻く社会とのインタラクションを対象とする。

### テキスト：

毎回、プリントを配布する。

### 参考書：

- ・清水猛 (1988) 『マーケティングと広告研究【増補版】』千倉書房。
  - ・田村正紀 (2001) 『流通原理』千倉書房。
- 

- ・高橋郁夫 (2004) 『消費者購買行動—小売マーケティングへの画像【増補版】』千倉書房。
- 

---

## ミクロ・マーケティング論

教授 堀田 一善

---

### 授業科目の内容：

本講義では、まず、歴史的にみて、マーケティングが国内市場を中心にもっとも純粋な形で展開されてきたアメリカ社会を中心に検討し、事実の世界における諸企業の状況適な合理的行為が、意図せざる帰結としてもたらした産業構造の変貌や反トラスト法などの新たな制度の成立を境に、どのようにその基本的性格を変えながら現代のマーケティングにまで進化してきたのかを考察する。

次いで、当時の産業社会にみられた様々な問題と共に、次第に人々の問題関心を占めるようになった流通ならびにマーケティング関連の問題が、当初、どのような見地から理解や分析の対象として指定され、自律的な倫理的知識を構成するようになっていったのかを、背景知識との関連で解明する。第3に、初期の代表的な研究成果の内容を検討しながら、それによって生み出された理論的問題の深化とその解明のための営みを紹介しながら、今日のマーケティング管理論あるいはマネジリアル・マーケティング論との関連を明らかにしたいと思う。

### テキスト：

テキストは特に使用しない。

### 参考書：

- ・堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社。
  - ・マーケティング史研究会編『オルダースン理論の再検討』同文館
- 

---

## マクロ・マーケティング各論（マーケティング学説史）（春学期）

教授 堀越 比呂志

---

### 授業科目の内容：

今世紀初頭に始まったとされるマーケティング研究の諸成果の展開を概観し、それを構造化することによって、マーケティング研究をより深く理解することが本講座の目的である。

### テキスト：

テキストはとくに用いない。

### 参考書：

主要参考文献リストは初回の講義の時に配る予定。

---

---

## マクロ・マーケティング各論（マーケティング史）（秋学期）

教授 堀田 一善

---

### 授業科目の内容：

およそ人間社会におけるほとんどすべての制度や仕組みあるいは行動様式は、直面する問題を解決しようとする人々の努力の所産に他ならない。今日、マーケティングと呼ばれている企業の市場支配的あるいは市場適応的行動様式もその例外ではない。本講では、マーケティングがとりわけ純粋な形式をもって発展してきたと言われていたアメリカを中心に、19世紀半ば以降の諸企業を取り巻く経済的、政治的、あるいは社会的状況要因に触発された市場の競争条件の変化と関係づけて、目的志向的な企業の行為様式としてのマーケティングがどのように進化してきたのか、そしてそれが個別経済的にも社会経済的にも無視できない影響力を有するようになってきた様相を、方法的固体主義ないし制度主義的個人主義の観点に立って、状況の論理に照らして解明することを目的とする。

### テキスト：

テキストは特に指定しない。

### 参考書：

堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社

---

---

## マクロ・マーケティング各論（流通論）（春学期）

名誉教授 清水 猛

---

### 授業科目の内容：

本講は生産者から流通業者を経て消費者に至る流通過程をマクロの

---

視点から系統的に考察することにより、わが国の流通の実態と変動を解明することを狙いとする。このための枠組みとしては、構造、行動、成果の関係がそのベースとして用いられる。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

随時紹介する

---

### マイクロ・マーケティング各論

(グローバル・マーケティング論)(秋学期)

講師 シェロン, エマニュエル

---

授業科目の内容：

Macroeconomic, politic, cultural and legal variables are studied in relation to commercial opportunities available in export markets. Information search and global markets assessments are presented as a prerequisite to structuring a marketing strategy and preparing a proposed international marketing mix. Internet sources of information for export are covered. International marketing opportunities and challenges are presented for small and medium sized businesses as well as for large global corporations.

テキスト：

Keegan, Warren J. and Mark S. Green (2003/2005), *Global Marketing*, Third or Fourth Edition, Upper Saddle River, New Jersey, Prentice Hall. ISBN: ISBN 013 066998-9/0-13-146919-3.

参考書：

<http://www.geocities.com/wallstreet/market/4263>

---

### マイクロ・マーケティング各論 (広告論)(秋学期)

助教授 齋藤 通貴

---

授業科目の内容：

本講義は主としてマーケティング研究との関連で広告研究および現実的なコミュニケーション戦略としての広告戦略を扱っていく。具体的には以下の通りである。

I. マーケティングと広告

1. マーケティング研究の領域と広告研究
2. プロモーション戦略と広告

II. コミュニケーションとしての広告

1. コミュニケーション・モデル
2. コミュニケーション効果研究と広告
3. 消費者情報処理と広告
4. ブランド戦略と広告
5. 広告効果過程

III. 広告計画と戦略

1. 広告計画のプロセスと管理
2. 表現計画と媒体計画
3. 広告効果

IV. 社会と広告

テキスト：

講義で指示する。

参考書：

特に定めないが適宜適切な参考書を講義で紹介していく。

---

### マイクロ・マーケティング各論 (消費者行動論)(春学期)

助教授 齋藤 通貴

---

授業科目の内容：

企業のマーケティング行動は、市場（消費者）への適応行動という特徴を強調する。すなわち、消費者がどの文化の中で、どのようなライフ・スタイルを持ち、どのように商品やサービスを選択・購買し、どのように使用し、どのような満足や不満を形成するか、といった消費者の行動を理解することが有効なマーケティング戦略策定の礎になることは言うまでもない。

---

### マイクロ・マーケティング各論 (製品開発論)(春学期)

教授 濱岡 豊

---

授業科目の内容：

この授業では、マーケティングにおいて4Pの一つとしてとらえられている「製品」について、特に「開発」する段階に注目する。そこで行われている手法について紹介する一方、ケース演習やプロジェクトなどを通じて、それらを体得してもらいたい。なお、便宜上、「製品」という言葉をあてるが、製品のみならずサービスについても可能な手法について紹介する。

テキスト：

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。 <http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka>

参考書：

上記参照

---

### マイクロ・マーケティング各論 (マーケティング経済学)(秋学期)

教授 檜原 正勝

---

授業科目の内容：

流通及びマーケティング研究は、伝統的に問題解決テクニックの研究や現実の現象を単に記述する研究が多く、なぜその現象がそのようなのかといった論証的説明やそれらの現象がなぜ生じるのかといった因果的説明などを十分成立させていないのが現状である。そこで本講では論証形式や因果的説明をふまえ、流通及びマーケティングにおける科学的知識を構築することをめざして、流通マーケティング現象の経済学的接近による理論研究を講義する予定である。

テキスト：

適当なテキストがないので、講義はノートによる。

参考書：

講義内容との関連で多岐にわたる為、参考文献は、授業中その都度指示する。

---

### マイクロ・マーケティング各論

(マーケティング・リサーチ)(秋学期)

助教授 里村 卓也

---

授業科目の内容：

どのような製品・サービスを扱っている企業であれ、顧客のニーズを把握し満足させるためには、顧客に関する情報を収集し分析しなければならない。マーケティング・リサーチとは企業が特定のマーケティング課題について行う意思決定を支援するための情報機能である。「どのような消費者が我々の製品を購入してくれそうか」「どのような新製品を開発すればよいか」等の具体的課題についてよりよく答えるためにはマーケティング・リサーチによって得られた情報を利用することが必要となってくる。

本講ではマーケティング・リサーチを理解するとともに、マーケティング課題をリサーチ課題として定義し、情報収集・分析・レポート作成までを行う能力を修得することを目的とする。

テキスト：

特に指定しない。資料は担当教員のホームページで配布予定。ホームページのアドレスは第1回目の授業中に告知する。

参考書：

授業中に適宜指示する。

---

## ( D 国際経済 )

国際経済学

教授 和気 洋子

---

授業科目の内容：

国際化の進んだ今日では、経済活動のネットワークは広く世界のすみずみにまで張りめぐらされている。実際、もろもろの経済資源が比

較的自由に、しかも迅速に、国境を越えて移動する時代となった。そして、これほどに国際間の相互依存が高まると、どの国の経済、政策、ビジネスも、世界の他の諸国との取り引き関係抜きに語ることはできない。

さまざまな財・サービスなどのアウトプット（産出物）が国境を越えて取り引きされているだけではない。株式、国債・社債などの金融資産の国際売買取り引きや、資金の対外借入あるいは対外貸付の国際金融取り引きや、企業そのものの海外進出が盛んに行われている。それが今日の国際経済取り引きの実態である。先進国はもとよりのこと、遅れて近代的経済発展のスタートをした途上国にとって、国際経済取り引きはとりわけ重要であったし、その重要性は将来も高まりこそすれ低下することはないであろう。

本講では、各国経済のそうした国際化現象をふまえ、日本を取り巻く国際経済問題の体系的理解と、世界経済が当面する重要な政策課題について、国際経済学の分析視点を提供することに基本目標を置きたい。

#### テキスト：

石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー著『入門・国際経済学』有斐閣、1999年。

#### 参考書：

必要に応じて講義中に紹介する。

---

### 世界経済論

教授 唐木 圀 和

---

#### 授業科目の内容：

21世紀を迎え、EUにおける単一通貨制度の発足、WTOの発展、社会主義諸国の変容、東アジア諸国の停滞と再生、資本・労働・情報の国際間移動の活発化、情報革命の進展など、世界経済は、今、大きな転換期にある。これらの諸現象は、イギリス産業革命にはじまる産業化の波が、しだいに各地域に波及したことと関連づけて考えることができる。現代に至る各時期に、世界経済の課題は何であり、それを当時の優れた思想家や理論家は、どのように捉えたのだろうか。また経済現象を説明するために、どのような理論があるのだろうか。現代の諸問題を知る手がかりを得るためにそれを考慮しつつ、現代世界経済の諸問題について論ずる。

#### 参考書：

唐木圀和・後藤一美・金子芳樹・山本信人編著『現代アジアの統治と共生』（慶應義塾大学出版会、2002年）

---

### 国際金融論

教授 深尾 光 洋

---

#### 授業科目の内容：

為替相場の変動、国際収支の不均衡などの国際金融に関連する諸問題を理解するために必要不可欠な諸概念と分析ツールを説明する。その基礎に立って、変動相場制下における経済政策運営、欧州通貨統合の背景、国際通貨政策等について理解を深めることを目標とする。

#### テキスト：

深尾光洋『実践ゼミナール国際金融論』東洋経済新報社、1990年

#### 参考書：

授業開始後、関連文献や統計図表等をレジメとして生協経由で配布するので購入すること。

---

### 国際経済学各論（国際経済政策論）（春学期）

商学研究科教授（フジタ・チェアシップ基金）小島 明

---

#### 授業科目の内容：

一般的な原論的知識を前提とし、国際経済の現場、最前線に案内する。冷戦の終焉、世界的な市場経済化ドミノ、情報通信革命などを背景に世界経済の構造変化が速している。時には変化のスピードが速く、既存の理論を現実が追い越す。そうした激動する世界の中における各国の経済政策の在り方、相互依存の実態を追う。实体经济の現場から政策当局者、経営者、研究者が今、何を考え、どうした問題意識を持つかを点検する。理論と現実の橋渡しをする「経済」が楽しいテーマであることを実感してもらいたい。

#### テキスト：

各国政府・研究機関、研究者の最新論文、資料を（インターネット等を通じ）活用。

---

### 国際経済学各論（ミクロ貿易論）（秋学期）

助教 遠藤 正 寛

---

#### 授業科目の内容：

国際貿易論の基本的な理論分析と実証分析の成果を講義します。

#### テキスト：

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

#### 参考書：

- ・若杉隆平『国際経済学（第2版）』、岩波書店、2001
- ・R. C. Feestra, *Advanced International Trade: Theory and Evidence*, Princeton University Press, 2003

---

### 世界経済各論（中国経済論）（秋学期）

講師 任 大 川

---

#### 授業科目の内容：

中国経済は、78年以降の「改革・開放」政策の実施により、高成長が維持され、世界におけるプレゼンスは次第に大きくなってきた。高成長の維持は、国内の労働や資本といった生産要素の市場化、外国の資本・技術の中国への移転、及びWTOの加盟に象徴される世界市場への参入によるものであるが、このような市場化はどのように発生し、どのように進行し、どのような問題をもたらしているだろうか。この課題の解明は、世界の経済発展に関する研究において重要な意味がある。本講義では、中国経済の市場化をキーワードとして、中国の経済発展に関する理解を深めることを目標とする。

#### 参考書：

加藤弘之『中国の経済発展と市場化』名古屋大学出版会

---

### 国際金融各論（国際金融システム論）（秋学期）

講師 斉藤 国 雄

---

#### 授業科目の内容：

この授業では、為替レート制度、通貨・債務危機への対応、主要国間のマクロ経済政策の協調と言った国際金融システムの基本的問題を取りあげる。そのために、まず、国際収支および為替レート決定の理論と、金本位制からブレトンウッズ体制を経て現行の変動為替制に到る国際金融システムの変遷を概括する。また、近年におけるグローバル化の進展と国際資本移動の増加、およびその国際金融システムに及ぼす影響等についても検討する。その上で、現行国際金融システムの仕組みとその問題点を、IMFの政策勧告と多国間政策協調、国際収支赤字・通貨危機に陥った国への金融支援、重債務と貧困に苦しむ途上国への支援、等を中心に考察する。最後に、IMF、世界銀行を中心に進められている国際金融システム改革の状況を展望する。

#### テキスト：

指定せず。講義資料プリントを配布。

#### 参考書：

- ・Krugman/Obstfeld, "International Economics — Theory and Policy (Seventh Edition)", 2000
- ・白井早百里, "入門現代の国際金融—検証経済危機と為替制度", 東洋経済新報社, 2002

## 〔 E 計 量 経 済 〕

---

### 理論経済学Ⅱ（春学期集中）

教授 桜本 光

---

#### 授業科目の内容：

経済現象を巨視的・微視的にとらえるマクロ・ミクロ経済理論を学ぶことにより、歴史的な転換期を迎えている世界経済特に、東アジアや米国と日本経済との相互依存関係を正確に理解し、現在の諸問題を整理し、今後の世界経済と日米経済の方向を議論できるような学生を養成する。

本科目は、本学部における経済関連及び他の専門科目の履修に際し

て、基礎的な理解を深めるために必要な科目の一つと考えられ、一年時履修の経済学の中・上級コースにあたる。

**テキスト：**

・ Dornbusch, R. and S. Fischer (1994) *Macroeconomics. Sixth edition* (first edition, 1978), McGraw-Hill. (廣松／ドーンブッシュ／フィッシャー, マクロ経済学 (上下)「改訂版」CAP出版)

**参考書：**

・ W. H. ブランソン (嘉治・今野訳) マクロ経済学 (上下) マグロウヒル。  
・ R. ドーンブッシュ (大山他訳) 国際マクロ経済学 文眞堂。  
・ W. J. イーシア (小田・太田訳) 現代国際経済学 (国際マクロ) 多賀出版。

---

**経済政策** 教授 樋口 美雄

---

**授業科目の内容：**

経済のグローバル化、産業構造の変化、少子高齢化の進展により、日本経済は大きな変革に迫られている。日本経済の特質を理解し、市場メカニズムと制度政策の関係について、マクロ経済学、ミクロ経済学の視点から考察し、これからの経済社会のあり方を検討していくのがこの授業の目的である。

**参考書：**

・ 樋口美雄『雇用と失業の経済学』日本経済新聞社  
その他は授業中に指示する

---

**経済統計** (春学期) 経済学部教授 清水 雅彦  
経済学部専任講師 赤林 由雄  
(秋学期) 経済学部教授 辻村 和佑

---

**授業科目の内容：**

国民経済における所得(純生産)発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に、国民経済を一つの経済システムとして捉え、当該経済システムに内在する経済構造の特質を計量的に分析するための理論体系としてレオンチェフの投入・産出分析理論(産業連関分析モデル)が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの拡充に伴い、理論モデルの構築にとどまらず理論モデルの現実妥当性を検証する方向を辿ってきた。いわゆる実証理論分析の展開である。

この講義では、まず国民経済に関する実証理論分析のための経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系(a system of national accounts: SNA)を中心に説明する。SNAは、基礎的な一次統計データ(primary statistical data)を再編・加工した二次統計データ(secondary statistical data)の体系である。したがって、SNAを理解するためには、一次統計データの生成過程についても理解しておく必要がある。本講義では、主要な一次統計データのうち、製造業における事業所の生産活動状況を統計的に捕捉する「工業統計調査」とその結果である「工業統計表」を取り上げ、その生成過程を説明する。春学期は、主に実物経済面に関する統計データを取り上げるが、秋学期には貨幣経済面を反映した資金循環分析に関わる統計データを取り上げる。

**テキスト：**

最初の授業時間に指示する。

**参考書：**

講義資料と併せて適宜指示する。

---

**計量経済学(春学期集中)** 教授 牧 厚志

---

**授業科目の内容：**

春学期集中科目であるが、前半では2年生で学習した統計学の復習をかねて、経営学、会計学、マーケティングを専攻しており、数量分析に興味を持っている学生にも理解しやすい授業をする。その内容は基礎編としてデータの整理と見方、確率変数と分布、推定と検定、回

帰分析を講義する。そして応用編として、経済分析ばかりでなく、経営、会計、マーケティングの分野の分析も紹介する。後半では計量経済分析を行う際に必要な理論の具体的特定化、推定、検定などについて講義をする。

**テキスト：**

1『応用計量経済学入門』(牧 厚志, 日本評論社, 2001)  
2『経済経営分析のための統計学(仮題)』(牧他, 有斐閣, 2005年3月刊行予定)

---

**理論経済学各論(応用ミクロ経済学)(春学期)**  
教授 中島 隆信

---

**授業科目の内容：**

本講義では、学生諸君が日吉で学んできた標準的価格理論をより発展させ、ヒト、モノ、カネの資源配分メカニズムをそれらが取引される市場の競争性との関連から説明する。

**テキスト：**

黒田昌裕・中島隆信『テキストブック入門経済学』(東洋経済新報社)

**参考書：**

奥野正寛・鈴木興太郎著『ミクロ経済学Ⅱ』(岩波書店)

---

**経済統計各論(産業連関論)(春学期)**  
助教授 木地 孝之

---

**授業科目の内容：**

本講では、まず産業連関表の学習を通じて日本経済の仕組みと国内総生産(GDP)統計に対する理解を深め、次に、産業連関分析の基礎理論を学ぶことによって、日本経済、国際経済、地球環境等に関する問題を全体的かつ構造的に捉える能力の養成に努める。

**テキスト：**

宮澤健一編『産業連関分析入門』(日経文庫)

**参考書：**

・「環太平洋産業連関分析学会」ビジネス・ジャーナル『産業連関』各号。  
・「産業連関分析のすすめ」(木地孝之ホームページ)

---

**経済統計各論(数理統計基礎)(春学期)**  
教授 早見 均

---

**授業科目の内容：**

データをもちいた分析をおこなう利用される統計的手法は各分野で日々開発されておりたいへんなバラエティがある。同時に詳しく統計学を知らなくてもパソコンのソフトの使い方をさえわかればどんどん結果をパッケージソフトが出してくれる状況にある。この授業ではそのギャップを少しでも埋めるために計量経済学や多変量解析で使われる統計的手法を理解するために必要となる最低限の統計学を省略をせずに解説したい。つぎのステップに進むのに必要な基礎なので応用例については詳しく解説する時間はない。したがって、つまらない・役に立たないという印象があることは覚悟して欲しい。また、この授業は大学院の統計学基礎理論と併設されている。

**テキスト：**

・特になし  
・講義日程、講義メモは、Websiteに掲載する。  
<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hhayami>  
または <http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami>

**参考書：**

・ G. Casella and R. L. Berger (2002) *Statistical Inference*, 2nd ed., CA: Duxbury Thomson Learning.  
・ 岩田暁一『経済分析のための統計的方法第2版』東洋経済新報社, 1983年。

## 計量経済学各論 (応用計量経済学) (春学期)

生産とエネルギーの計量経済学 教授 新保一成

### 授業科目の内容:

生産関数と効用関数から導出される需要関数体系の測定は、経済の実証分析にとって欠かすことのできない両輪である。地球温暖化問題をはじめとする近年の環境問題に対する理解を深めるためにも、安定的かつ自律的な生産関数の測定が要請されている。この授業では、これまでの生産関数の歴史を実証経済学の立場から振り返り、より安定的かつ自律的な生産関数を測定するために必要な諸点をエネルギー・資源・環境問題の視点から整理する。

### 参考書:

- ・小尾恵一郎『計量経済学入門』(日本評論社)
- ・黒田昌裕『実証経済学入門』(日本評論社)
- その他様々な論文を指定する。

## [ F 金融・保険 ]

### 金融論

教授 金子 隆

### 授業科目の内容:

今日の経済では、家計が貯蓄をして企業が投資をするというように、多くの場合、貯蓄主体と投資主体が分かれて存在している。貯蓄が投資と有効に結びつくためには、貯蓄主体から投資主体への資金の融通、すなわち金融 (finance) が効率的に行われる必要がある。さもないと、企業の投資は抑制され、経済の成長は著しく損なわれてしまう。その意味で、金融は今日の経済においてきわめて重要な役割を担っている。その金融のメカニズムを主として資金の面から解明していこうとするのが商学部の金融論である。

### テキスト:

特に使用しない。代わりに講義ノート (レジュメ) を使用する。入手方法については初回に指示する。

### 参考書:

初回のガイダンス時に参考文献リストを配布する。

### 財政学

教授 跡田直澄

### 授業科目の内容:

意義と目的: 企業の経済活動はそれ自身がシステムを創り出すこともあるが、多くの場合には社会経済システムに制約される。その制約を作り出す一つのそして最大・最強の経済主体が政府である。20世紀、混合経済体制という考え方の下、政府は経済に積極的に介入してきた。先進諸国の中では、日本は最も強くかつ大規模に介入を行ってきたといえるが、近年行財政改革の名の下、そうした政府活動に一定の枠をはめようという議論が強まっている。そこで、本講義では、現代社会において、政府は経済活動にいかに関わるべきかという問題を基本テーマとして、以下のような内容で講義を行う。

### テキスト:

特に指定しない

### 参考書:

特に指定しない

### 証券経済論

教授 赤川元章

### 授業科目の内容:

証券経済論は特殊な領域の応用経済学である。本講義の目的は、「証券」の本質およびこの「証券」より構成されるシステムの構造の解明を主な対象とする。出来る限り、実際に則して展開する予定である。授業内容の理解を容易にするために、図解・数値例・新聞記事・統計資料などを活用して具体的に説明する。試験ないしレポートは秋学期に指示する。参考文献は講義中に必要があれば、適時明らかにする。講義の概要は以下の通り。

#### I 経済発展と証券制度

(1) 「証券」の用語について (2) 「証券」の具体的内容とその原初形態 (3) 証券資本主義

#### II 有価証券の基礎理論—擬制資本論の展開

(1) 法律的・経済的アプローチ (2) 有価証券の概念 (3) 資本の構造と資本の証券化 (4) 証券市場と金融市場

#### III 証券市場の性格と役割

(1) 企業金融の変化 (2) 有価証券を用いた資金調達 (3) 発行市場と流通市場 (4) 景気循環と証券市場 (5) 投資家の構造変化 (6) 証券市場の組織

#### IV 証券取引の方法

(1) 取引所取引 (2) 信用取引 (3) 先物取引 (4) オプション取引

#### V 証券価格の決定論

(1) 証券価格の決定要因 (2) 株価指標 (3) 債権の利回り (4) ポートフォリオ分析 (5) 投資信託

#### VI 経済体制と証券制度→国有化と民営化 (移行期経済論), 持ち株会社論 etc.

#### VII 世界の証券制度

(1) ドイツ (2) アメリカ (3) 中国

### テキスト:

原則として使用しない。

### 参考書:

授業の中で指摘する。

### 保険学

教授 堀田一吉

### 授業科目の内容:

国民生活に深い関わりのある保険業界は、金融改革の進展の中でいま大きな環境変化を迎えている。本講義は、特徴的な保険の構造を経済学的に解説すると同時に、他の経済諸制度との関連性を図りながら、現代社会の抱える諸課題を保険学の立場から見直してみる。そして、現代生活において、保険がいかなる機能を担っているかをできるだけ現状に即して多面的に検証してみる。

### テキスト:

堀田一吉『保険理論と保険政策—原理と機能—』東洋経済新報社

### 参考書:

- ・庭田範秋監修 (2002) 『新世紀の保険』慶應義塾大学出版会
- ・下和田功編 (2004) 『はじめて学ぶリスクと保険』有斐閣
- ・庭田範秋 (1995) 『新保険学総論』慶應義塾大学出版会
- ・真屋尚生 (2004) 『保険の知識 (第2版)』日本経済新聞社

### 金融各論 (資本市場論) (春学期)

教授 辻 幸民

### 授業科目の内容:

今日、株式市場をはじめとする証券市場の動向は、家計や企業等の経済活動に多大な影響を与えている。証券市場には発行市場と流通市場があり、資金の融通に直接関係しているのは発行市場の方であるが、発行市場の円滑化のためには流通市場の安定と効率化が必要不可欠である。また企業も家計も流通市場と深くかかわっているのが現実である。この授業では、資本市場と呼ばれる株式市場と国債 (債権) 市場を取り上げ、これらの流通市場に焦点を絞って講義する。講義では、証券流通市場の経済的機能や価格決定メカニズムに関する理論分析と現実認識とを説明する。

### テキスト:

辻 幸民著『企業金融の経済理論』(創成社)

### 参考書:

必要に応じて授業中に指示する。

### 金融各論 (企業金融論) (秋学期)

教授 辻 幸民

### 授業科目の内容:

この授業は、企業 (上場の大企業) の実物投資に伴う資金調達行動を分析する。1980年代以降、企業は銀行借入よりも、エクイティファイナンス (株式や転換社債・ワラント債の発行による資金調達) や普通社債発行を通じて資金調達を多様化させたが、このことを合理的に解釈するには、企業と資本市場とのかわりについて考えることが

必要不可欠である。企業金融論とは、企業の資金調達行動のミクロ経済学的な裏付けを提供するのがその目的である。授業では、企業金融論の基礎概念と理論展開を概説する。

テキスト：

辻 幸民著『企業金融の経済理論』（創成社）

参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

---

### 証券経済各論（証券制度論）(秋学期)

講師 齊藤 壽彦

授業科目の内容：

公債・社債・株式の発行と流通の仕組みについてできるだけわかりやすく講義する。これらを理解することは今日の産業社会を理解する上できわめて重要である。信用論をふまえて証券制度について説明する。とくに日本の証券制度の現状について述べる。

テキスト：

齊藤壽彦『信頼・信認・信用の構造』（泉文堂、2002年、3300円）

---

### 保険学各論（生命保険論）(春学期) 講師 宮地 朋果

授業科目の内容：

生命保険の歴史は古く、概念は、古代ギリシャ（紀元前500頃）の宗教的慈悲組織にまで遡ることができるが、諸科学の成果を取り入れた近代的保険制度は、18世紀になってからのことであり、比較的新しいともいえる。超高齢社会を控えて、生活保障を支える上で、生命保険の果たす役割は、近年一段と大きくなっている。他方、国民経済的には、生命保険に対する需要の高まりが、生命保険業の金融業としての地位を高くしている。本講義では、現代社会において生命保険がいかなる機能を果たしているかを単なる技術論ではなくて、社会保障や企業保障など他の関連制度と関係づけながら、多面的に論じるつもりである。

テキスト：

堀田一吉『保険理論と保険政策』（東洋経済新報社）

参考書：

- ・石田重森・石田成則『自由競争時代の生命保険経営』（東洋経済新報社）
- ・山中宏編『生命保険読本』（東洋経済新報社）
- ・ニッセイ基礎研究所『生命保険の知識』（日本経済新聞社）

---

### 保険学各論（損害保険論）(春学期) 講師 岡村 国和

授業科目の内容：

本講義の目的は損害保険に関する保険理論の理解と現実の保険現象を分析する能力を修得することにある。さしあたり保険理論の理解に努める。保険理論は原理的には単純明快であるが、実際には多様な応用が施されているために、一見して複雑な感じがすると思う。こうした複雑に見える保険の理論的構造を分解して単純化した後に再構築することにより、損害保険のさまざまな特徴が浮き彫りにされるのであり、実社会において提示される損害保険市場の諸問題を理解・整理して分析することが可能となるのである。

損害保険市場の分析に関しては産業組織論からのアプローチを用いる。具体的には市場構造、市場行動、市場成果の各ブロック間の相互関係の説明、および保険規制がこれら各ブロックに及ぼす影響を与えるかなどについて講義する。これらを理解した上で、最終的には、損害保険会社の倒産と消費者保護について講義する。

その骨子は、保険企業の存続保証を前提とした契約者保護（いわゆる船団体制）と保険市場の効率性の両立を考えることであり、「契約者の直接保護を前提とした契約者保護システム」（いわゆるセーフティネットの張り替え）を考察することによって保険市場の効率性と保険契約者の保護を整合的に接続するシステムを模索することである。

テキスト：

使用しない。レジュメや資料を随時配付する。

参考書：

庭田範秋編『保険学』成文堂。

その他、講義中に適宜指示する。

---

### 保険学各論（保険経営論）(秋学期) 講師 岡村 国和

授業科目の内容：

保険業を取り巻く環境変化のスピードは著しい。保障業務を本来業務としつつも同時に肥大化・拡大化しつつある（派生業務としてかつて位置づけられていた）金融業務は、今や本来業務の中に取り込まれつつあり、保険業を質的に変化させようとさえしている。保険経営の質的变化が保険業の本質的性格に及ぼす影響は計り知れないものであり、かつ金融業の業態間の垣根問題をめぐる緊張関係が今や無視しえないレベルにまで達している以上、われわれがここで保険業の本質的性格を再度検討することの意義は決して小さくはない。

本講で講義される「保険経営論」は、広義には経済学の一分科としての経営学に属し、狭義には特殊（業種別）経営学の一部としての「保険経営論」に位置づけられる。さしあたり、総論として保険経営の諸特徴を概観し、その後で規制緩和の環境変化の下での保険業の行動原理と競争をめぐる諸問題について「多様化する行動原理と経営目的」を念頭に置きつつ講義を進めていく予定である。

テキスト：

未定、但しレジュメを配布する。

参考書：

- ① 庭田範秋編著『保険経営学』有斐閣。
  - ② 庭田範秋編著『保険学』成文堂。
- その他、補足資料などを配布する。

---

### 保険学各論（保険数理論）(秋学期) 講師 浅野 紀久男

授業科目の内容：

生命保険事業は、死亡率・利率・事業費率の三要素を基礎に成り立っている。本講義はこれらの三要素を具体的に評価、算定することによって得られる保険料や責任準備金の仕組み、計算方法等について基本的な事項を説明する。また、このような三要素があるために、生命保険会社会計は一般事業に見られないユニークさを有していることから、生保会計の特徴についても説明し、生命保険事業の仕組みや経営の理解に努めたい。

テキスト：

使用せず（適宜資料を購入してもらう）

参考書：

指定せず

---

### リスク・マネージメント各論（現代社会とリスク）(秋学期)

教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

現代社会において、われわれが直面するリスクは巨大化、多様化、複雑化している。こうした中で、安定的かつ効率的な経済発展のために、近年、リスクマネジメントのあり方についての関心が急速に高まってきている。本講義では、主として、企業活動の観点から、実際の事例を交えながら、リスクマネジメントの考え方ならびに課題を論じる。

テキスト：

特定のテキストは指定しないが、参考書を随時紹介する。

参考書：

- ・亀井利明『リスクマネジメント総論』同文館
- ・甲斐良隆・加藤進弘『リスクファイナンス入門』金融財政事情研究会
- ・新日本監査法人『統合リスク管理』金融財政事情研究会
- ・インターリスク総研『実践リスクマネジメント』経済法令研究会
- ・武井勲『リスクマネジメントと危機管理』中央経済社

# [ G 産 業 ・ 交 通 ]

産業組織論 (春学期集中)

教授 井手 秀 樹

## 授業科目の内容：

産業組織論は応用ミクロ経済学の一分野です。この講義では、なるべく具体的な事例を取り上げながら、現実の様々な企業行動が経済厚生に与える影響 (独占・寡占問題)、さらには独占禁止政策・公共政策の必要性を論じます。なお、独占禁止法に関しては、専門の科目として「経済法」があります。

## テキスト：

植草・井手他「現代産業組織論」NTT 出版

## 参考書：

新庄浩二 (編)『産業組織論』有斐閣ブックス

## サービス経済学

休 講

## 交通経済論

助教授 伊 藤 規 子

## 授業科目の内容：

この講義では、交通・公益事業分野の産業に属する企業の、

- ① 構造と行動の一般的な理論、および、
- ② これら産業に対する政策を経済学的に分析する際のベンチマークがどのようなものであるか、

を理解してもらうことを目的とする。交通・公益事業サービスは、社会的な生活に不可欠なサービスあるいは社会資本であるがゆえに、政府による市場への介入が頻繁に行われる。しかし経済活動である以上は資源配分の効率性からの視点が不可欠である。厚生経済学の基礎的な理論はその意味で交通・公益事業分野を分析するうえでの有力な道具である。本講義では、厚生経済学の概念整理から出発し、規範的なアプローチによる伝統的経済理論からの分析道具の提供をする一方、近年整理がなされてきた、ポジティブ・アプローチによる「規制の経済学」の考え方も示すことで、規制政策を考える際に有用な道具も提供する。なお、公平性といった観点も必要な場合については、適宜、概念を提示することにします。

## テキスト：

特に指定はないが、担当者作成の授業用のホームページがある。これについては講義でアナウンスする。

## 参考書：

- ・竹内・山内『交通経済学』(有斐閣アルマ)
- ・藤井・中条編『現代交通政策』(東大出版会)
- ・岡野行秀『交通の経済学』(有斐閣)
- ・永井・藤井・阪本他著『経済政策入門 (2)』(有斐閣)
- ・ウォーターソン著、木谷・新納訳『企業の規制と自然独占』(晃洋書房)
- ・山谷修作編著『現代日本の公共料金』(電力新報社)
- ・前田義信『交通経済要論』(晃洋書房)

その他、必要に応じて授業中にアナウンスする。なお、上記の参考文献は、旧図書館内に設置のリザーブブックにあるので、閲覧が可能である。

## 産業組織各論 (規制の経済学) (春学期) (社会問題の経済学) (秋学期)

教授 中 条 潮

## 授業科目の内容：

この講義では、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学的に検討する。

あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けているが、これは「公共性」、すなわち市場の失敗・欠落の議論によって説明することができる。交通や通信の公共性、金融や保険の自由化、農業保護、流通規制、外国人労働者規制、住宅問題、発展途上国への経済援助といった様々な経済問題は、市場の失敗の視点から分析することよ

って政策判断に寄与することが可能である。したがって、商学部の産業・経済分野を学ぶ者にとっては、政府規制の問題は必須的バックグラウンドであると言える。

また、経営・会計分野の学生にとっても、企業の経営分析や財務分析を行なうにあたって、政府規制は少なからず影響を与える変数である。たとえば、規制下にある企業の経営指標は一般的に安定的であるが、それは政府の保護によるものであって経営政策に基づく安定度ではないかもしれない。

さらに、規制は経済上の規制にとどまらない。我々の日常生活は多くの規制にとりかまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実には照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

それゆえ、医療、自然保護、公害、教育、国防、福祉、死刑廃止論議など、社会的問題とされている様々な問題についても、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論することが可能である。

このように、市場介入の意義・妥当性を研究することによって、経済制度・社会制度を経済学的に分析するのが本講義の目的である。

## テキスト：

[春学期]

- ・中条潮『規制破壊』(東洋経済新報社)
- ・藤井・中条編『現代交通政策』(東大出版会) 第4章

[秋学期]

- ・中条潮『景気復活最後の切札—規制改革なくして日本再生なし—』小学館文庫

## 参考書：

必要があればその都度指示する。

## 産業組織各論 (産業組織と企業戦略) (春学期)

教授 高 橋 美 樹

## 授業科目の内容：

産業組織論は、他の学問分野と密接な関連をもって発展してきました。本講義では、関連分野の中でもとくに企業戦略論との関連に注目し、企業のとる様々な戦略的行動、また、企業競争力の源泉について議論したいと思います。

## テキスト：

特に指定しません。

## 参考書：

必要に応じて、講義中に紹介し、またプリントを配布します。

## サービス経済学各論 (非営利組織の経済学) (秋学期)

教授 中 島 隆 信

## 授業科目の内容：

本講義の目的は非営利組織が現代の市場経済において果たす役割について需要と供給の両面から解説することを目的とする。非営利組織は営利を目的としない組織という意味の名称であるが、実際は残余利益を配分しないという原則の下で活動する民間法人のことをいう。そのため、非営利組織の行動を分析するには通常利潤最大化とか株価値最大化という行動原理を適用することができない。また、利益配分を行わないため、組織の所有者が存在せず、通常営利企業のようなガバナンス (統治) システムが機能しない。こうした様々な特徴を持つ非営利組織を経済学ではどのように扱うかについて講義していく。講義の後半では、学校法人、宗教法人、社会福祉法人など具体的な非営利組織に関する事例研究を紹介する。

## テキスト：

中島隆信『お寺の経済学』(東洋経済新報社、2005年)

授業科目の内容：

経済地理は、経済活動の空間的側面に焦点をあてて分析を行うが、経済活動のグローバル化や地域経済統合などによって、企業、産業、地域・都市経済、国民経済、国際経済の様々なレベルにおいて経済の空間的組織化は急速かつ根本的に変容してきている。本講義では、空間経済学や地理学的視点からこれらの変化や変容を明らかにしてゆく。都市・地域経済、国際経済、グローバル企業経営などに関心のある学生の履修に適している。他学部の学生の履修も認めるので経済学の理論的知識については適宜説明を行う。

テキスト：

杉浦章介『都市経済論』（2003年）岩波書店

参考書：

杉浦章介他『人文地理学』（2005年）慶應義塾大学出版会

交通経済各論（国際交通論Ⅰ）（春学期）

国際海上輸送 講師 織田政夫

授業科目の内容：

国際交通の一手段というよりも、主要な国際物流手段である「海上輸送」は、一国の産業経済ならびに国民経済のいわばインフラストラクチャーとして、現代の生産および流通活動の根幹を成している。『交通経済各論（国際交通論Ⅰ）』は、その海運活動が営まれる「国際海運市場」がどのような構造になっており、そこでどのような競争が展開されているかを分析し、市場構造と競争の本質を明らかにする。そして、これによって海運業の景気変動のメカニズムを知るとともに、世界海運を構成する主要海運勢力について把握する。

次いで、この国際海運市場で営まれる「海運業の経営特性」を明確にする。

続いて「海運政策の概念と本質」を明確にしたうえで、海運政策の形態、海運政策と海運業経営との係わり、わが国の海運政策課題等について考察する。

テキスト：

特に指定しない。必要に応じて統計資料等を配布する。

参考書：

織田政夫『海運要論』（海文堂）

〔 H 労働・社会 〕

労働経済学

教授 清家 篤

授業科目の内容：

現在の労働市場で起きていることを経済学の枠組みを使って理解、分析できるようにすることを目的にしています。内容は次の通りです。

〔Ⅰ〕労働経済分析の枠組み

- (1) 労働経済学とは何か
- (2) 労働力の観測
- (3) 労働統計

〔Ⅱ〕労働の需給

- (1) 労働供給
  - (i) 性・年齢別労働力率の観測
  - (ii) 就業・最適労働供給時間の決定
  - (iii) 労働供給曲線の導出
- (2) 労働需要
  - (i) 労働需要の決定要因
  - (ii) 産業別労働需要の変動
  - (iii) 最適労働需要の決定
  - (iv) 労働需要曲線の導出

〔Ⅲ〕労働市場

- (1) 失業
  - (i) 失業とは何か

- (ii) 失業にかんする経験法則

- (iii) 日本の失業構造

(2) 雇用調整

- (i) 雇用調整とは何か
- (ii) 雇用調整係数と雇用調整コスト

(3) 労働市場における情報の役割

- (i) 情報の不完全性
- (ii) 情報の不完全性ゆえに生じる経済主体の行動
- (iii) 情報の不完全性と企業組織

(4) 労働力のフロー表

- (i) 労働力のフローとは何か
- (ii) フロー表を使った分析

〔Ⅳ〕労働市場の実態分析

(1) 経済の構造変化と雇用制度

- (i) 人口構造の変化と雇用制度
- (ii) 競争構造の変化と雇用制度
- (iii) 意識構造の変化と雇用制度

(2) 賃金と労働時間の経済分析

- (i) 年功賃金制度とは何か
- (ii) 年功賃金制度の変化と能力・成果主義
- (iii) 労働時間と企業への貢献度
- (iv) 労働時間短縮のために

(3) 高齢者雇用の経済分析

- (i) 高齢者の労働供給
- (ii) 高齢者の労働需要
- (iii) 必要な制度変革

(4) 労使関係

- (i) 集団的労使関係の意義
- (ii) 変化する労使関係

テキスト：

清家篤『労働経済』（東洋経済新報社）

参考書：

生産性労働情報センター『活用労働統計』（社会経済生産性本部生産性情報センター）

産業関係論

講師 菊野一雄

授業科目の内容：

近代以降の工業化社会を、我々は「インダストリアル・ソサエティ」ないし「ビジネス・ソサエティ」と呼び、豊かな生活を約束された素晴らしい社会と思いついてきた。しかし、インダストリーは「勤勉」、ビジネスは「忙しい」（ビジー）であり「物的豊かさ」を求めて「物の加工」に忙しい時代であった。「忙しい」とは「心を亡ぼす」ことである。事実、我々は物的に豊かになればなる程、心を亡ぼしてきたように思う。だが、それは何故か。

何故、物的豊かさを求めて工業を興し、労働の細分化（分業）と機械化を推進すればする程、雇用をめぐる諸関係（産業関係）にさまざまな矛盾（副作用）が生じてきたのか。商（ビジネス）学部において産業（インダストリー）関係論を学ぶ意義はまさにこの点の解明にある。

産業関係（Industrial Relations = IR）という用語は1910年代頃から英米において使われてきたが、いまだ研究者の間で共有できる統一的な概念や理論体系を有していない。産業関係（IR）は広義には「雇用関係から派生する全ての行動、ないし雇用過程に関連する全ての行動」（D. ヨーダー）であるが、本講義では労働市場と雇用管理の接点に焦点をあてていきたい。

テキスト：

- ・菊野一雄・八代編著『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社
- ・菊野一雄『現代社会と労働』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・菊野一雄『Humanization of Work and Japanese Personnel Management』（英文）楽出版
- ・菊野一雄『模索時代の人間と労働』中央経済社
- ・菊野他編著『雇用管理の新ビジョン』中央経済社
- ・今村仁司『仕事』弘文堂

- ・今田高俊『自己組織性』創文社
- ・加藤尚武『環境倫理学のすすめ』丸善
- ・二神恭一編『戦略的人材開発』中央経済社

---

## 産業社会学

教授 三浦雄二

---

### 授業科目の内容：

現在私たちが「産業社会」という形で営んでいる社会生活の意味を考えたい。豊さや便利さは成果であるが、仕組みの硬直さや経済主義的価値への偏重などは弊害的である。しかもこれらの成果や弊害は、この社会を貫く資本主義的工業化の論理に常に曝されており、安定的ではない。我々の多くは労働者という形で産業活動に従事し、産業的な生活様式を享受しながら生きていくのだが、その過程で我々が自覚的に取り組まなければならない問題は多くある。社会の在り方としては、産業社会はなお科学的な考察の対象である。

### テキスト：

テキストは使用せず、講義を中心としている。

### 参考書：

参考文献は区切りの良いところでまとめて紹介している。

---

## 組織心理学

助教授 吉川肇子

---

### 授業科目の内容：

組織と個人の適合的關係について、心理学的視点から検討します。そのために、組織心理学の基本的な知識を学びます。

講義とともに、授業内に実習やLTD学習を行い、体験的に理解を深めることをねらっています。

### テキスト：

小口孝司・楠見孝・今井芳明（編著）エミネントホワイト 北大路書房

### 参考書：

レイポー・チャーネス・キッパーマン・ベイシル（著）丸野・安永（訳）討論で学習を深めるには—LTD話し合い学習法— ナカニシヤ出版

---

## 社会保障論（春学期集中）

教授 権丈善一

---

### 授業科目の内容：

この講義の意義と目的は、最近の社会保障政策の動向を理解してもらうのみならず、君たちが大学を卒業し、社会で重責を担う年齢に達したときでも、自分自身で社会保障の政策動向を評価し、さらには政策をデザインすることができる力を身に付けてもらうことにもある。そして、講義を進める際に、特に次の2つのことを意識する。

- ・物事を抽象的に考える（モデルを使って考える）大切さを分かってもらうこと
  - ・望ましい政策を導き出す考え方は、実は、数多く存在し、考え方の数だけ「望ましさ」があるのを分かってもらうこと
- なぜ、これら2つのことを意識した講義を行うのかを理解してもらうために、少し説明しておこう。

今、君たちに、「社会保障に関する過去1ヶ月の政策動向を、10分間で分かりやすく説明せよ」という課題が与えられたとしよう。君たちの能力をもってすれば、この課題は難なくこなせるはずである。そこで次に、「過去1年の社会保障の動きを、10分間で分かりやすく説明せよ」と言われたとする。さらには、「過去5年、そして過去10年の動きを、10分間で分かりやすく説明せよ」と、質問の難易度がエスカレートしていったとしよう。この種の難問にみごとに答えるためには、物事を抽象的に考える能力、モデルを使って考える能力が必要となる。さらに時には、身近な例にたとえながら—身近な例に対する共通の理解の助けを借りて説明の時間を節約しながら—複雑な出来事を分かりやすく説明する能力が必須となる。社会保障に関する現実の政策動向の中から、枝葉末節を取り除き、重要な要因のみをもって抽象化したシナリオを作る能力がなければ、10年のできごとを10分というコンパクトな時間に要約することはできない。

それでは次の課題については、どうであろうか。「社会保障の過去における政策動向を評価するとともに、将来の望ましい社会保障と税

制の在り方を提案せよ」。この課題に答えるためには、何をもって「望ましい社会保障」のあり方なのかという評価規準を、どうにかして設定する必要がある。ところが面白いことに、何をもって望ましいとするかという評価規準は、実は、ひとつではなく、世の中にはたくさん存在するのである。わたくしは、君たちに、数多くの評価規準を示し、そのなかから、君たち自身が望ましいと思う望ましさ(?)を選択してもらいたいと思っている。何を言っているのか分からないかもしれないが、講義に出席していれば、不思議と理解できるようになるので心配の必要はない、と思う。

このようなことを意識しつつ、具体的には、「社会保障のまわりで、過去10数年の間、いったい何が起こってきたのか、そしてこれから10数年にわたって、いったい何が起ころうとしているのか」を理解してもらえるように講義を進め、中長期的な視野で政策動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいたいと願っている。

また、社会保障は、ほとんど毎日、新聞の紙面ににぎわしているわりには、これらの制度は複雑で用語は特殊すぎるために、多くの人は、問題の所在をとらえきれていない。この社会保障論では、政策の動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいながらも、制度、用語の説明を可能な限り行っていきたい。

なお、この講義の特徴の一つは、講義専用のホームページから、講義のハンドアウト・関連資料をダウンロードしてもらうとともに、ホームページを通じて社会保障・税制に関する情報を、随時、君たちに提供できるシステムを活用していることにある。1999年より始めたこの方法のおかげで、タイムリーかつ相当の量の情報を、毎週、君たちに提供できるようになっている。

### テキスト：

権丈善一(2001)『再分配政策の政治経済学—日本の社会保障と医療』慶應義塾大学出版会

### 参考書：

- ・権丈善一(2003)『年金改革と積極的社会保障政策—再分配政策の政治経済学Ⅱ』慶應義塾大学出版会
- ・二本他編『医療経済・政策学』勁草書房

---

## 産業関係各論（労務管理論）

教授 八代充史

---

### 授業科目の内容：

労務管理とは、市場経済において最大利潤の獲得という目的の下に企業が行うヒトの管理についての諸活動を総称したものである。

この講義では、昇進・昇格、人事考課といった労務管理の諸活動についての基本知識を与えることを重視する。ただこうした労務管理の諸活動の背景にある理論的な意味や歴史的な経緯も、この講義の重要な課題である。

### テキスト：

- ・佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（新版）』有斐閣アルマ、2003年。
- ・佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル人事労務管理』有斐閣、2000年。

### 参考書：

- ・白井泰四郎『現代日本の労務管理（第2版）』東洋経済新報社、2002年。
- ・八代充史『管理職層の人的資源管理—労働市場論的アプローチ』有斐閣、2002年。
- ・菊野一雄・八代充史編『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社、2003年。

---

## 産業社会学各論（経営社会学）

講師 塚本成美

---

### 授業科目の内容：

経営社会学は、社会不安の引火点としての経営という視角から、社会構成体としての経営の社会過程・社会関係の解明を目的として、1920年代ワイマール期のドイツで形成された。経営社会学の底流には、自立した産業市民層の育成と企業経営の全体社会への自覚的編入を基本理念とした、経営の社会改革という考え方がある。混迷する社会を根底から改革するという経営の社会的・人間的課題からも、環境適合的な動的組織編成という経営の経済的・戦略的課題からも、経

営従業者の自発性と自立性の要求をみたすことは現代経営の急務である。自発性と自立性は、働く人間の自由な精神活動を前提とするため、企業経営の人間問題は、現代の高度の合理化された経営支配構造の中で、経営従業者の人格的独立と社会的協同はいかにしたら両立可能か、という問題に行き尽す。ここに経営の人間的・社会的問題の核心がある。

本講義では、経済的計算理性と社会的理性の錯綜した経営の社会的現実をときほぐしながら、経営の社会的・人間の問題に対する理解を深めることをめざす。経営が社会不安のより切迫した発生源としておおきな社会的影響力をもつ時代に生きるわれわれは、経営の現実から社会の行く末を看破する洞察力を養わなければならないからである。

#### テキスト：

とくに指定しない。

#### 参考書：

講義のなかで、必要に応じてその都度紹介する。

## 〔Ⅰ産業史・経営史〕

### 産業史(春学期)

助教授 牛島利明

#### 授業科目の内容：

この講義では明治期から戦時期にいたる日本の産業発展とそれを支えた制度的要因を事例としてとりあげ、産業の発展・衰退の過程、産業間の相互依存関係、個別産業と経済全体との関連について理解を深めることを目的とする。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

参考文献は必要に応じてその都度指示するが、さしあたり下記の文献を参照されたい。

- ・橋本寿朗『近代日本経済史』岩波書店、2000年。
- ・西川俊作ほか編『日本経済の200年』日本評論社、1996年。

### 経営史(春学期)

教授 平野 隆

#### 授業科目の内容：

今日の企業が直面している諸問題の本質を把握するためには、それらが歴史的に形成されてきた過程を理解することが不可欠である。

この講義では、まず経営史学の基本的な考え方と方法について解説し、つづいて18世紀以降のイギリス、アメリカおよび日本におけるモダン・ビジネスの形成・発展と企業経営の展開過程を概観する。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

参考文献は講義中に適宜指示する。さしあたって以下の文献をあげておく。

- ・大河内暁男『経営史講義』(第2版) 東京大学出版会、2001年。
- ・宮本又郎ほか『日本経営史』有斐閣、1995年。
- ・鈴木良隆・安部悦生・米倉誠一郎『経営史』有斐閣、1987年。

### 産業史各論(科学技術政策史)(春学期)

科学技術発展における国家の役割

講師 ルイス, ジョナサン

#### 授業科目の内容：

世界各国の科学技術政策がどのような目的で形成されてきたのか、科学技術政策の効果、そしてそのおもいがけない結果などを論じる。国家が科学研究と技術開発で果たしてきた役割を具体的な例を紹介しながら考察する。

例年では、講義の前半は日本語で、後半は英語を用いるが、参加者の希望に合わせる。

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses on the role of the state in promoting and regulating scientific

research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

#### 参考書：

- ・Etzkowitz, Henry, 2002. *MIT and the Rise of Entrepreneurial Science*. Routledge.
- ・Fuller, Steve, 1997. *Science*. Open University Press.
- ・Levy, Pierre, 2001. *Cyberculture*. University of Minnesota Press.
- ・Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshioka, Hitoshi, 1999. *Science, technology and society in contemporary Japan*. Cambridge University Press.
- ・Penley, Constance, 1997. *NASA/Trek: Popular Science and Sex in America*. Verso.
- ・Samuels, Richard J., 1994. *"Rich Nation, Strong Army"*. Cornell University Press.
- ・加藤弘一著『電腦社会の日本語』文春新書、2000。
- ・中山茂他編『通史 日本の科学技術』ガクヨウ書房、1995。

### 産業史各論(日本産業史Ⅰ)(秋学期)

助教授 牛島利明

#### 授業科目の内容：

この講義は、戦後日本における主要な産業の変化を概観し、現代日本経済・産業の歴史的背景に対する理解を深めることを目的とする。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

必要に応じてその都度指示するが、さしあたり下記の文献を参照されたい。

- ・森川英正編『戦後経営史入門』日本経済新聞社、1992年。
- ・橋本寿朗ほか『現代日本経済』有斐閣、1998年。
- ・橋本寿朗『現代日本経済史』岩波書店、2000年。

### 産業史各論(比較小売業史)(秋学期)

教授 平野 隆

#### 授業科目の内容：

本講義は、19世紀後半以降の日本、イギリスおよびアメリカにおける近代小売業の成立・発展過程を比較検討し、各国の異なる社会的・歴史的背景要因が、小売業の発展パターンにどのように反映したかを考察する。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

- 講義中に適宜指示する。さしあたり、以下の文献を参照されたい。
- ・J. ベンソン, G. ショー編, 前田他訳(1996)『小売システムの歴史的発展』中央大学出版部。
  - ・山本武利・西沢保編(1999)『百貨店の文化史—日本の消費革命—』世界思想社。

### 経営史各論(アメリカ経営史)(春学期)

講師 安部悦生

#### 授業科目の内容：

企業と企業家の発展を理解する。産業史、経済史、経営学、経営組織論、経営戦略論、ミクロ理論などをすでに勉強したか、それらと並行して、勉強することが望ましい。

#### テキスト：

『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣、2002年

#### 参考書：

- ・安部悦生『経営史』日経文庫、日本経済新聞社、2002
- ・『経営学のすべてがわかる本』学習研究社、2004

授業科目の内容:

わが国の明治以降の急速な経済発展をとげた要因のひとつに、近代の動力技術の普及があげられます。この経営史各論は動力技術の国内移植過程を説明し、あわせて西洋技術を導入・定着させる基盤となった諸条件について考察を加えていきます。講義内容は主に電気利用の歴史考察を中心に構成されます。この電気利用が2つの産業「電燈・電力」産業と「電気機械」産業の生成と発展に規定された事実を前提に講義をすすめ、折にふれて、両産業発展のキーパーソンとなった技術者、経営者の行動、思想に言及していきます。

〔 その他 〕

数学各論 (確率解析) (秋学期)

確率論とその応用 専任講師 安田公美

授業科目の内容:

社会や自然現象の中に見られる確率現象を論理的に解析するために必要な数学的概念、定式化を学びます。

テキスト:

最初の授業の時に指示。

参考書:

最初の授業の時に指示。

数学各論 (経済数学基礎) (春学期) 教授 小宮英敏

授業科目の内容:

第1学年配当授業の「微分法」と「線形代数」の履修を前提として、それを補完し経済数学の理論展開を理解するに必要な知識を与えることを目標とする。時間の関係で重要な数学的結果の細かい証明まで扱うことはできないが、その結果の意味の理解と運用ができるよう授業を進める。

テキスト:

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書:

- ・ K. Binmore and J. Davies, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.
- ・ R.K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.

数学各論 (最適化理論) (秋学期) 教授 小宮英敏

授業科目の内容:

数学各論 (経済数学基礎) の履修を前提とし、最適化理論としてまとめられているトピックスの中で基本的なものを学ぶ。経済学における効用最大化、利潤最大化、ゲーム理論における利得最大化などの数学的構造を正確に理解することを目的とする。

テキスト:

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書:

- ・ R.K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.
- ・ K. Binmore and J. Davies, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.

数学各論 (ゲーム理論) (春学期) 助教授 木戸一夫

授業科目の内容:

無視し得ない力を持つ複数の主体に係る最適値問題としてゲーム理論を学ぶ。ゲーム理論の基本概念と、テキストにある応用例を結びつけながら、使えるゲーム理論を身につけることを目指す。授業は、おおむねテキストにそって進める。授業の前半 (1時間程度) では、テキストの所定部分を履修者が発表し、それを基に議論をする演習形式とする。後半 (30分程度) では、次週演習する内容を深く理解する

ために必要な、ゲーム理論の諸概念・諸定理を講義する。

テキスト:

ミラー著『仕事に使えるゲーム理論』阪急コミュニケーションズ

参考書:

中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣ブックス

情報処理 III (電子計算概論)

産業研究所 教授 新井益洋

授業科目の内容:

今日の社会は情報化の時代と言われ、好むと好まざるにかかわらず、コンピュータと関係を持たずに済むことはできない。大学において研究を進める諸君にとってもコンピュータによる情報処理は不可欠なものとなってきている。そして、その多くはワードプロセッサや表計算ソフト、各種アプリケーションソフトなどの既製ソフトを利用して行うことになろう。

しかし、コンピュータの効果的利用を実現するためには、コンピュータに関する正しい理解が必要である。それには、既製ソフトの利用だけでなく、自分でプログラムを作り、コンピュータを使って実践することが最良の方法である。また、既製ソフトではできない処理に対処するためにも、自らプログラムを作成できることが望ましい。

授業内容に示す題目について解説しつつ、演習・実習をまじえて、実用面を重視した問題を通じて、どのようにすればコンピュータでの処理が可能になるのか、その考え方やその解き方、プログラミングの技法の習得を目的とする。なお、実習はパーソナルコンピュータを用い、使用言語は Java で行う。

テキスト:

使用しない。

参考書:

授業中に指示する。

法学各論 (民法 I)

民法物権法/総則 講師 河原格

授業科目の内容:

総則/物権・担保物権

日常生活の一部は民法の適用される領域であると思って間違いないほど、その適用範囲は広い。この講座では、民法の中で最もとっつきにくいとされるいわゆる民法総論、金融取引の分野で重要とされる物権法、担保物権法を主として勉強する。

テキスト:

〔春学期〕

河原格『入門 物権法』八千代出版 (2004年) 2300円

〔秋学期〕

斎藤和夫編『レーアブーフ 民法総則』中央経済社 (2004年) 2200円

参考書:

いずれも図書館に入っている

- ・ 内田貴『民法 I 〔第2版〕総則・物権総論』(2000)
- ・ 丸山英気『物権法入門』(1997)

法学各論 (民法 II)

民法 債権法 講師 河原格

授業科目の内容:

契約法/債権総論

日常生活は契約によって規律され、契約によって日々債権・債務 (内容) が発生している。このことから債権そのものは、非常に重要な法律内容と言える。特に金融関係に進む希望のある諸君にとり、債権譲渡、弁済などの内容は、大変役に立つものである。だから心して勉強してもらいたいと思っている。

テキスト:

〔春学期〕

河原格編『はじめての債権各論』泉文堂 2005年 2300円 (予定)

〔秋学期〕

河原格『入門 債権総論』八千代出版 2003 年

**参考書：**

平野裕之『民法Ⅱ』新世社 2002 年

---

**法学各論（商法Ⅰ）**

会社法講義

法学部 教授 鈴木 千佳子

---

**授業科目の内容：**

このところ、目まぐるしく変動する日本企業を取り巻く状況の変化によって、商法は毎年改正を受けているが、それは第二編会社編（いわゆる会社法）に関する部分である。会社に興味を持っている者は多いと思うが、会社の存在自体が法律によって認められているのであるから、是非、会社の設立、株式および株主、経営機構、資金調達、企業結合というような諸分野について、法的知識を持ってもらいたい。

**テキスト：**

古瀬村邦夫ほか編「プライマリー会社法」法律文化社

**参考書：**

授業中に指示する。

---

**法学各論（商法Ⅱ）**

法学部 教授 島原 宏明

---

**授業科目の内容：**

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。

具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

**テキスト：**

島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版（¥2,500）

**参考書：**

開講時に指示する。

---

**法学各論（経済法）（春学期集中）**

独占禁止法

産業研究所 助教授 石岡 克俊

---

**授業科目の内容：**

本講義では、実定経済法の中核をなし、経済の基本的秩序を形成している「独占禁止法」の体系的講義を行う。ただし必要最小限の範囲（独占禁止法の性格を明らかにする範囲）で、経済法理論についても触れる。独占禁止法は競争法とも呼ばれ、国内経済のみならず、国際経済をも基本的に秩序付けているグローバルスタンダードである。現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。

わが国の独占禁止法は、敗戦後の昭和 22 年（1947 年）に制定され、現代にいたるまで既に 50 余年が経過している。この間に、わが国の経済社会は大きく変化し、わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容、公正取引委員会の運用・解釈もそれに応じて変化してきたといえる。現代において独占禁止法の社会的役割、そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが、いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。

本講義では現実の経済社会で活用できる知識と応用可能な理論を提供する。

**テキスト：**

・教科書は特に指定しない。ただし、近時、経済法ないし独占禁止法のテキストが数多く刊行されているので、講義初回に現在入手（ないし参照）可能なこれら関連書籍の簡単な紹介を行う。

・講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当者の下記ウェブサイトを通じて公表される。ウェブサイトの URL は以下の通り。OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

**参考書：**

参考書も特に指定しない。前項と同様、経済法・独占禁止法に関する参考書や URL についてのさまざまなリソースへのアクセスは、講

義初回にまとめて案内する。

---

**法学各論（労働法）**

企業と労働者（いわゆるサラリーマン）をめぐる法的問題を分析する

法学部 助教授 内藤 恵

---

**授業科目の内容：**

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集団的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間位置する労働災害補償の問題を講義（第十一章）し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集団的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

**テキスト：**

テキストは使用せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣 2002）

**参考書：**

初心者向けの参考書として、

・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界（第 5 版）』（有斐閣、2003）  
・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第 8 版）』（有斐閣プリマシリーズ、2004）

良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法（第 6 版）』（弘文堂）

---

**ジャパニーズ・エコノミー（春学期）**

商学研究科 教授（フジタ・チェアシップ基金）小島 明

---

**授業科目の内容：**

戦後から現在に至る日本経済を世界経済との関連を重視しながら分析。高度経済成長、制度改革、雇用慣行、企業経営など多面的に論ずる。

1980年代の円高、バブル景気とその崩壊、不良債権問題、直接投資、金融改革、日本的経営の在り方などを議論する。日本が現在直面している政策問題も点検。講義及び討議は英語を使用。

ビデオ、テープなども利用しながら当局者、専門家の生の声、意見に接することができるようにしたい。

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and tapes etc.

**参考書：**

・“Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

・“Balance Sheet Recession — Japan's Struggle with Uncharted Economics and its Global Implications”, by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

**授業科目の内容：**

資本制生産様式の経済法則の解明としての政治経済学および経済思想の歴史を、主に17～19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、諸君とともに考えながら講義をすすめていく。

**テキスト：**

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、ノートを自らとる心掛けをもってほしい。下記の参考書は、それを前提にして学生諸君の理解を補助する通史であるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はある。

**参考書：**

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社、1968年（未来社の復刻版もあり）または『内田義彦著作集』（第2巻）岩波書店、1989年、2001年より増刷
- ・早坂忠編『経済学史—経済学の生誕から現代まで—』ミネルヴァ書房、1989年
- ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年
- ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社、昭和27年又は『同著』泉文堂〔16刷〕

これらは、あくまで参考文献であり、諸君自らが、古典文献を読まることが何より大切である。なお、他に必要な文献等は、授業中に適宜指示する予定である。

**経済広報センター寄附講座「企業の社会的責任(CSR)を考える」**

コーディネーター 教授 堀田一吉

**授業科目の内容：**

企業は経済活動を通じて広く社会との関係の中に存在する。同時に、企業は、消費者や従業員のみならず、株主、地域住民、環境、政府などステークホルダー（利害関係）に対する社会的責任を負っている。いまや単に利益追求のみを目的とするのではなく、社会的存在意義に照らし合わせて、企業価値が測られる時代となっている。本講座では、企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)に対する現代企業の考え方や取組みの実状を聞きながら、CSRを取り入れた企業経営のあり方について考えてみる。

**テキスト：**

特になし

**参考書：**

特になし

**特別講座「21世紀のマネジメント」(秋学期)**コーディネーター 教授 唐木 園 和  
教授 高橋 美 樹**授業科目の内容：**

商学部の基本理念の前文には「本学部は、福澤諭吉の実学の精神を『商学』の分野において継承し、現代社会の進歩と変革に対応して、つねに新鮮にして活力のある学部であることを目指す。」とある。

また、基本理念2には「教育にあたっては経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取組み、体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす」と掲げられている。

本講座は、慶應義塾大学商学部においてかつて学び、実学の精神を「商学」の分野において継承したうえで、現代の産業社会において、経営者（企業家）としてその進歩と変革に携わってこられた方々を講師とする。その講義を通じて、経済社会現象に対する、学生の自主的関心と豊かな発想を涵養することを目的とする。

**テキスト：**

使用しない。

**参考書：**

適宜紹介する。

**[大学院併設科目について]**

- 「環境の経済・経営・商業・会計」
- 「イノベーションの経済・経営・商業・会計」
- 「非営利組織の経済・経営・商業・会計」
- 「戦略の経済・経営・商業・会計」

以上の大学院併設科目については、以下の基準を満たした意欲のある学生のみ履修可能です。

3年生

2年生までの自由科目を除くAの個数が24個以上の者

4年生

3年生までの自由科目を除くAの個数が23個以上の者

※ いずれも原則として留年をしたことのある者を除く

以上の基準を満たさない場合の履修申告は無効となります。また基準を満たした場合でも、履修希望者多数の場合は人数調整を行う可能性もありますので、5月上旬に郵送する「履修申告科目確認表」でエラーメッセージが表示されていないか確認してください。

**環境の経済・経営・商業・会計（春学期）**

コーディネーター 教授 岡本大輔

**授業科目の内容：**

本講義は経済学・経営学・商業学・会計学のそれぞれの専門家が現代社会において環境問題をどのように研究し、成果をあげているかを講義する学際的科目であり、「環境学」へのプロローグである。

第1週（4月9日）ガイダンス

商業部教授 岡本大輔

コーディネーターにより本講義の担当講師と環境問題への統合アプローチによる講義概要が紹介され、引き続いて経済学的アプローチの第1回講義が行なわれる。

第1週（4月9日）廃棄物問題（経済Ⅰ）

商学部教授 和気洋子

廃棄物問題をめぐるPPP、拡大生産者責任などの原則論議、環境保全の政策手段と政策効果、あるいは一連の包装・容器、家電、自動車リサイクル法に関する具体的論議について講義する。

第2週（4月16日）地球温暖化問題（経済Ⅱ）

商学部教授 和気洋子

地球温暖化防止のための国際的な枠組みをめぐるとの諸課題を、日本経済の費用負担などとの関連から、講義担当者が関与する政府委員会等におけるエネルギー・炭素税などの話題に言及しながら、講義する。

第3週（4月23日）【休講】

第4週（4月30日）【休講】

第5週（5月7日）国際環境経済システム（経済Ⅲ）

商学部教授 和気洋子

環境と貿易/FDIをめぐるとの諸問題を解説し、途上国の持続的経済発展のシナリオや地球環境問題へのコミットメント問題などとの関連において、国際環境経済システムの構築に資する問題を講義する。

第6週（5月14日）なぜ、今環境経営が必要か（経営Ⅰ）

千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

20世紀に起こった人口爆発と飽くなき豊かさの追求の結果、人類は地球の限界に突き当たってしまった。「無限で劣化しない地球」から「有限で劣化する地球」へ地球観を切り替えていかなくてはならない。この変化を「自然満足度曲線」という新しい概念で説明する。

第7週（5月21日）資源生産性の向上でビジネスチャンスを探る

（経営Ⅱ） 千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

企業の基本戦略は、労働生産性の向上をいかに高めるかにある。エネルギー、資源に着目すると、20世紀の企業は、エネルギー、資源を多消費、多浪費することで、希望の経済を実現し、労働生産

性を高めてきた。しかし地球の限界に直面した 21 世紀の企業は、逆にエネルギー、資源を節約することで、労働生産性の向上を目指すなければならない。資源、エネルギーの節約とは、資源生産性を高めることにほかならない。その中にビジネスチャンスがある。

#### 第 8 週 (5 月 28 日) 環境ビジネス発掘のマトリックス (経営Ⅲ)

千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

人類が地球の限界に遭遇した今日、これまでのビジネスは大幅な修整を迫られている。このことは、逆にいえば、新しいビジネスを発掘し、発展させるまたとないチャンスと受け止めることができる。環境ビジネス発掘のマトリックスを説明し、それを埋めることで、新たなビジネスの発見に挑戦してもらおう。

#### 第 9 週 (6 月 4 日) 環境経営の定量評価 (会計Ⅰ)

中央大学経済学部教授 河野正男

環境に配慮する企業経営の定量評価に関する二つの手法—環境パフォーマンス評価と環境会計を紹介する。とくに環境会計の枠組みと基礎概念について詳述する。

#### 第 10 週 (6 月 11 日) 外部報告のための環境会計 (会計Ⅱ)

中央大学経済学部教授 河野正男

環境省の「環境会計ガイドライン」の解説の後、財務報告書および環境報告書における環境会計情報の現状をガイドラインに関連付けて紹介する。

#### 第 11 週 (6 月 18 日) 意思決定のための環境会計 (会計Ⅲ)

中央大学経済学部教授 河野正男

環境要因を考慮に入れたいくつもの管理手法すなわちライフサイクル・コスト、環境品質原価計算、トータル・コスト・アセスメントおよび予算管理などについて紹介する。

#### 第 12 週 (6 月 25 日) 環境問題とマーケティング (商業Ⅰ)

筑波大学大学院ビジネス科学研究科助教授 西尾チヅル

地球環境との共生や資源循環を推進する方法にはどのようなものがあるか、その中でマーケティングに課せられている役割とは何か、を概説する。その上で、環境マーケティングの概念と課題を企業事例を紹介しながら説明する。

#### 第 13 週 (7 月 2 日) 消費者の環境配慮行動の規定要因とその特徴 (商業Ⅱ)

筑波大学大学院ビジネス科学研究科助教授 西尾チヅル

市場を構成する消費者の環境問題への認知の特徴や環境配慮行動の規定要因に関する国内外の研究を紹介し、その特徴を整理する。それらを踏まえた上で、環境配慮型商品の市場を拡大するためのコミュニケーション方法や整備すべき仕組みなどについて議論する。

#### 第 14 週 (7 月 9 日) 環境マーケティングの展開方法 (商業Ⅲ)

筑波大学大学院ビジネス科学研究科助教授 西尾チヅル

上記 2 回に渡る議論を通じて、環境マーケティングの内容を製品・サービスの企画・販売段階、使用・消費段階、廃棄・資源回収段階ごとに整理し、具体的な展開方法について議論する。また、企業の環境マーケティングを推進するために必要な法制度や社会システムについても考察を加える。

### イノベーションの経済・経営・商業・会計 (春学期)

コーディネーター 教授 高橋 郁夫

#### 授業科目の内容：

講義は以下に記すスケジュールに従って進める予定である。

#### 1. オリエンテーション

(担当：慶應義塾大学教授 高橋郁夫)

##### 第 1 回 (4 月 9 日)

本講義のねらいと進め方、それに成績評価の仕方等について情報の伝達を行う。

#### 2. イノベーションと経済

(担当：学習院大学教授 宮川努)

##### 第 2 回 (4 月 16 日) マクロ経済とイノベーション

マクロ経済学において、技術進歩やイノベーションがどのように組み込まれているかを説明し、昨今の日本経済における技術進歩の役割について説明する。

##### 第 3 回 (4 月 30 日) IT 投資と日本経済

1990 年代に入って、世界的に IT 化が急速に進んでいる。経済

学では、この IT 化をどのように把握しているのか、また日本の IT 化は、世界に比べて進んでいるのか、遅れているのかということを経済データに基づきながら論じる。

#### 第 4 回 (5 月 7 日) イノベーションの源泉：研究開発投資と人的資本

経済学では、イノベーション (技術進歩) の源泉は、研究開発投資による知識ストックの蓄積と教育による人的資本の向上であると考えられている。両者の動向について、統計データに基づきながら解説を行う。

#### 3. イノベーションと会計

(担当：東洋大学教授 西村優子)

##### 第 5 回 (5 月 14 日) イノベーションと戦略的管理会計

イノベーションは新製品や新サービスを提供する新知識の創出であり、新知識は技術知識とマーケット知識等からなり企業の競争力の源泉と考えられる。新知識の創出のプロセスは企業の経営戦略の策定と密接に関連する。イノベーションによる新知識の創出・ストック、経営戦略の策定と実行、ならびに戦略的管理会計との関係について取り扱う。

##### 第 6 回 (5 月 21 日) 知的資産の会計的評価

イノベーションによって創出・蓄積される知的資産を会計的に測定し評価する方法として、①コスト・アプローチ、②インカム・アプローチ、③マーケティング・アプローチがある。これらの測定方法の理論と計算について、具体的に明らかにする。なお、通商白書 2004 年の第 2 章「新たな価値創造経済」と競争軸の進化を参考資料として用いる。

##### 第 7 回 (5 月 28 日) 知的資産に関する会計情報と開示

知的資産の会計処理、会計情報の開示、ならびに知的財産報告書について以下の指針、会計基準などに基づいて検討する。

・日本公認会計士協会経営研究調査会研究報告 24 号「知的財産評価を巡る課題と展望 (中間報告)」(2004 年 6 月)

・経済産業省「知的財産情報開示指針 特許・技術情報の任意開示による企業と市場の相互理解に向けて」(2004 年 1 月)

・国際財務報告基準における IAS38 号「無形資産 (Intangible Assets)」(1998 年)、IAS36 号および IAS38 号の改訂公開草案 (2002 年)

・米国財務会計基準書 142 号「暖簾およびその他の無形資産 (Goodwill and Other Intangible Assets)」(2001 年)

#### 4. イノベーションと経営

(担当：サンノゼ州立大学教授 Mark Fruin)

##### 第 8 回 (6 月 4 日) 第 9 回 (6 月 11 日) 第 10 回 (6 月 18 日)

アメリカのハイテク企業におけるイノベーション・マネジメント、特に研究開発のプロセスの現状と特質についてシリコンバレーを拠点として行動しているベンチャー企業を中心にして理論的・実証的な視点から解説する。

##### ① イノベーションの分類と企業戦略

##### ② イノベーションとグローバルイノベーションの諸点

#### 5. 流通におけるイノベーション

(担当：青山学院大学教授 田中正郎)

第 11 回 (6 月 25 日) 流通における情報一定型の情報と非定型の情報—情報という言葉が意味するところは、必ずしも一定したものではない。流通において特に必要とされる情報は、商品の需要と供給に関するものである。こうした情報が持つ特徴とは何かを考える。

##### 第 12 回 (7 月 2 日) 小売業の商品管理システムと情報技術

小売業における商品管理システムは、技術革新の連続であった。キャッシュレジスターの発明から POS システムが開発されるまでの商品管理システムにおける技術革新のようすをふりかえってみる。

##### 第 13 回 (7 月 9 日) 企業間の流通関連業務プロセスの統合化

食品や雑貨品のメーカー、卸、小売を含めたサプライチェーン内の企業が協働して、サプライチェーン内の可視性向上やパートナーがもつリソースの活用等が模索されている。こうした動きの背景を考える。

\* 必要に応じて、学事日程上の 7 月 15 日 (木)、16 日 (金) を補講日とする。

テキスト：

各講義担当者が必要に応じて指示する。

**参考書：**

各講義担当者が必要に応じて指示する。

---

**非営利組織の経済・経営・商業・会計（秋学期）**

コーディネーター 教授 跡田直澄

---

**授業科目の内容：**

非営利組織について経済・経営・商業・会計の諸分野からのアプローチによる分析・検討により総合的な理解を深めることを目的とする。

1. 総論（跡田直澄）

- ① 非営利組織体の分類と特徴
- ② 非営利組織体と営利組織体の活動環境（資源の獲得、市場との関わり）の相違点と類似点
- ③ 非営利組織体の財務報告の目的

2. 商業（浅井慶三郎）

はじめに：本テーマの講義は大略以下の内容で行う予定です。

第1回は、NPOの社会的役割およびNPOが直面する経営問題をサービスマーケティングならびに税制の視覚から戦略的に論じます。

第2回は、NPOの主要分野の一つである大学の経営問題を取り上げて大学のマーケティングを論ずるが、特にAppsの今後の経営戦略を受講生諸君と一緒に考えてみましょう。

第3回は、冷戦後に於ける大国間の覇権を巡る文明の衝突が民族間紛争を多発させ、地球の人類、動植物および自然資源の浪費と環境の破壊を齎している現実をいかにして平和と共存の道を求めるかを、政治や軍事に頼らずグローバルな草の根の文化交流に見出すべきと思考し、NPOのグローバルネットワークをベースとする観光サービス（平和だから観光ができる、観光が出来るから平和が生まれる）の開発を問題として検討してみたいと考えています。

\*各回毎により更に詳しい講義内容のレジュメと必要に応じて参考となる新聞その他の資料を学事センターを通じて配布します。詳細は掲示でお知らせしますので、センターを訪れて確認し入手して、授業に出る前に授業内容を予想し予習してください。

\*基本的参考文献

- ・サービスとマーケティング（増補版）浅井慶三郎 2003 同文館出版（株）
- ・コミュニティビジネスの時代、NPOが変える産業、社会、そして人間 金子郁容他 2003 岩波書店
- ・新版コミュニティ・ソリューション 金子郁容 2003 岩波書店
- ・儲けはあとからついてくる、片岡勝のコミュニティビジネス入門 片岡勝 2002 日経新聞社

\*3回とも出欠をとります。また3回の講義終了後、以下の要領でレポートを学事センターに提出してください。（締切日等、詳細は掲示でお知らせします）

テーマ：小生の講義に関連づけて各自で問題だと考えるテーマを決めて結構です。これを1600字で旨く纏めて小論の形にして、A4版1ページにプリントする。

3. 経営（谷本寛治）

企業とNPOの関係について、具体的な事例をもとに考えていくことにする。

- (1) NPOの特徴：NPOの3つのパターン（慈善型、監視・批判型、事業型）
- (2) 企業とNPOの基本的な違いと類似点を確認する。
- (3) 企業とNPOの多様な関係性について下記の点について考察する。
  - ① 企業によるNPO支援
  - ② NPOによる企業の監視・批判
  - ③ NPOによる企業評価
  - ④ 企業とNPOのアランアンス

参考文献：

- ・谷本『企業社会のリコンストラクション』千倉書房、2002年。
- ・谷本・田尾編著『NPOと事業』ミネルヴァ書房、2002年。

4. 会計（会田一雄）

(1) 非営利組織における会計の機能

種々の非営利組織における会計の機能について、組織のガバナンスの在り方、社会環境、ステークホルダーの異質性等の視点に沿って考察する。社会の期待と現実の会計実務とのギャップが焦点である。

(2) 非営利組織の財務諸表と会計基準

非営利組織の形態により異なる会計基準における計算構造を分析し、現在、どのような改革が進んでいるかを展望しつつ、財務諸表の体系と情報利用の進め方を論じていく。

(3) 組織評価と会計情報

資源の効率的利用を推進する観点から、組織評価をいかに進めるべきかについて、NPMの流れを汲むパブリック・セクターの改革と会計情報の利用を中心に取り上げる。

参考文献：

- ・杉山学・鈴木豊（編）、「非営利組織体の会計」、中央経済社、2002年。
- ・松葉邦敏（編）、「新公益法人会計基準」、税務経理協会、2004年。

5. 経済

(1) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方1（中条潮）

非営利組織の存在理由は何か、非営利組織を営利組織と区別する理由は何かをミクロ経済学の視点から検討する。

(2) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方2（中条潮）

非営利組織に対する規制や支援の妥当性をミクロ経済学の視点から議論する。

(3) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方3（跡田直澄）

非営利組織の問題点、役割、規制や支援の妥当性をマクロ経済学の視点から検討する。

※この授業は回により第1・2時限の連続授業となりますので、履修申告の際は注意してください。

---

**戦略の経済・経営・商業・会計（秋学期）**

コーディネーター 教授 小宮英敏

---

**授業科目の内容：**

- 1. オリエンテーション 担当 十川 廣國  
講義の全体像についてのオリエンテーションを行う。

戦略の会計的視点

担当 田中 隆雄

2. 企業戦略と企業価値

日本企業は比較的最近まで、資本コストに注意をあまり払わなかった。その結果、資本効率を無視して、設備投資を行い事業を存続してきた。そのような企業戦略ないしは資源配分によって日本企業の資本効率は外国企業に比して著しく低くなっている。いうまでもなく、財務的目標は企業戦略を構築する際に最重視すべき課題の1つである。近年、欧米のみならず日本においても関心の高まっている財務測度として、企業価値がある。企業価値とはどのような測度で、それを測定する方法としてどのような方法があるのだろうか？また、企業価値重視の経営、いわゆるバリュウ・ベースのマネジメントとはどのようなものであるだろうか？日本企業の実態を含めて話すことにする。

3. 組織戦略と管理会計

近年、日本においては持株会社やカンパニー制といった新たな組織形態に移行する企業が少なくない。そして、これらの企業は社内資本金制を採用する場合が多い。また、会計の仕組みとしては、ビジネス・ユニット(BU)別の貸借対照表を作成している。社内資本金制やBU貸借対照表は事業業績の向上や企業戦略・事業戦略の遂行にどのような効果を発揮するのであるだろうか？また、BU貸借対照表の作成ユニットを細分化すれば、資産別の収益性を把握することも可能になり、時価主義会計で問題となる減損の把握が容易になる。組織革新と会計の仕組みについて検討することとする。

4. 戦略の実行と業績評価

近年、アメリカにおいては戦略の実行をモニターするツールとして、Balanced-Scorecard(BSC)が急速に普及しつつある。BSCはもともとBUの業績管理手段として考案されたが、実際に使っていると戦略の実行をモニターする機能を兼ね備えていることが解かった。BSCは財務的尺度と非財務的尺度の複合した測定尺度である。

非財務的尺度としては、顧客の視点、従業員の視点そしてプロセスの改善などによって構成される。非財務尺度は将来の業績を予測するうえで有益な尺度であるといわれるが、それは何ゆえか？非財務的尺度は戦略の実行とどのように関わるのであるのか？

#### 戦略の商業（マーケティング）的視点 担当 濱岡 豊

戦略についてマーケティングの観点から論ずる。3回の授業のうち初回ではマーケティングにおける戦略について復習した後、それらの限界、近年の展開を概観する。残りの2回では、近年のマーケティング戦略の動向として、ブランド戦略、消費者による開発のマーケティング戦略への影響について紹介する。

#### 5. マーケティング戦略のこれまでと限界

ここではまず、マーケティングにおける戦略立案プロセスの古典的な手順、概念を紹介する。下記の項目について紹介し、それぞれの課題を指摘する。そして、近年のマーケティングの動向について概観する。

マーケティングにおける戦略的発想の歴史

マーケティング戦略策定の古典的手順

SWOT分析

プロダクト・ライフサイクル

マーケット・セグメンテーション

ポジショニング

マーケティングミックスの策定

古典的な手順の限界

マーケティング戦略の動向

ワンツーワンマーケティング

共進化マーケティング

#### 6. ブランド戦略

マーケティング戦略の近年のトピックスとしてブランド戦略を紹介する。主な論点は下記の通り。

ブランドの歴史

ブランド資産の定義

ブランド管理の諸問題

ブランド拡張の成功条件

ブランドのアーキテクチャ

ブランド管理の組織

日本のブランドと海外のブランド

#### 7. 創造する消費者の台頭とマーケティング戦略へのインパクト

Linuxがユーザーによって開発されてきたことにみられるよう、消費者による創造、開発はマーケティングにとって無視できない現象である。筆者によって提案された創造しコミュニケーションする「アクティブ・コンシューマー」についての分析結果を紹介し、企業と消費者が相互作用しながら進化するという「共進化マーケティング」の方向性を展望する。

消費者、ユーザーによるイノベーション

アクティブ・コンシューマーの特徴

共進化マーケティングの成立条件

#### 戦略の経済的視点 担当 小宮 英敏

#### 8. 交渉問題の導入

社会では様々な交渉が行なわれるが、交渉が成功裏に決着した場合交渉の当事者たちは何らかの経済的行為をなし、その結果その経済的行為をなさない場合に比べそれぞれの効用が増加しているはずである。この交渉の戦略的構造が交渉による経済的価値の創造とその価値の分配という視点でとらえられることを理解することを目指す。また、交渉の当事者の効用には貨幣が加法的に含まれ効用が譲渡可能な場合を考察する。

#### 9. 交渉問題における交渉力と非協力ゲーム

交渉問題の交渉力が決定される要因として交渉当事者の時間選好が本質的であることを明らかにしたルービンシュタインの交渉理論を紹介する。これは交渉当事者をプレイヤーとする提案応答ゲームの形式をもつ非協力ゲームとして定式化される。提案応答の最終期間が明確に設定されている場合とそうでない場合の違いなど提案応答ゲームの特質の理解を目指す。

#### 10. ナッシュ交渉問題と協力ゲーム

交渉問題の古典であるナッシュの交渉問題を取り扱う。ナッシュの交渉問題は協力ゲームとして定式化される。この交渉問題の本質的な構造をとらえると共に、ナッシュによる交渉問題の公理的な解決法のアイデアを理解することが目的である。これは前回の非協力ゲームによる交渉問題の定式化と対照をなす。その理解のためには期待効用仮説、あるいは数学的な概念の理解が必要になるが、丁寧に解説するつもりである。

#### 戦略の経営的視点 担当 十川 廣國

#### 11. 企業経営から見た戦略

企業成長のためには、企業が目指すべき将来の方向を選択し、その目標実現のために経営資源をいかに活用するかが基本的な課題となる。こうした活動を担うのが経営戦略である。しかし、経営戦略に対する考え方は、伝統的な視点から現代的な視点へと変化を遂げてきている。まずは、戦略の経営的視点がどのように変容してきたかについての理解をすすめることにしたい。

#### 12. 持続的競争優位の構築と戦略経営

変化する環境のもとでの企業の成長・存続は、競争優位をいかに構築するかにかかっている。人々の創造性発揮を通じた経営資源の新たな活用が求められることになり、組織をいかに活性化するかが解決されるべき重要課題となる。新たな組織能力が競争優位の源泉になると考えられるからである。ここでは、こうした組織能力とは何か、それが競争優位構築にどう結びついて行くと考えられるのかについて検討したい。

#### 13. 戦略の経営的視点と戦略経営についてのまとめ

# 〔自主選択科目〕

## 〔 中国語科目について 〕

三田に設置された中国語の自主選択科目は、中国語第 XX (表現練習) である。

専攻科目Ⅲ類として設置される外国語特殊(中国語中・上級)を2コマ履修を希望し、かつ担当教員の了承を得られた場合、2つ目のコマを自主選択科目として履修することができる。

なお、この授業は専攻科目Ⅲ類の中・上級の会話より上のレベルを求める学生を対象とする。

中国語第

XX (表現練習)

### 授業科目の内容：

短い中国語のエッセイ、記要と物語などの意味をすばやく読みとる訓練と、習得した中国語の表現を用い、あるまとまった考えを文章で表す訓練をするレッスンである。

### テキスト：

初レッスンで指示する。

### 参考書：

中国語の辞書を持参する。

## 〔 その他の語学科目について 〕

以下のイタリア語、ロシア語、朝鮮語、アラビア語、ギリシャ語、ラテン語については、文学部併設であるため、履修人数が多い場合は文学部生優先となる。

必ず履修申告前に、授業担当者に許可をもらうこと。

イタリア語

文学部 講師 ジョエ、イニャツィオ

### 授業科目の内容：

初心者向けの会話クラス。日本語で文法の説明も行います。

### テキスト：

« ESPRESSO »

### 参考書：

- ・イタリア語のABC (白水社)
- ・1からはじめるイタリア語練習 (白水社)
- ・イタリア語を学ぶ (PHP 新書)
- ・日本語から引く知っておきたいイタリア語 (小学館)
- ・[辞書] ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典 (小学館)

口

### 授業科目の内容：

ロシア語文法をひとつおりの終了した者を対象とするクラスです。文法を復習しながら現代ロシア語文を正確に読む力をつけていきたいと思えます。

### テキスト：

プリントを配布します。

朝鮮語 (初級)

文学部 講師 崔 鶴 山

### 授業科目の内容：

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により、自己紹介、日常の簡単なやりとり、日記などの基本的な口語

表現及び文章表現ができるようになります。平常点、出席を重視します。

### テキスト：

「はじめての韓国語」崔鶴山著、白水社

朝

### 授業科目の内容：

この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、すでに現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

そして、教科書の文型や表現だけではなく、自分の意見や考えを伝えることができるように身につけることを目的としています。

### テキスト：

慶應義塾外国語学校のテキスト (中級)

### 参考書：

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

朝

### 授業科目の内容：

この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

### テキスト：

慶應義塾外国語学校のテキスト (中級)

### 参考書：

『外国人のための韓国語文法』延世大学出版社  
油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

アラビア語

文学部 講師 ザルイ、マブルーカ

講義内容は授業内で提示します。

ギリシャ語

文学部 講師 小 池 和 子

### 授業科目の内容：

古典ギリシア語の初等文法を学びます。

### テキスト：

水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)。  
その他適宜補助プリントを配布。

ラテン語

古典期のラテン語文法学習

文学部 講師 平 田 真

### 授業科目の内容：

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

### テキスト：

樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』(研究社)

### 参考書：

逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』(大修館書店)

# 諸 研 究 所

教 職 課 程 セ ン タ ー  
言 語 文 化 研 究 所  
メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 研 究 所  
体 育 研 究 所  
福 澤 研 究 セ ン タ ー  
外 国 語 教 育 研 究 セ ン タ ー  
国 際 セ ン タ ー  
情 報 処 理 教 育 室  
知 的 資 産 セ ン タ ー

## 教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

## 言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

〔参考〕平成17年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリットⅠ（初級）	土田龍太郎	通年 2単位
サンスクリットⅡ（中級）	土田龍太郎	
アラビア語Ⅰ（基礎）	尾崎貴久子	
アラビア語Ⅱ（現代文講読）	稲葉隆政	
アラビア語Ⅱ（古典）	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語Ⅰ（初級）	春日 淳	
ヴェトナム語Ⅱ（中級）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語Ⅰ（初級）	関 喜房	
ペルシア語Ⅱ（中級）	岩見 隆	
タイ語Ⅰ（初級）	三上直光	
タイ語Ⅱ（中級）	ポンシー，ライト	
トルコ語Ⅰ（初級）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語Ⅱ（中級）	ヤマンラール，アイドゥン	
朝鮮語文献講読	野村伸一（春学期） 李 泰文（秋学期）	
カンボジア語Ⅰ（初級）	三上直光	
ヘブライ語Ⅰ（初級）	笈川博一	
ヘブライ語Ⅱ（中級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅰ（初級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅱ（中級）	笈川博一	
アッカド語Ⅰ（初級）	高井啓介	
アッカド語Ⅱ（中級）	高井啓介	

## サンスクリット I (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

### 授業科目の内容：

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

### テキスト：

・ヤン・ホンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』(春秋社)  
・辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

### 参考書：

なし

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## サンスクリット II (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

### 授業科目の内容：

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

### テキスト：

参加者の希望で決める。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## アラビア語 I (基礎)

言語文化研究所 講師 尾崎 貴久子

### 授業科目の内容：

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

### テキスト：

・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1800円)  
・必要に応じて説明補助プリント, 練習問題を配布します。

### 参考書：

David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

### 授業の計画：

1. アラビア語(文語と口語, 文字と発音)について
2. アルファベットのつづり方
3. 名詞の性・格・複数
4. 人称代名詞と前置詞
5. 日常会話練習と練習問題
6. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(1)
7. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(2)
8. 練習問題
9. 名詞文の構造(1)
10. 名詞文の構造(2)
11. 日常会話練習と練習問題(1)
12. 練習問題(2)
13. 動詞完了形
14. 動詞未完了形
15. 名詞文復習と練習問題
16. 動詞文復習と練習問題
17. 受動態・分詞・動名詞・場所名詞
18. 練習問題
19. 不規則動詞
20. 不規則動詞練習問題
21. 関係代名詞
22. 練習問題
23. 派生形(1)
24. 派生形(2)

25. 練習問題

26. 総復習

### 履修者へのコメント：

アラビア語の文法はテキストを読むだけでは理解できない部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

### 成績評価方法：

試験の結果による評価(小テスト, 期末試験, 平常点で評価する。)

## アラビア語 II (現代文講読)

言語文化研究所 講師 稲葉 隆政

### 授業科目の内容：

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がついていない文章に対処できる力をつけることを目指す。

### テキスト：

プリントを配布します。

### 授業の計画：

- I. 講義 1 回目-3 回目 母音記号がついた極めて平易な短文の講読。
- II. 講義 4 回目-8 回目 母音記号がついた平易な文章の講読。
- III. 講義 9 回目-13 回目 母音記号がついたやや程度の高い文章の講読。
- IV. 講義 14 回目-18 回目 要所のみにも母音記号がついた文章の講読。
- V. 講義 19 回目-26 回目 母音記号がついていない文章の講読。

### 履修者へのコメント：

辞書は Hans Wehr: 「Arabic-English Dictionary」を使用して下さい。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## アラビア語 II (古典)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

### 授業科目の内容：

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みはどう生かすかを課題としてやります。

### テキスト：

・Brünnow-Fischer: Arabische Chkestomathie  
・プリントで配ります

### 参考書：

井筒俊彦：アラビア語入門，慶應出版社 1950.

### 授業の計画：

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

### 履修者へのコメント：

少くとも規則動詞原型の完了，未完了の変化は完全に頭へたつきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

## アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

### 授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

### テキスト：

受講者と相談して決めます。

### 参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. press, 1962

### 授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

### 履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずありますから、そのつもりで来て下さい。）

## ヴェトナム語 I（初級）

ヴェトナム語入門 言語文化研究所 講師 春日 淳

### 授業科目の内容：

ベトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能なる程度を目指す。

### テキスト：

『ベトナム語入門 I』（慶應義塾外国語学校）

### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. 概要：ベトナム語の類型的特点、方言などについて概説する
3. 発音の解説、練習、あいさつの表現（計3回）
4. 動詞文(1)：動詞、形容詞を述語に持つ文
5. 繋詞のある文(1)
6. 名前を言う表現
7. 動詞文(2) 基本的な動詞で練習
8. 職業、場所をいう表現
9. 存在・所有を表す文
10. 類別詞、指示詞
11. 繋詞のある文(2)
12. 場所を表す句と存在を表す文
13. 数詞、時刻の言い方
14. これまでの復習
15. 方向動詞(1)
16. 方向動詞(2)
17. 年月日、年齢、序数、曜日
18. 数詞を用いた表現の練習
19. 動詞文(3) 基本的な動詞、形容詞で練習
20. 可能、受身の表現(1)
21. 可能、受身の表現(2)
22. これまでの復習 (計2回)
23. 試験

## ヴェトナム語 II（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

### 授業科目の内容：

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

### テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

### 参考書：

初回に指示する。

### 授業の計画：

初回に指示する。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

### 授業科目の内容：

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。

### テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

### 参考書：

初回に指示する。

### 授業の計画：

初回に指示する。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## ペルシア語 I（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

### 授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

### テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

### 参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

### 授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

### 履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

### 成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

## ペルシア語 II（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

### 授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

### テキスト：

受講する人と相談して決めます。

### 参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ.Press,1974

### 授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやりませう。

2回目以後はひたすらテキストを読みませう。

### 履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやりませう。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

---

**タイ語 I (初級)** 言語文化研究所 教授 三上直光
 

---

**授業科目の内容：**

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

**テキスト：**

開講時に指示します。

**授業の計画：**

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

**履修者へのコメント：**

活気のある授業にしましょう。

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

**質問・相談：**

授業中・授業後に受け付けます。

---

**タイ語 II (中級)** 言語文化研究所 講師 ボンシー、ライト
 

---

**授業科目の内容：**

このクラスでは、主にタイの小学校二年生の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの工場を目指します。

更に、スピーキング・リスニングによる理解にも、焦点をあてていきます。

**テキスト：**

特に指定しません。  
講義資料プリント配布します。

**授業の計画：**

- ・テキストを使用してのリーディング、リスニング、ライティング
  - ・用意されたトピックスでのスピーチ練習
1. ガイダンス
  2. レッスン 1 (計 2 回)
  3. レッスン 2 (計 3 回)
  4. レッスン 3 (計 3 回)
  5. レッスン 4 (計 3 回)
  6. テスト
  7. レッスン 5 (計 3 回)
  8. レッスン 6 (計 3 回)
  9. レッスン 7 (計 3 回)
  10. レッスン 8 (計 3 回)
  11. 学期末テスト

**履修者へのコメント：**

- ・あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい
- ・あらかじめスピーチでのアウトラインをタイ語で書いてきて下さい
- ・診断書なしでの 8 回以上の欠席は認めません

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**トルコ語 I (初級)**

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

---

**授業科目の内容：**

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

**テキスト：**

プリント使用

**授業の計画：**

第 1 - 2 回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。

- 第 3 - 7 回 “～は～です” の構文、助詞 (格)、副詞、形容詞
- 第 8 - 13 回 動詞 (現在・単純過去・超越などの時制)
- 第 14 - 17 回 動詞 (伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第 18 - 21 回 分詞
- 第 22 - 24 回 動名詞
- 第 25 - 26 回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安と考えてください。

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**トルコ語 II (中級)**

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

---

**授業科目の内容：**

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

**テキスト：**

プリント使用

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**朝鮮語文献講読** 文学部 教授 野村伸一 (春学期)

言語文化研究所 講師 李泰文 (秋学期)

---

**授業科目の内容：**

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、画像、写真、映像などを解説します。対象とする時代は特に限定しませんが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。一冊の本を選択し講読するかたちになります。

**テキスト：**

開講時に指定します。

**授業の計画：**

後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが一点にしばれない場合はこちらから提案します。

**履修者へのコメント：**

受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違おうとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**カンボジア語 I (初級)**

言語文化研究所 教授 三上直光

---

**授業科目の内容：**

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

**テキスト：**

開講時に指示します。

**授業の計画：**

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

**履修者へのコメント：**

活気のある授業にしましょう。

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

**質問・相談：**

授業中、授業後に受け付けます。

---

## ヘブライ語 I (初級) 言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者を想定している。

### テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

### 参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

### 授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## ヘブライ語 II (中級) 言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

### テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

### 参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

### 授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## 古代エジプト語 I (初級)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者を想定している。

### テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

### 参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

### 授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## 古代エジプト語 II (中級)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

### テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

### 参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

### 授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## アッカド語 I (初級) 言語文化研究所 講師 高井 啓介

---

### 授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

### テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

### 参考書:

開講時に指示します。

### 授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 (計三回) — コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹 (計四回, 語根の判別, 変化, 叙法など) とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形 (計二回)
7. 動詞 S 語幹とその派生形 (計二回)
8. 動詞 N 語幹とその派生形 (計二回)
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典, イシュタルの冥界下りなど — テキストを読みつつ文法事項を確認します (計九回)

### 履修者へのコメント:

古代メソポタミアの文化, 歴史, 宗教についても適宜紹介していくつもりです。

### 成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

---

## アッカド語 II (中級) 言語文化研究所 講師 高井 啓介

---

### 授業科目の内容:

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

**テキスト：**

テキストはプリントを準備します。

**授業の計画：****講義計画**

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

**履修者へのコメント：**

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価

## メディア・コミュニケーション研究所

### 【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所 (Institute for Media and Communications Research) は、昭和 21 年 (1946 年) に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成 8 年 (1996 年) に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行う研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていましたが (当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます)、今日では実習的な側面よりも研究生 (新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます) にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達が中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成 8 年 (1996 年) には、研究所 50 年の記念式典を行い翌平成 9 年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア (とくにコンピュータ・メディア) をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成 11 年 (1999 年) 10 月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム (MWR)」を開設しました (本格的稼働は平成 12 年 4 月より)。今ではインターネット放送をはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www. ....> に慣れてください。学生との連絡に Eメールも利用しています。

1996 年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の 50 年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼担所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名 (2~4 年生) の教育を行いつつ、新たな研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってください。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

### ◇カリキュラム

#### 1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の 4 つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外 (2 年生以上) でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2 年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）  
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）  
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）  
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）  
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

## 2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

## 3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
- ・研究会 8 単位以上※
- ・特殊研究 4 単位以上
- ・基礎演習 2 単位以上
- 合 計 28 単位以上

※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

## 平成17年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

\*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講 師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	北田 暁大
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	寫 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム総合講座Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	木下和寛・伊藤高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	萩原 滋

\*研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	大石 裕

\*特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ	春2	藤森 研
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅱ	秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	寫 信彦
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究Ⅲ・Ⅳ（メディアのグローバル化と文化市民権）	春2/秋2	岩淵 功一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎・伊藤高史
三田設置科目	メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ	春2/秋2	金山智子・菅谷実

\*基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	映像コンテンツ制作Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 勉
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

## 【基礎科目】

### マス・コミュニケーション論 I (春学期) 大石 裕

マス・コミュニケーションと政治

#### 授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

#### テキスト：

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

#### 参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

#### 授業の計画：

- 1回 コミュニケーションとは
- 2回 コミュニケーションの類型
- 3-4回 大衆社会モデル
- 5-6回 限定効果モデル
- 7-8回 強力効果モデル
- 9-10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

#### 履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

#### 成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。
- ・レポートによる評価。

### マス・コミュニケーション論 II (秋学期) 大石 裕

ジャーナリズムとメディア言説

#### 授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、②言説分析によるニュース分析、③メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

#### テキスト：

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房：近刊）

#### 参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・小川浩一編『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版

#### 授業の計画：

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定とメディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理想的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

#### 履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

#### 成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

### マス・コミュニケーション発達史 I (春学期) 大井 眞二

近代化の位相とマス・コミュニケーション

#### 授業科目の内容：

- 日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本

の近代史をメディア史のパースペクティブから振り返ってみたい。

近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったのかを考察する。

#### テキスト：

- 特に指定しない。
- 適宜資料を配布する。

#### 参考書：

- 大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

#### 授業の計画：

- 以下の項目に関して、講義数にして2~3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- (1) 近代メディア空間  
(瓦版、ニュースシート、福沢諭吉の新聞観など)
- (2) 明治初期の言語政策：奨励策  
(御用新聞、買い上げ政策、新聞縦覧所など)
- (3) 民権運動と言語政策の転換  
(新聞紙条例、讒謗律など)
- (4) 独立紙の位相  
(時事新報、国民、日本など)
- (5) 大衆紙の成立と日本的ジャーナリズム  
(報道新聞、万朝報、二六新報など)

#### 履修者へのコメント：

- 日本の近代史のある程度の知識が必要となるので、留意されたい。

#### 成績評価方法：

- 学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

#### 質問・相談：

- 授業終了後に受け付ける。

### マス・コミュニケーション発達史 II (秋学期) 大井 眞二

デモクラシーとマス・メディア

#### 授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

#### テキスト：

- 講義の際に指示する。

#### 参考書：

- 大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

#### 授業の計画：

- 以下の項目に関して、講義数にして2~3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- (1) 帝国と植民地  
(コミュニケーションの機能、言論空間など)
- (2) 国家建設とメディア  
(憲法修正第一条、建国の父たちのメディア論など)
- (3) 政党紙と大衆紙  
(フェデラリスツ、リパブリカンズ、ペニープレスなど)
- (4) 公共圏とメディア  
(ハーバーマス、市民社会、パブリックサービスなど)
- (5) 革新主義のジャーナリズム論  
(革新主義、マックレーキング、プロフェッショナルリズムなど)

#### 履修者へのコメント：

- マス・コミュニケーション発達史 I（春学期）の履修。

#### 成績評価方法：

- 学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

## 質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

---

## 国際コミュニケーション論 I (春学期) 伊藤 英一

---

### グローバル化とメディア

#### 授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓から見た景色とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたくも、『星』になった諸君が、丸い地球から見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

#### テキスト：

必要な資料は、その都度、配布・案内します。

#### 参考書：

- ・福沢諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）

#### 授業の計画：

- (1) 地球と世界地図
- (2) 国際コミュニケーション論の理論的傾向
- (3) グローバル化とメディア／コミュニケーション
- (4) フランス革命と情報インフラ
- (5) 大英帝国と情報通信
- (6) ロスチャイルドの築くネットワーク
- (7) ロイター通信の創業からサバイバルまで
- (8) 福沢諭吉の『伝信』事情から、日本海海戦まで（2005年5月27日海戦100周年）
- (9) アパ通信 vs. ロイター通信
- (10) ヴェネチア映画祭 vs. カンヌ映画祭
- (11) パルム・ドール vs. オスカー賞
- (12) CNN vs. Al Jazeera
- (13) コミュニケーションの本質

#### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

#### 質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

---

## 国際コミュニケーション論 II (秋学期) 伊藤 英一

---

### 国境を越えるコミュニケーション

#### 授業科目の内容：

21世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、国境を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの多様な担い手をケース・スタディの題材として取り上げながら、多彩に展開される情報戦略の妙を、諸君と共に、探ってみます。

#### テキスト：

その都度、配布します。

#### 参考書：

福沢諭吉；『文明論之概略』（慶應義塾大学出版会）

#### 授業の計画：

- (1) メディアとコミュニケーション
- (2) 国際コミュニケーション論と6つの潮流
- (3) 福沢諭吉の文明論とメディア・コミュニケーション

- (4) ルパート・マードックのメディア・ビジネス観
- (5) “Trust me, I’m British” — BBCの信頼性
- (6) カナダのバランス感覚
- (7) 米国とグローバル・×××××
- (8) フランスのコミュニケーション戦略
- (9) CNN vs. Fox
- (10) 米国と中近東のメディア地図
- (11) ハリウッド vs. アジア — 映画産業
- (12) 情報の流れに抗して — GPS vs. ガリレオ計画
- (13) 国際コミュニケーションを俯瞰する。

#### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

#### 質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

---

## メディア社会論 I (春学期)

---

北田 暁大

#### 授業科目の内容：

1970年代以降の若者文化・サブカルチャーとメディアとの関係史を考察する。

併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャーとメディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境（映画、電話など）にも論及する予定。

#### テキスト：

- ・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊
- ・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

#### 授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) メディア文化と若者文化の現在（3回）
- (3) 70年代と「メディアの思想」（3回）
- (4) メディアアイロニズムの生成 — 80年代とテレビ（3回）
- (5) 「メディア論」の視座 — マクルーハンからキットラーへ（3回）

#### 成績評価方法：

試験の結果による評価。

#### 質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

---

## メディア社会論 II (秋学期)

---

北田 暁大

#### 授業科目の内容：

1980年代～現在に至る若者文化・サブカルチャーの変容とメディア文化変容の関係史を考察する。併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャー／メディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境にも論及する予定。

#### テキスト：

- ・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊
- ・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

#### 授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) アイロニズムの変容 80年代から90年代へ (3回)
- (3) インターネットの政治社会学 (3回)
- (4) メディアとしての都市空間 「渋谷」と「秋葉原」 (3回)
- (5) 「メディア論」の射程 (3回)

#### 履修者へのコメント：

「メディア社会論I」と併せて受講して欲しい。

#### 成績評価方法：

試験の結果による評価。

#### 質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

情報の発信・受信の自由と規律

**授業科目の内容：**

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナル・コミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法律学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

**テキスト：**

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会、近刊）を予定

**参考書：**

松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

**授業の計画：**

- (1) イントロダクション（1回）
- (2) メディア関連法の体系と系譜（計2回）
- (3) 言論の自由、思想の市場、二重の基準論など（計2回）
- (4) 名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害、猥褻情報など（計4回）
- (5) 情報公開、アクセス権、マスメディアの特権など（計4回）

**履修者へのコメント：**

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

**成績評価方法：**

レポート及び平常点

**質問・相談：**

hayashi@iisec.ac.jp まで

情報の発信・受信の自由と規律

**授業科目の内容：**

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マスコミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナルコミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法律学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

**テキスト：**

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会、近刊）を予定

**参考書：**

松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

**授業の計画：**

- (1) 情報メディア基本法（1回）
- (2) 資源配分規律法（2回）
- (3) 設備・サービス規律法（計3回）
- (4) コンテンツ規律法（1回）
- (5) 事業主体法・規制機関法・産業支援法（合わせて1回）
- (6) デジタル環境整備法（1回）
- (7) ケーススタディ（計3回）
- (8) 解釈論と立法論（1回）

**履修者へのコメント：**

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

**成績評価方法：**

レポート及び平常点

**質問・相談：**

hayashi@iisec.ac.jp まで

記事作成の論理と実習

**授業科目の内容：**

メディアリテラシーを高めるため、記事に求められる倫理や、新聞記事や雑誌記事の構造などについて、記事の模擬執筆の実習を行いつつ講義する。実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論（後期）と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

**テキスト：**

花田達朗ニューズラボ研究会『実践ジャーナリスト養成講座』（平凡社、2004年、2,200円）

**参考書：**

澤田昭夫『論文の書き方』（講談社、1977年、480円）

**授業の計画：**

- (1) オリエンテーション
- (2) 記者の倫理（計2回）
- (3) ストレートニュース記事の形式について（計4回）
- (4) 誤報とニュースソースの問題について（計3回）
- (5) 情報公開制度（計2回）
- (6) まとめ

**履修者へのコメント：**

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論（後期）と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

**成績評価方法：**

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

表現の自由と社会理論

**授業科目の内容：**

ジャーナリズム論 I の内容をふまえて、ジャーナリズムを理論的、法律的に考える。講義形式での授業を考えているが、随時、作業をしてもらいながら理解を深めてもらうつもりである。そのため、遅刻は認めない。成績は平常点でつける予定だが、出席者の人数によって変更する可能性がある。

**参考書：**

山田健太『法とジャーナリズム』（学陽書房、2004年、3,000円）

**授業の計画：**

- (1) オリエンテーション
- (2) マスメディア産業概論（計4回）
- (3) 社会理論とジャーナリズム（計2回）
- (4) ジャーナリズムの法律的問題（計5回）
- (5) まとめ

**履修者へのコメント：**

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

**成績評価方法：**

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

世論の機能と形成メカニズム

**授業科目の内容：**

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

**テキスト：**

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

**参考書：**

使用しません／随時授業内で資料を提示します。

## 授業の計画：

- (1) ガイダンス
- (2) 理念的世論と現実的世論
- (3) 歴史的事件において世論の果たした役割を概観する
- (4) 世論形成の垂直的影響（マスコミ）と水平的影響（口こみ）
- (5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方
- (6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方
- (7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方
- (8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成
- (9) 広告論からみた世論形成
- (10) 学習・教育論からみた世論形成
- (11) 情報処理過程モデルからみた世論形成
- (12) マスメディアの社会的責任と世論
- (13) 全体のまとめと残された課題

## 履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

## 成績評価方法：

学期末試験の結果による。

## 質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

## 世論Ⅱ（秋学期）

小川恒夫

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

## 授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、①どのような性格が争点か、②誰によって、③どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、④なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、⑤どのような社会的問題が発生し、⑥それに対する対策の可能性、を順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理念的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

## テキスト：

使用しません。

## 参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

## 授業の計画：

- (14) ガイダンス
- (15) 戦争報道と世論
- (16) 犯罪報道と世論
- (17) 科学報道と世論
- (18) 経済報道と世論
- (19) 海外報道と世論
- (20) 民族間報道と世論
- (21) 政治報道と世論
- (22) 法的規制の危険性と可能性
- (23) ジャーナリスト教育と、メディアリテラシー教育の可能性
- (24) オンブズマン制度の可能性
- (25) 残された課題
- (26) 全体のまとめ（質問受付）

## 履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

## 成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

## 質問・相談：

授業終了時に受け付けます。

## 情報行動論Ⅰ（春学期）

福田充

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題

## 授業科目の内容：

高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容

に関して、具体的なメディア利用の現象を社会的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎論である。

## テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

## 参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

## 授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：情報行動とは何か
- (2) 情報行動論の理論と思想
- (3) 社会調査から見える情報行動
- (4) 情報リテラシーとメディアリテラシー
- (5) 現代の情報環境・環境化する情報
- (6) 職場の情報行動と家庭の情報行動
- (7) メディアと情報行動：①映像メディア
- (8) メディアと情報行動：②音声メディア
- (9) メディアと情報行動：③活字メディア
- (10) メディアと情報行動：④通信メディア
- (11) メディアと情報行動：⑤ゲームメディア
- (12) 情報行動の変容と人間心理
- (13) 情報行動の理論的総括

## 履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

## 成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）。
- ・学期末レポートによる評価。

## 質問・相談：

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

## 情報行動論Ⅱ（秋学期）

福田充

ユビキタス社会における情報行動の変容

## 授業科目の内容：

現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。

## テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

## 参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

## 授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：現代の情報行動の特性とは
- (2) デジタル化がもたらす情報行動の変容
- (3) 多チャンネル化とチャンネルレポートリー
- (4) ネットワーク・コミュニティにおける情報行動
- (5) CMCの諸問題
- (6) バーチャル・リアリティと情報行動
- (7) モバイルコミュニケーション
- (8) 同時並行的情報行動（ながら利用とダブルスクリーン）
- (9) ユビキタス社会と情報行動
- (10) GISとハイパー監視社会
- (11) デジタル・ディバイドがもたらす諸問題
- (12) ロボティクスと情報行動
- (13) 情報行動とは何か

## 履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思

想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

**成績評価方法：**

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）。
- ・学期末レポートによる評価。

**質問・相談：**

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

---

**異文化間コミュニケーション（秋学期）** 浅井 亜紀子

---

**授業科目の内容：**

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式（価値観や行動パターン）に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

**参考書：**

- 箕裏康子『子供の異文化体験』思索社
- その他 授業中に指示。

**授業の計画：**

- (1) 授業内容説明，異文化間コミュニケーションの背景，文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化（計2回）
- (4) イメージとステレオタイプ（計2回）
- (5) 言語コミュニケーション（計2回）
- (6) 非言語コミュニケーション（計2回）
- (7) 異文化適応（計3回）

**履修者へのコメント：**

海外経験に関心のある学生，異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

15分以上の遅刻は欠席とします。

**成績評価方法：**

- 授業出席・参加度 30%（3分の1以上の欠席者には単位を出さない）
- 小レポート類 30%
- 期末テスト 40%

---

**メディア文化論Ⅰ（春学期）** 鳥 信彦

---

**授業科目の内容：**

テレビ，新聞，ラジオなど各種メディアの相違と影響力を具体的事例で検証し，毎週発生するニュースについて情報の読み解き方を講義。ジャーナリズム40年の体験に基づき，学生たちに構想力，考える力をつけてもらう。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布。

**参考書：**

- 鳥信彦『ニュースキャスターたちの24時間』（講談社α文庫）ほか

**授業の計画：**

- 各種メディアの特質とその影響（テレビ，新聞等）を直近の事例から具体的に検証
- メディア報道の変質と政治的社会的影響
- テレビ，新聞，ラジオ制作等の舞台裏とその体験論
- メディア・リテラシーの重要性
- 情報の読み方と自らの構想力，表現力の向上訓練
- 海外メディアの情報戦略競争
- <http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/> を参照
- 主な講義内容  
テレビ報道史，メディアの表現法，21Cのメディア，鳥の目と虫の目，情報の分析法，情報収集法，現場主義の意味，世論の作られ方，歴史の定点観測と時代の読み方，文化的視点，自分軸の持ち方，権力・人権問題との距離のとり方—ほか

**履修者へのコメント：**

- 情報の読み解き方を通じて「考える力」をもちたい学生を期待。
- 自己表現力を高めるための意見表明や小感想文を提出。
- 遅刻，授業中の私語，携帯電話の使用を認めず。

**成績評価方法：**

毎回の授業課題について提出する小感想文（200～400字程度）と授業内試験により評価。

**質問・相談：**

メディアの制作現場の視察などに応ずる。

---

**メディア文化論Ⅱ（秋学期）** 白水 繁彦

---

メディアのイメージ形成力：モノ，観光地，集団のイメージ形成

**授業科目の内容：**

この授業では実際の映画や番組，広告，広報ビデオを分析しながら送り手の意図を読み解き，送り手にとっても受け手にとっても重要なメディアリテラシーの能力を高めます。

**テキスト：**

なし（パワーポイントなどで画像，テキストなどを提示します。）

**参考書：**

授業中に指示します。

**授業の計画：**

- 第1回 メディアの機能，擬似環境についての理論
- 第2回 同上
- 第3回 ハワイの観光地イメージの形成とメディア，観光産業（～第4回）
- 第5回 広告とイメージ形成 広告の理論
- 第6回 広告とイメージ形成 説得的コミュニケーションの理論
- 第7回 感性に訴える広告の手法とその分析法
- 第8回 ワークショップ（実際の広告を見ながら分析してみる）
- 第9回 各自の分析の報告
- 第10回 受け手の分析 マーケットのとらえ方
- 第11回 広報の手法
- 第12回 広報の分析
- 第13回 まとめ

**履修者へのコメント：**

画像を用いたり，実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが，毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。

**成績評価方法：**

基本的に，何回か書いてもらうレポートや授業中の小作文をもとに評価します。

**質問・相談：**

授業の後や e-mail で受け付けます。

---

**メディア産業と政策Ⅰ（春学期）** 菅谷 実

---

映像コンテンツ産業論

**授業科目の内容：**

前半は映像コンテンツ産業を理解するために必要な基礎理論。後半は同産業の歴史および各国の映画産業構造，振興策などの比較検討をおこなう。

**テキスト：**

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善，2002年

**授業の計画：**

- オリエンテーション (1)
- I 基礎理論 (5)
  - (1) ネットワーク理論
  - (2) ウィンドウ戦略
  - (3) メディア融合
- II 映像コンテンツ産業 (6)
  - (4) 映像コンテンツと映画
  - (5) 映画産業の発展
  - (6) 映像振興政策（欧州，米国，日本）

### Ⅲ まとめ (1)

#### (7) メディア融合とコンテンツ

#### 履修者へのコメント：

コンテンツ産業に興味のある学生の履修を歓迎します。

#### 成績評価方法：

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

---

### メディア産業と政策Ⅱ (秋学期)

菅谷 実

メディアの融合と制度変容

#### 授業科目の内容：

前半は、ネットワーク産業の基礎理論と電子メディア産業の生成を紹介する。後半は、ネットワーク技術の変容が制度と産業構造に与えた影響を米国、日本などの具体的事例から学ぶ。

#### 参考書：

菅谷実『アメリカのメディア産業政策』中央経済社、1997年

#### 授業の計画：

オリエンテーション (1)

#### I 総論 (4)

- (1) ネットワーク理論
- (2) 電子メディア産業の生成

#### II 各論 (7)

- (3) 放送政策理念、ローカリズム原則とあまねく原則
- (4) 通信政策におけるユニバーサル・サービス
- (5) 放送内容規制
- (6) ケーブル・テレビ産業の発展と社会的ステータス
- (7) インターネット・ガバナンス
- (8) メディア融合
- (9) デジタル・コンテンツ

### Ⅲ まとめ (1)

#### 履修者へのコメント：

メディアの産業構造、制度に興味ある学生の履修を歓迎します。

#### 成績評価方法：

期末テスト。

---

### 情報産業論Ⅰ (春学期)

宿南 達志郎

メディア産業概論

#### 授業科目の内容：

メディア産業について、産業、企業、利用者などの観点から、これまでの発展の経緯と今後の課題などについて概要を学びます。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

- ・電通総研編『情報メディア白書2004』ダイヤモンド社、2004年
- ・総務省編『情報通信白書 平成16年度』ぎょうせい、2004年

#### 授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) メディア産業の歴史 (2回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
  - コンピュータ業界 (2回)
  - 通信業界 (2回)
  - 放送業界 (2回)
  - 新聞業界 (1回)
  - 出版業界 (1回)
  - 音楽業界 (1回)
- (4) まとめ (1回)

#### 履修者へのコメント：

メディア産業に関心のある学生を歓迎します。

#### 成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

#### 質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

---

### 情報産業論Ⅱ (秋学期)

宿南 達志郎

インターネットビジネス論

#### 授業科目の内容：

インターネットが伝統的ビジネスにどのような影響を与えてきたか、インターネットによる新たなビジネスモデルはどのように発展しているかを学びます。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

- ・(財)インターネット協会(編著)『インターネット白書2004』インプレス、2004年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム—インターネット・ビジネスモデル』共立出版、2004年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

#### 授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) インターネットの歴史 (2回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの変化 (3回)
  - 金融業界
  - 流通業界
  - 旅行業界
- (4) インターネットビジネスの企業研究 (7回)
  - Amazon
  - Yahoo
  - eBay
  - Dell
  - 楽天
  - 松井証券
  - アスクル
- (5) まとめ (1回)

#### 履修者へのコメント：

インターネットビジネスによる起業あるいは就職を考えている人を歓迎します。

#### 成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

#### 質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

---

### ジャーナリズム総合講座Ⅰ (春学期)

木下 和寛

伊藤 高史

朝日新聞寄付講座

#### 授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されている方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

#### 授業の計画：

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々が、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。

なお、平成16年度前期の授業概要は以下のとおり。

- (1) オリエンテーション
- (2) 新聞業界とは何か
- (3) 必要とされる人材と育成について
- (4) 文章作法
- (5) 社論の形成
- (6) 現場からの報告
- (7) 政治記者の仕事
- (8) テーマ解説「私の外務省論」
- (9) 社会部記者の仕事
- (10) テーマ解説「報道と人権」
- (11) 国際報道の仕事
- (12) テーマ解説「私のアメリカ論」

(13) 調査報道の原点

**履修者へのコメント：**

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

**成績評価方法：**

平常点とレポート。

---

**ジャーナリズム総合講座 II (秋学期)**

木下和寛

伊藤高史

---

朝日新聞寄付講座

**授業科目の内容：**

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されている方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

**授業の計画：**

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々が、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。

なお、平成16年度後期の授業概要は以下のとおり。

- (1) レポート講評
- (2) 経済部記者の仕事
- (3) テーマ解説「私の日本経済論」
- (4) 科学記者の仕事
- (5) 新しいメディアの開発
- (6) 新聞とテレビ
- (7) スポーツ記者の仕事
- (8) 整理部記者の仕事
- (9) 雑誌作りの仕事・知識人論
- (10) 校閲記者の仕事
- (11) 映像部記者の仕事
- (12) 自由討論・レポート提出

**履修者へのコメント：**

出席者は、よく新聞を読み積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

**成績評価方法：**

平常点とレポート。

---

**マス・コミュニケーション論 I (春学期) (日吉)**

川端美樹

---

マス・コミュニケーションと社会

**授業科目の内容：**

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

**テキスト：**

大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

**参考書：**

授業時に必要に応じて指示する。

**授業の計画：**

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

- (1) マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
- (2) マス・コミュニケーションの発達と社会
- (3) マス・コミュニケーションとその影響

**履修者へのコメント：**

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

**成績評価方法：**

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

---

**社会心理学 I (春学期) (日吉)**

萩原 滋

---

社会的認知と対人行動

**授業科目の内容：**

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることにする。

**テキスト：**

使用しない。

**参考書：**

適宜、指示する。

**授業の計画：**

- ガイダンス (1回)
- 社会心理学の研究方法 (1回)
- 社会的認知の研究領域概観 (1回)
- 印象形成の古典的実験 (1回)
- 帰属理論と実証的研究 (3回)
- 認知的一貫性の諸理論 (1回)
- 認知的不協和理論と実証的研究 (3回)
- 対人行動の基礎 (2回)

**履修者へのコメント：**

特になし。

**成績評価方法：**

学期末に筆記試験を行う。

**質問・相談：**

最初のガイダンスの時にお尋ねください。

---

**社会心理学 II (秋学期) (日吉)**

萩原 滋

---

メディアとコミュニケーション

**授業科目の内容：**

秋学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、対人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

**テキスト：**

使用しない。

**参考書：**

適宜、指示する。

**授業の計画：**

- 対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション (1回)
- 説得的コミュニケーションと態度変容 (2回)
- 説得の技法 (1回)
- テレビのメディア特性 (1回)
- 日本におけるテレビ放送小史 (1回)
- テレビの社会的影響概観 (1回)
- テレビの視聴効果 (1)：暴力や反社会的行動への影響 (3回)
- テレビの視聴効果 (2)：現実の社会認識への影響 (3回)

**履修者へのコメント：**

特になし。

**成績評価方法：**

学期末に筆記試験を行う。

**質問・相談：**

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

諸  
研  
究  
所

## 【研究会】

### 研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 萩原 滋

メディアと社会行動

#### 授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

#### テキスト：

萩原滋・国広陽子編著(2004)『テレビと外国イメージメディア・ステレオタイプ研究』, 勁草書房  
(もう1冊, 概論書のようなものを追加する予定)

#### 参考書：

特になし

#### 授業の計画：

##### (1) 春学期

まず昨年度からの在籍者(2, 3年生)を中心に、昨年度の研究成果の発表を行う。(計3回)

その後はテキストを全員で輪読する。(計10回)

夏休み中の合宿で新入生の研究テーマ、関連論文の発表を行う。

##### (2) 秋学期

2, 3年生を中心に毎回数名ずつ研究発表を行う。(10回)

4年生の修了論文の中間報告を行う。(3回)

#### 履修者へのコメント：

研究会の運営の仕方は、履修者数によって変わらざるを得ないが、各自が自由にテーマを選んで発表する自由研究、個人研究のスタイルが定着してきている。履修者の希望があれば何らかの形で共同研究を行うこともありうるが、本研究会では個人研究を基本とすることにした。

#### 成績評価方法：

研究会の場での発表や積極性などの平常点、出席率に基づく。ただし三田祭や年度末にレポートの提出を求めることになるので、その評価も加味される。

#### 質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

### 研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 菅谷 実

メディア産業論

#### 授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディアの産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究(2004年度は、「メディアとスポーツ」)、4年生の修了論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアコムホームページ

([www.mediacom.keio.ac.jp](http://www.mediacom.keio.ac.jp))を参照のこと。

#### 授業の計画：

##### (1) 春学期

2・3年：ゼミ員の発表形式により、共同研究に必要な基礎知識を学習する

4年：夏合宿での中間発表に向けた修了論文の準備

##### (2) 秋学期

2・3年：三田祭共同研究発表にむけて、グループ単位の調査・研究活動

4年：終了論文の作成

なお、授業計画の詳細については、春学期の第1回目の授業時に紹

介するので、受講希望者は1回目の授業に出席すること

#### 成績評価方法：

平常点による採点

### 研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 宿南 達志郎

情報メディアの発展に関する研究

#### 授業科目の内容：

メディアの進化について研究します。インターネット、ケータイ、デジタル放送などにより、メディアがどのように変容し、メディア産業がどのように発展しているのかを実証的に研究します。

#### テキスト：

・情報通信総合研究所(編著)『情報通信アウトック2005』NTT出版, 2005年

・塚本潔『ドコモとau』光文社新書, 2004年

#### 参考書：

・総務省(編)『情報通信白書 平成16年版』ぎょうせい, 2004年

・林紘一郎『電子情報通信産業』コロナ社, 2002年

#### 授業の計画：

「メディアの連携・融合に関する研究」をテーマとする。ブロードバンドサービス、とりわけ光サービスによる映像配信、携帯における音楽配信、デジタル放送における双方向サービスなどについて、産業政策、経営学、社会学の観点から研究を行う。

春学期は、メディア産業の動向についての概要を研究し、秋学期は、個別企業の経営戦略(NHK, NTT, KDDIなど)を詳細に研究する。

#### 履修者へのコメント：

マスメディア、携帯電話、ブロードバンドなどメディアの電子化に関心のある学生を歓迎します。

#### 成績評価方法：

・授業出席、研究会活動への貢献度で評価します。

・研究会IVは修了論文で評価します。

#### 質問・相談：

いつでも研究室にお越しください。

### 研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 金山 智子

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する。

#### 授業科目の内容：

今日、私達を取り巻くメディア・コミュニケーション環境は情報・通信技術の発達により、ますます多様化、複雑化しながら拡張を続けています。印刷技術、無線技術、ラジオ、テレビ、コンピュータ、インターネット、そして携帯電話など、メディア・コミュニケーション技術の普及と社会との関係はますます強まり、これらの技術が私達の生活にとって不可欠なものになっているのが現実です。このような中、日常生活、社会活動、そして国際関係の場面などで、メディア・コミュニケーションに関わる学術的な考察が求められていると言えるでしょう。メディア・コミュニケーションが社会や文化にどのような影響を及ぼしているのかについて、本研究会では、グループや個人レベルでの興味関心をもとに研究テーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。また、研究会では、理論的な考察だけでなく、社会の一線でメディア・コミュニケーションの活動やイベントに関わる人々の実践を積極的に取り込むことを奨励しています。これに関連して、メディア業界で活躍している方々をゲストに迎え、メディアと社会・文化について、現場の生の声を聞き、また意見交換会を開催します。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

適宜関連文献資料やウェブサイトを指示します。

#### 授業の計画：

春学期は、個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定、調査実施、データ分析、報告、そして発表といった一連の研究プロセスを、担当教員との個別コンサルティングなども交え

ながら、ステップ・バイ・ステップで身につけられるよう指導します。夏から秋学期に調査を実施し、研究成果を三田祭で発表してもらいます。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導する予定です。

#### 《春学期》

- 研究するということ
- 研究ステップ1：研究テーマ
- 研究ステップ2：文献調査
- 研究ステップ3：研究課題または仮定の設定
- 研究ステップ4：調査方法
- 研究ステップ5：研究計画書

#### 《秋学期予定》

- 研究ステップ6：調査の実施
- 研究ステップ7：調査結果の分析
- 研究ステップ8：調査報告書の作成
- 研究ステップ9：研究発表（三田祭）4年生修了論文発表

#### 成績評価方法：

出席、レポート、研究論文を総合して評価します。

---

### 研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤 高史

---

ジャーナリズムと「表現の自由」

#### 授業科目の内容：

ジャーナリズムと「表現の自由」をテーマにしたゼミナール形式の授業です。まずは、ジャーナリズム関連の書籍を輪読し、ある程度、理解の共通化を図ります。夏前からは、学生自身にテーマを設定してもらい、三田祭への発表を目指して、研究発表などを行っていきます。秋は、三田祭発表に向けて学習を進めてもらい、その後は、修了論文にむけた研究発表をしてもらいます。なお、昨年は三田祭発表に取材を取り入れました。今年も同様のスタイルにしたいと考えています。

#### テキスト：

なし（授業中に指定します）

#### 参考書：

なし（授業中に指定します）

#### 授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2)～(8) 指定したテキストの輪読
- (9)～(17) 三田祭に向けた研究発表
- (18)～(26) 修了論文に向けた研究発表

#### 履修者へのコメント：

履修を考えている学生は、平成16年度に履修した学生からよく話を聞いておくとよいでしょう。

#### 成績評価方法：

平常点

---

### 研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤 陽一

---

情報化と近代化

#### 授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

#### テキスト：

伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎（編）『コミュニケーションのしくみと作用』大修館、1999年

#### 参考書：

- ・秋山哲『本と新聞の情報革命』ミネルヴァ書房、2003年
- ・金原左門『近代化の論の転回と歴史叙述』中央大学出版部、1999年

#### 授業の計画：

- 第1回 オリエンテーション：研究会の目的、求められる心構え等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告①
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告②
- 第4回 以降については未定部分が多いが、特に何も無い時は指

定された本の輪読・講読を行う。

#### 履修者へのコメント：

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。

#### 成績評価方法：

- ・三田祭参加論文
- ・学期末レポート
- ・平常点（出席、授業における発言の頻度と質）

#### 質問・相談：

随時受け付けます。

---

### 研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 大石 裕

---

ジャーナリズムを考える

#### 授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

#### テキスト：

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

#### 参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

#### 授業の計画：

〔前期〕

- 1～2回 基本的な文献の講読。
- 3～13回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

- 1～10回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議
- 11～13回 4年生の修了論文発表

#### 履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

#### 成績評価方法：

平常点による。

### 【特殊研究】

---

### 放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 安倍 宏行

---

テレビニュースは何が出来るか？

#### 授業科目の内容：

テレビニュースはどう制作されているのか。テレビ報道記者はどう取材しているのか。記者、特派員、キャスターの経験から、テレビニュースの問題点とその在り方を考察する。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

特に指定しません。

#### 授業の計画：

- 前期 1～2回 ガイダンス・テレビニュースと新聞の違い
- 3～4回 ニュース番組はどうオンエアされているのか（テレビ局見学）
- 5～6回 テレビ記者の仕事—取材の実態
- 7回 特派員の仕事
- 8回 キャスターの仕事
- 9回 プロデューサー、PD、ディレクターの仕事
- 10～11回 ニュース原稿の書き方・実践
- 12～13回 ニュース制作・実践—リポート制作・発表
- 後期 1～2回 視聴率とやらせ
- 3～4回 政治報道・選挙報道の問題点
- 5～6回 戦取材の問題点
- 7～8回 人権侵害と報道倫理
- 9回 テレビ報道の危機管理
- 10回 検証報道の実態

11回 テレビジャーナリズムの今後

12～13回 企画制作実践・発表

#### 履修者へのコメント：

将来、テレビ報道記者になりたい人、ニュース番組制作に関わりたい人を歓迎します。

#### 成績評価方法：

平常点（出席状況、授業参加状況による評価）

### 新聞特殊講義 I（春学期）

藤 森 研

「ニュース」はどうつくられるのか

#### 授業科目の内容：

新聞は日々、どのようにつくられているのかを実践的に解説し、その限界や意義、ジャーナリズムとは何かを学びます。

#### テキスト：

資料を配布

#### 参考書：

- ・『市民社会とメディア』（リベルタ出版、2000年、原寿雄編）
- ・『報道の自由と人権救済』（明石書店、2001年、原寿雄・田島泰彦編）

#### 授業の計画：

その時々のニュースや、戦前からの新聞記事を題材に、下記のようなテーマを考えます。

- ・新聞は、なぜ必要なのか
- ・記者の失敗とスクープ
- ・社説の生理
- ・戦争と新聞
- ・プライバシー、個人情報と新聞・メディア
- ・人権と新聞（たとえばハンセン病報道の影と光と、空白）
- ・天皇報道と戦後社会
- ・憲法と新聞と社会

#### 履修者へのコメント：

メディアだけでなく、戦後社会に関心のある学生の参加を期待します。

#### 成績評価方法：

平常点とレポート

### 新聞特殊講義 II（秋学期）

河 原 理 子

取材する側と、取材される側

#### 授業科目の内容：

現在と過去の、主な記事の各紙比較に触れながら、記者の仕事、新聞をどう作るかを解説します。取材する側と取材される側の関係、取材して正確に書く上で大切なこと、新聞の限界と社会的意義について学びます。

#### テキスト：

資料を配布。

#### 参考書：

- ・『新聞力』（東京新聞出版局、青木彰）
- ・『〈犯罪被害者〉が変える報道』（岩波書店、高橋シズエ・河原理子）

#### 授業の計画：

松本サリン事件やその時々のニュースを題材に、下記のようなテーマを考えます。取材される側の視点、情報を得る側の視点からも、より良い報道を探ることを目標にします。

また、記者は生身の人間に接する職業であり、信頼関係が基本です。人の話を聞く基本を学んだら、できればゲストを招いて話を聞きます。何を準備して、どう聞くのか、自ら考えてください。

- ・「事実」と「真実」
- ・取材相手との距離～「権力」の監視
- ・速報と長期的な報道
- ・過去の新聞を読む（だれの視点から書いているか）記者の視点と差別
- ・意味ある「スクープ」とは？
- ・プライバシーと公益
- ・報道被害とその対応
- ・声なき者に声を～被害者の取材と報道

・「広場」としての新聞

#### 履修者へのコメント：

日々の新聞を、ざっとでも読んでいることを、授業の前提にします。

#### 成績評価方法：

平常点とレポート

### 広告特殊講義 I・II（春学期・秋学期）

吉 田 望

広告とブランドづくり

#### 授業科目の内容：

ブランドについて語ります。日本型ブランド。ブランドと広告。広告産業の成り立ち。

#### 参考書：

- ・「ブランドI」宣伝会議社
- ・「ブランドII」宣伝会議社

#### 授業の計画：

ガイダンス（自己紹介・自分のあだ名を考える）

ブランド概論

- 好きな雑誌の商品広告を持ってくる。

広告概論

- 新しい商品ブランドを考えてみる（グループ別・ケーススタディ実習）

広告産業概論

- 付録 秘録元電通調査部長

様子を見て一～二回宴会をやりたいと思っています。

#### 履修者へのコメント：

ブランド＝（計算＋志）×驚きです。計算か志が驚きのある人を期待します。

#### 成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・（出席状況および授業態度による評価）

### メディア特殊講義 I（春学期）

境 真 良

デジタルコンテンツの経済学へ～技術、制度、社会心理～

#### 授業科目の内容：

コンテンツの産業現象を、消費心理学、産業心理学を踏まえつつ、経済学的視点から考察していきます。最終的にiTMSや2ちゃんFLASH祭りを始めとしたデジタルコンテンツを巡る様々な活動が今後果たすべき役割を考えていきます。

#### テキスト：

初回講義時に資料集を配布する他、各回講義時に適宜資料を配布します。

#### 参考書：

- ・『図解でわかるコンテンツビジネス』（2002、日本能率協会マネジメントセンター）
- ・『映像コンテンツ産業論』（2002、丸善）
- ・『動物化するポストモダン』（2001、講談社）

#### 授業の計画：

- (1) 商品としてのデジタルのコンテンツ  
～コンテンツ産業史の視点から～
- (2) 文化的価値と経済的価値  
～コンテンツと政策を翻弄する二元論～
- (3) デジタルコンテンツの産業と政策  
～基礎知識として、映画を例にして～
- (4) 再生産を支える産業基盤  
～知的財産制度の矛盾と補完の方向性～
- (5) コンテンツ産業のビジネスモデル  
～メジャーとインディーズ～
- (6) デジタルネットワーク流通を巡る力学を解析する  
～音楽、映像、ゲーム～
- (7) デジタル環境のコンテンツ産業はどこへ行く

#### 履修者へのコメント：

授業では、アイドルビジネス、キャラクタービジネスについて多くふれます。アイドルやキャラクター、音楽、映画、漫画などに造

詣の深い諸君と一緒に現在進行形の産業現象を議論していきたいと思えます。

**成績評価方法：**

レポートによる評価を中心とします。

---

**メディア特殊講義 II (秋学期) 薦 信 彦**

---

テレビ・新聞などメディアの現場の現実と問題点を検証

**授業科目の内容：**

毎週発生しているニュースのTV、新聞報道の裏側と本質を見抜く力をつけるよう講義したい。学生同士のディベート、グループ研究及び実地体験なども踏まえて学び、情報の解明力をつける。

**テキスト：**

プリント、毎日の新聞、TV報道。

**参考書：**

薦信彦『ニュースキャスターたちの24時間』(講談社α文庫)ほか、薦のH.P.

**授業の計画：**

- 前期のメディア文化論をある程度前提にしたうえで、毎週発生する政治、経済、国際情勢、社会事件などについて、各メディアの報じ方と読み解き方を学生と一緒に論じあう。
- この過程で、人権、差別、送り手側のメディア戦略、テレビや新聞などの制作現場の実情、やらせ、権力の介入、視聴率主義、報道・論説姿勢の形成のあり方、経営・広告と報道の相克、メディアの歴史と闘い、表現の自由、取材のあり方、など一諸問題を考える。現場で仕事をしているキャスター、記者などもきってもらう予定。
- 実際の取材、制作なども考慮。

**履修者へのコメント：**

- ・毎回、小感想文(200~400字程度)を提出。
- ・意見表明、グループ討議などを随時行なう。
- ・受講の際には基本的マナー、品性を大事にすること。

**成績評価方法：**

小感想文を主とし、授業内試験も期末に実施

**質問・相談：**

- ・現場視察、ジャーナリズム研究などの相談に応ずる。
- ・<http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/>

---

**特殊研究 I・II (春学期・秋学期) 小 川 浩 一**

---

日本の近代化とマス・メディア

**授業科目の内容：**

明治維新後の日本が近代化を目標とした中で、その一翼を担ったマス・メディアのあり方と、戦後の近代化を担ったマス・メディアがいずれも、大政翼賛的存在となり、体制側となっていた事情を批判的に考察したい。

**授業の計画：**

- 1 ガイダンス
- 2~4 明治維新と近代社会
- 5~8 明治期新聞と言論人の背景
- 9~12 国民社会とマス・メディア
- 13~16 戦後日本社会と民主化
- 17~20 近代化としての民主化とマス・メディア
- 21~24 大衆社会とメディアのポピュリズム
- 25~26 まとめ

**履修者へのコメント：**

基本的に演習形式で行います。日常的に乱読の姿勢を保持することを期待します。

**成績評価方法：**

平常点及びレポート

---

**特殊研究 III (春学期) 岩 淵 功 一**

---

メディアのグローバル化と文化市民権

**授業科目の内容：**

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

**テキスト：**

毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。

- ・伊藤守(編)『メディア文化の権力作用』(セリカ書房)
- ・岩淵功一・多田治・田仲康博(編)『沖縄に立ちすくむ』(セリカ書房)

**参考書：**

クラスにて指示する。

**授業の計画：**

前期は主に、日本における多様な社会的・文化的背景を持つ集団・人々の存在と関心がメディアをとおしてどのように表現されているのか(あるいは、いないのか)を具体的に検証する。授業内容の詳細は最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

**履修者へのコメント：**

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

**成績評価方法：**

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

---

**特殊研究 IV (秋学期) 岩 淵 功 一**

---

メディアのグローバル化と文化市民権

**授業科目の内容：**

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

**テキスト：**

毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。

- ・岩淵功一『トランスナショナル・ジャパン』(岩波書店)
- ・毛利嘉孝(編)『日式韓流』(セリカ書房)

**参考書：**

クラスにて指示する。

**授業の計画：**

後期は主に、メディア文化をとおして、どのような国境を越えるつながりや対話が生まれているのかについて、東アジア地域を中心に具体的に検証する。授業内容の詳細は、最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

**履修者へのコメント：**

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

**成績評価方法：**

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

---

**メディア産業実習 I・II (春学期・秋学期) 宿 南 達志郎  
伊 藤 高 史**

---

インターンシップ

**授業科目の内容：**

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習IIに登録し、インターンシップに参加することができる。

**授業の計画：**

- (1) 春学期  
オリエンテーション  
産業別のレポートと討論(新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等)

## まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

## (2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

## 履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

## 成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

## メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ（春学期・秋学期） 金山 智子 菅谷 実

## インターンシップ

### 授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習Ⅳを登録し、インターンシップに参加することができる。

### 授業の計画：

#### (1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移动通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

#### (2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

## 履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅲを履修し本年度Ⅳを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

## 成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

## 【基礎演習】

## 時事英語Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 小林 雅一

## 英語で学ぶ世界情勢

### 授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

### テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

## 参考書：

特に指定しません。

## 授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
  - (2) 国際報道を読む
  - (3) 経済報道を読む
  - (4) 政治報道を読む
  - (5) 社会報道を読む
  - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下、2～6の繰り返し

## 成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度による評価）

## 文章作法Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 升野 龍男

目から鱗（ウロコ）が落ちる授業です。

### 授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の日撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、その何故に対する仮説（ひょっとしたら、こうではないかな？）を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流ティーチング・メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人であつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

### テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキストです。

## 参考書：

- ・野口悠紀雄著『超文章法（中公新書）』780円
  - ・鹿島茂著『勝つための論文の書き方（文春新書）』700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

## 授業の計画：

<春学期>

- (1) 「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階＝目撃・観察法の体得。
  - ① 目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。
  - ② 目撃・観察のための方法論＝オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得
  - ① VTR、DVD、印刷物、ネットなど、私秘蔵の優良コンテンツを使用した、情報組み立て、表現方法の体得。
  - ② アウトプットした作品の評価方法の取得
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法の体得

<秋学期>

- (1) 「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習＝利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法＝自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有
  - ① 目撃・観察から「何故」を發する行為の体得＝取材、一步踏みこむ
  - ② 「何故」を解く仮説設定方法の体得＝「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方＝目撃・観察・洞察・発見の重要性和、「謎解き情報設計」の体得

論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。

したがって最後は論文提出です。

#### 履修者へのコメント：

文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが好きな人も歓迎します。学期終了時に、驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を発見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を発見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

#### 成績評価方法：

出席 40%、演習課題 40%、テスト 20%。

#### 質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail: tatsuom@mbk.nifty.com

---

### メディア・コミュニケーション実習 I (春学期)

金山 智子

映像を通して伝える。

#### 授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、(1) 映像メディアコンテンツの批評と (2) 制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズン (Media Citizen) としての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。

#### テキスト：

特に使いません。

#### 参考書：

関連資料を配布します。

#### 授業の計画：

講義は大きく3つの部分から構成されています。

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。  
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読み解く。  
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。  
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

#### 履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツの制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

#### 成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (40%) レポート (20%)

---

### メディア・コミュニケーション実習 II (秋学期)

金山 智子

映像制作を通して理解する。

#### 授業科目の内容：

マスメディアが伝えられないような、身近な世の中の出来事、キャンパス周辺で生活する人々、或いは社会的な問題などを、自分達の疑問意識をもとに独自の視点でとらえ、これを映像コンテンツとして加工して、地域社会に還元してゆくことは、大変意義のあることです。出来

上がった作品についての最終評価はもちろんですが、映像コンテンツの制作過程において、さまざまな人たちと関り、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスはもっと大切です。授業では、自分たちに身近な話題をテーマに、10分間のミニ・ドキュメンタリー作品を制作することにより、映像制作におけるコミュニケーションのあり方についての実践を集中的に学びます。また、「撮るもの」と「撮られるもの」といった二分法感覚ではなく、受講生とともに、撮る人と撮られる人が一つになったオムニバス映像コンテンツの制作を実現したいと思います。

#### テキスト：

特に使いません。

#### 参考書：

関連資料を配布します。

#### 授業の計画：

講義は大きく2つの部分から構成されます。

- (1) 映像コンテンツの撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。  
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) ドキュメンタリー作品を制作する。  
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、編集といった一連の映像制作過程を通して、映像によるコミュニケーションを学びます。また、テーマによっては、制作過程にその問題に関わる人の参加や協力をしてもらいます。

#### 履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション実習 I の事前履修が望ましい。また、映像の制作は時間と労力を要するので、授業時間外に自主的な作業が必要となります。

#### 成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (50%) レポート (10%)

---

### 電子ネットワーク調査法 I・II (春学期・秋学期) (日吉)

金山 智子

ネットの世界を探究する。

#### 授業科目の内容：

インターネット（ネット）の普及は、人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。多種多様な情報をスピーディに検索・収集する上で、ネットはもはや不可欠なツールと言えるでしょう。また、ネットを活用した調査やマーケティングもますます重要になっています。人々がネット上で繰り広げるコミュニケーション行動や情報行動、ヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを対象とした研究も今後増えていくでしょう。本講義では、主に下記の4点を学びます。

- (1) ネットを活用した情報検索・収集方法
- (2) ネットを活用した調査方法
- (3) ネット上のコミュニケーションやメディア内容を対象とした調査
- (4) ウェブを活用した成果発表

#### テキスト：

講義資料プリントを配布します。

#### 参考書：

電子ネットワークに関する調査事例及び関連ウェブサイトを指示します。

#### 授業の計画：

春学期では、(1) と (2) に重点をおき、電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。個人（またはグループ）で研究計画書を作成します。

- ・研究テーマの決定
- ・ネットの活用した文献資料の検索・収集
- ・電子ネットワーク調査方法について（優位性や問題点、質問調査、内容分析、参与観察など）

秋学期では、(3) と (4) に焦点をあて、春学期で作成した研究計画書をもとに調査を実施し、ウェブを活用して成果報告を行っていただきます。

- ・調査の実施
- ・ネットを使って研究成果を報告
- ・ネットの新しい現象や問題についてディスカッション

#### 成績評価方法：

平常点 (20%)，レポート (30%)，および研究報告 (50%) を総合して評価します。

### 映像コンテンツ制作 I (春学期) (日吉)

### 映像コンテンツ制作 II (秋学期) (日吉) 金山 勉

映像メディア・コミュニケーションの実践

#### 授業科目の内容：

本講座では、映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツの中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考えてもらいます。クラスでは番組制作を編成し、企画提案から番組制作まで、実践について個別に指導します。

#### テキスト：

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房 (2005 年)

#### 参考書：

授業時に紹介する。

#### 授業の計画：

映像コンテンツ制作実習は基本的に I と II が連動するように計画されています。まず映像コンテンツ制作 I では、映像コンテンツ制作のための基礎能力習得と初歩的な番組制作実践について取り組み、さらに映像コンテンツ制作 II では編集加工された取材コンテンツ映像 (編集 VTR) を活用して、社会情報番組の企画と収録に取り組みます。

全体の流れは以下の通りです。

#### 映像コンテンツ制作 I (前期)

- 映像メディア・コミュニケーションへの招待 (2 回)
- 映像コンテンツ加工のための基礎能力習得 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

#### 映像コンテンツ制作 II (後期)

- 映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて (2 回)
- フィールドプロダクションとスタジオプロダクション入門 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

#### 履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 I，および II では、受講生の発想や自主性を最大限尊重します。同時に、制作プロジェクトは受講生間の連携が重要になるため、無断欠席しないよう心がけてください。

#### 成績評価方法：

映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60 パーセント)，出席と平常制作準備活動の評価 (40 パーセント)

#### 質問・相談：

授業終了時，および電子メールで受け付けます。

### 時事英語 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 小林 雅一

英語で学ぶ世界情勢

#### 授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

#### テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

#### 参考書：

特に指定しません。

#### 授業の計画：

- (1) ガイダンス，序
  - (2) 国際報道を読む
  - (3) 経済報道を読む
  - (4) 政治報道を読む
  - (5) 社会報道を読む
  - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下，2～6 の繰り返し

#### 成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度による評価)

### 文章作法 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 栗田 亘

#### 授業科目の内容：

文章を磨き、企業などの競争試験に備える。

#### 参考書：

『書き上手』(栗田亘/五月書房)

#### 授業の計画：

毎週、課題を示し、次週までに 800 字 (400 字詰原稿用紙 2 枚，B5) 以内で文章を書かせる。提出された文章を添削し、受講者の合評のあと、講師が講評する。

秋学期は、授業時間中に、その場で書くトレーニングもおこなう。すべて、社会に出て役に立つ実践的な文章の書き方の練習だ。

#### 履修者へのコメント：

休まずに繰り返し書くことが上達への道。春学期最初の時間に 400 字詰め原稿用紙 (B5 判) を持参すること。

#### 成績評価方法：

毎時間提出する文章の評価

#### 質問・相談：

授業時間内に。

# 体 育 科 目 [三田設置]

## (体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板（西校舎）に、日吉設置科目については、体育科目掲示板（日吉 J11 番教室前）にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目（日吉）の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）が、8 科目（テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス）開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

### 1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

### 2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください（学事センターで閲覧できます）。

- (1) 体育学講義 (2 単位) …… 「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1 単位) …… 講義 + 実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A (1 単位) …… 「身体活動」実技 A～D の 4 段階評価。  
ウィークリー・スポーツ  
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技 B (1 単位) …… 「身体活動」実技 P (合)・F (否) (Pass/Fail) の 2 段階評価。  
ウィークリー・スポーツ  
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ …… 週 1 回半年（春学期または秋学期）の授業。

シーズン・スポーツ …… 夏季休業中（7 月～9 月）または春季休業中（2 月）の 7 日間の授業。ただし、合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

### 3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

### 4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

#### (1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4 月 7 日（木）1 限 および 2 限 522 番教室（西校舎、いずれの時限も同じ内容です）

#### (2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください（制限内容の記載のあるもの）。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重）	視力	検尿	血圧
胸部 X 線	ヘルスチェック	内科（指示された者）	心電図（同 左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9:00～11:00	13:00～15:30	受付時間		9:00～11:00	13:00～15:30
4月8日	金	女子(10時開始)	男子	4月14日	木	女子	男子
9日	土	男子	男子	15日	金	男子	男子
11日	月	男子	女子	16日	土	女子	女子
12日	火	男子	男子	18日	月	男子	女子
13日	水	男子	女子	19日	火	男子	男子

- \* この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- \* 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口に出してください。
- \* 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- (ア) 履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- (イ) 第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（金）から14日（木）の12:30から14:00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。
- (ウ) 履修申告期間に学事 Web システムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- (ア) 学事 Web システムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- (イ) 各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- (ウ) 秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 履修者数の調整

体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

調整結果発表 4月22日（金）

9:00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10:30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、落選した科目については定員に余裕のある体育実技および体育学演習を追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

※ 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

## 日吉設置科目

受付日時	受付場所
4月25日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 26日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所(陸上競技場側)
4月27日(水) から5月修正申告期間終了まで (平日) 8:45~17:00(最終日16:00終了)	日吉学事センター7番窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は、必ず25・26両日中に体育研究所許可証を取得してください。  
27日以降は取得できません。

## 三田設置科目

各授業で行います。

### ② 修正申告(学事センター)

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①, ②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

### (6) シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式6科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

実技費用納入科目
アウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット

#### ① 実技費用納入日時

4月25日(月)~28日(木) 8:45~17:00

#### ② 実技費用納入場所(証紙貼付)

日吉学事センター7番窓口(納入用紙交付)

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます(実技費用納入順, 前(5)項参照)。

# 体育実技実施要項 [三田設置科目]

## 体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

### <球技>

#### 体育実技 A (テニス)

(上級)

堀場 雅彦

##### 〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

##### 〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

##### 〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

##### 〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンド  
ストローク

30 サーブ, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サーブ・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1~3 週: 腕の振り

4~6 週: 身体のバランス

7~10 週: 足捌き (フットワーク)

11~13 週: 総括および戦術

##### 〔雨天時の対応〕

室内講義の場合あり。

##### 〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 개국以上で普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

##### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

#### 体育実技 A (テニス)

(初級)

村松 憲

##### 〔授業の目的〕

テニスを楽しむために必要な技術, エチケット, ルールを身につけます。

##### 〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

##### 〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

##### 〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更

する場合があります。

1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3~6 回目 ボレー, サーブ, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

##### 〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

##### 〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけど基礎を確認したい, という方も歓迎します。

##### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

##### 〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → [mura@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:mura@hc.cc.keio.ac.jp)

#### 体育実技 A (テニス)

(中級)

村松 憲

##### 〔授業の目的〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。また, エチケット, ルールを再確認します。

##### 〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

##### 〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

##### 〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~3 回目 サーブ, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等の基礎的技術の確認と練習

4~6 回目 回転をかけるサーブ, 大きく踏み込んで打つボレー, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでサーブからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

##### 〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

##### 〔履修者へのコメント〕

このクラスでは, 「技術レベルがどこまで到達したか」(どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールをだしてくれた場合)」ことが難しい方には初級クラスをおすすめします。

##### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

##### 〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → [mura@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:mura@hc.cc.keio.ac.jp)

#### 体育実技 A (テニス)

(初中級)

加藤 大雄

##### 〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

### 〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート

### 〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

### 〔授業の計画〕

2回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。

3回の技術力テストを行う。

### 〔雨天時の対応〕

当日の朝、掲示する。

### 〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 体育実技A (テニス)

(中上級)

加藤 大雄

### 〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

### 〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート

### 〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

### 〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。

### 〔雨天時の対応〕

当日の朝、掲示する。

### 〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 体育実技A (バレーボール)

野口 和行

### 〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

### 〔実施場所〕

網町グラウンド バレーボールコート

### 〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装、屋外シューズ

### 〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上 (4回)  
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解 (4回)  
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践  
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。  
ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

### 〔雨天時の対応〕

室内でのパス練習等、個人のレベルアップ。ビデオを用いてフォーメーション等の理解を図る。

### 〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 体育実技A (フットサル)

(初心者、経験者問わず)

須田 芳正

### 〔授業の目的〕

フットサルの技術、戦術を習得し、ゲームの中でフットサルの魅力、楽しさを体験することを目的とする。

### 〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

所在地：港区芝5-36-7札の辻パーキング2F

JR「田町駅」三田口(西口)、都営地下鉄「三田駅」より徒歩3分

### 〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装とシューズ

### 〔授業の計画〕

- 1回 ガイダンス  
(場所は、銀座 de フットサル 田町スタジアム)
- 2~4回 技術練習とゲーム形式  
テーマ：ボールフィーリング・パス&コントロール、シュート。
- 5~8回 戦術練習とゲーム形式  
テーマ：3対1, 4対1。
- 9回以後 ゲーム形式  
テーマ：チームを固定してのリーグ戦。

### 〔雨天時の対応〕

ビデオ鑑賞。

### 〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 〈武道〉

## 体育実技A (合気道)

藤平 信一

### 〔授業の目的〕

合気道の実技を通じて、心と身体の正しい使い方を学ぶ。  
心身統一を、日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

### 〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館

### 〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル(汗をふくため)
- ・Tシャツ(女子のみ)
- ・道着を持ち運ぶバッグ等

### 〔授業の計画〕

- 半期前半
- ・合気道基本技
  - ・心が身体を動かす(心身一如)
  - ・正しい姿勢(自然に安定した姿勢)
  - ・安全な受身と間合い
  - ・日常のコミュニケーションに活かす

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- ・大事な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対応

※ 春学期と秋学期ではテーマは同じですが内容は異なります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から一歩ずつ進むので、初めての方も安心して学べます。半期で一通り学ぶことも出来ますが、修得には通年の履修をお奨めします。

合気道（日吉）を履修した方も歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (弓術)

小笠原 清忠

〔授業の目的〕

弓術ウィークリースポーツの授業は、和弓に親しみながら、射法、射術の習得を目標とします。一般にスポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対する対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることにあります。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（正己弓道場）

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの）。靴下または足袋を必ず持参すること。

〔授業の計画〕

和弓に対する理解をする。

基本の技の習得。

立居振舞いや武道としての礼法、心構えを学びます。

的前で実際に矢を射る行射を通して心のあり方を学びます。

諸道具についての知識を習得します。

経験者については、的前練習を中心に、技術、知識の向上を目指します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (剣道)

(初心者から有段者まで)

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するため、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の實力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）手ぬぐい

※ 剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| 1 ガイダンス        | 剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎 |
| 2 素振りのバリエーション  | 五行の構え 対人的足さばき              |
| 3 基本の復習        | 日本剣道形の導入・1本目               |
| 4 日本剣道形 1~2 本目 | 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方     |
| 5 日本剣道形 1~3 本目 | 基本的な技の打ち方 防具の着け方           |

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 6 日本剣道形 1~4 本目     | 手の内の冴えについて 正中線の意味 切り返し |
| 7 日本剣道形 1~5 本目     | 一本打ちの技                 |
| 8 日本剣道形 1~6 本目     | 連続技（二・三段打ちの技） 払い技 捲き技  |
| 9 日本剣道形 1~7 本目     | 応じ技（すり上げ技・返し技）         |
| 10 日本剣道形 1~7 本目    | 応じ技（抜き技・打ち落とし技）        |
| 11 日本剣道形小太刀 1~3 本目 | 出頭技                    |
| 12 日本剣道形復習         | 試合規則の確認 試合形式の実践        |
| 13 紅白試合            | まとめ                    |

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

〔質問・相談〕

E-mail: yytaisho@hc.cc.keio.ac.jp まで

体育実技 A (柔道)

(初心者、経験者を問わない~男女共習)

安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。

また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。

更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、Tシャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）。
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）。
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）。
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

〈個人種目〉

体育実技 A (ダンス)

「ボールルームダンス」(入門及び初級)

篠原 しげ子

〔授業の目的〕

各種目のリズムの特徴を理解し動けるようになる。他のダンスと異なり、組んで踊るので相手の動きも理解し、協力して動けるようになる。

**【実施場所】**

網町グラウンド 武道館（剣道場）

**【定員】**

男性 10名 女性 10名

**【授業の計画】**

金曜 2春・入門（スタンダード） 金曜 2秋・入門（ラテン）

金曜 3春・初級タンゴ 金曜 3秋 初級ワルツ

入門（ラテン）・ジルバ ルンバ チャチャチャ

入門（スタンダード）・ブルース ワルツ タンゴ

の三種目の基礎を身につけるためにそれぞれ3~4週ずつ行う。

初級・ワルツ タンゴ

それぞれの種目のベーシックフィギュアを半期通して行う。

1~3週 種目の特徴・リズム 姿勢 ホールドを理解する。

4~8週 数種類のフィギュアを繋げて踊る。

9~12週 更にフィギュアの数を増やすと共に正確な踊りを目指す。

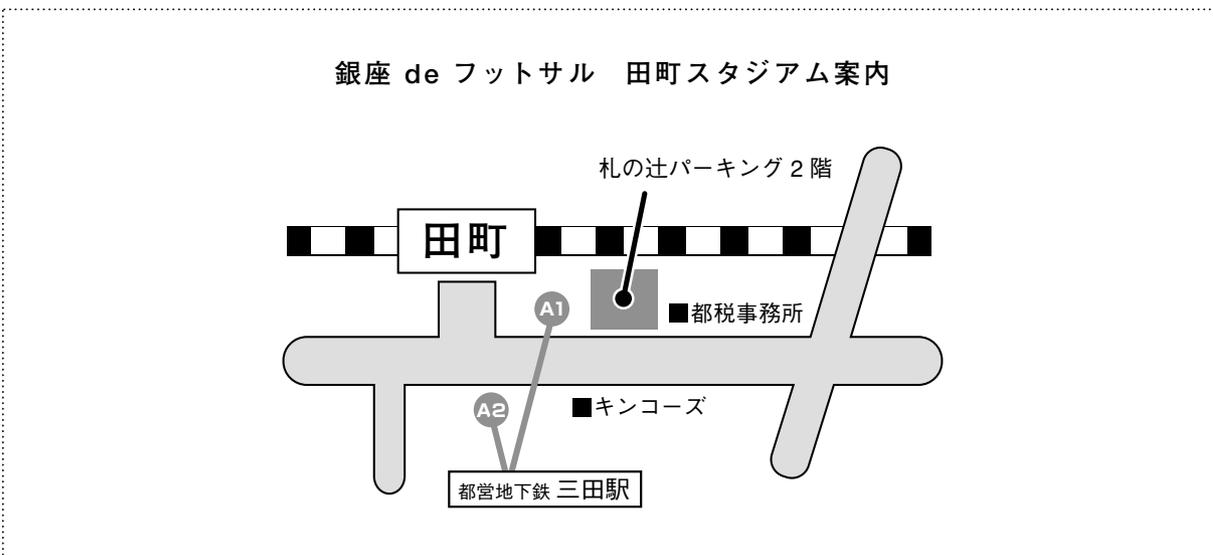
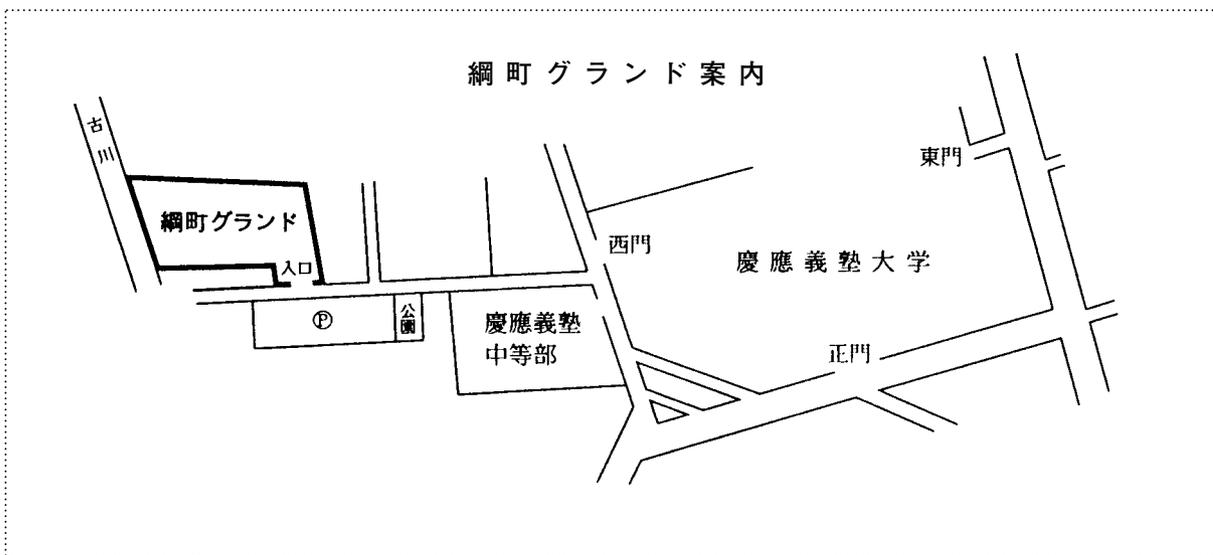
13週~ 各自好きなフィギュアを繋げて踊れるように工夫する。

**【履修者へのコメント】**

第一週目に種目のビデオを見ながら特徴を説明します。内容を良く知って選択しましょう。

**【成績評価方法】**

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。



## 福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、25名の所員（全員塾内研究教育部署との兼任）、10名の顧問、27名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の4講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

### 近代日本研究 I (春学期) 2 単位

—『学問のすゝめ』とその時代—

コーディネーター：(教 授) 小室 正紀

担当者：(教 授) 岩谷 十郎

(名誉教授) 坂井 達朗

(教 授) 米山 光儀

#### 授業科目の内容：

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

#### テキスト：

福澤諭吉『学問のすゝめ』（各種の版がある。どの版でもよい。）

#### 参考書：

- ・福澤諭吉『福翁自伝』（各種の版がある。どの版でもよい。）
- ・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

#### 授業の計画：

第1回の講義の時にシラバスを配布するが、以下のように進める予定。

第1回	はじめに
第2～4回	初編～4編（明治5年2月～7年1月）
第5～7回	5編～8編（明治7年1月～7年4月）
第8～10回	9編～12編（明治7年5月～7年12月）
第11～13回	13編～17編（明治7年12月～9年11月）

#### 履修者へのコメント：

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

#### 成績評価方法：

試験と平常点。

試験方法については、第1回の講義で説明する。

#### 質問・相談：

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

## 近代日本研究Ⅱ（秋学期）2単位

（助教授）西澤 直子

### 授業科目の内容：

福澤の論説には100年を経た今もなお、今日的な命題が含まれている。福澤論吉が近代社会に求めた「独立自尊」とは何か、それは日本社会にいかにか根付いたのか、根付かなかったのか。この課題について1) 福澤と中津士族社会との関わり 2) 慶應義塾の教育 3) 福澤の男性論女性論および家族論の3つの視点から考える。

### テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

### 参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』（岩波書店、2001～2003年）
  - ・『福澤論吉著作集』（慶應義塾大学出版会、2002～2003年）
- 他は適宜授業中に紹介する。

### 授業の計画：

- 1 序論：①授業テーマの説明 ②福澤論吉の略歴
- 2 中津士族社会との関わり：①中津市学校の役割 ②旧中津藩主奥平家資産運用と士族授産 ③「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」
- 3 慶應義塾の教育：①「慶應義塾社中之約束」の成立 ②実学重視と実業者の育成 ③モラルサイエンスと教育
- 4 男性論・女性論・家族論
- 5 まとめ：それまでの授業を通して考えてきたことに基づく討論

### 履修者へのコメント：

知識の授受ではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

### 成績評価方法：

学期末試験（論述形式）

### 質問・相談：

授業後に受け付ける。また進度に余裕があれば、授業時間内に質問の時間を設ける

## 近代日本研究演習Ⅰ（春学期）2単位

（教授）寺崎 修

### 授業科目の内容：

この演習では、福澤論吉の政治思想を学ぶため、明治11年に刊行された『通俗民権論』と『通俗国権論』を併せて読むことにしたい。授業の進め方は、輪読を基本とするが、必要に応じて時代背景、関連事項の解説をする。

### テキスト：

『福澤論吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2600円＋税）

### 参考書：

授業中に適宜紹介する。

### 授業の計画：

以下の各章をとくに注目しながら、順次検討をすすめる。

1. 官民職分之事（通俗民権論）
2. 知識見聞を博くする事（通俗民権論）
3. 品行を脩る事（通俗民権論）
4. 諸力平均之事（通俗民権論）
5. 国権を重んずる事（通俗国権論）
6. 約束を大切にすること（通俗国権論）
7. 内外の事情を詳にする事（通俗国権論）
8. 外戦止むを得ざる事（通俗国権論）

### 履修者へのコメント：

履修条件は、毎時間出席できる者。質疑応答や討議の時間をとるつもりなので、積極的な学生諸君の受講を希望する。

### 成績評価方法：

平常点と課題レポートによる。

### 質問・相談：

随時

## 近代日本研究演習Ⅱ（秋学期）2単位

福澤書簡の研究

（名誉教諭）松崎 欣一

### 授業科目の内容：

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について、「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

### テキスト：

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）

### 参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』全9巻（岩波書店刊）
- ・『福澤論吉著作集 第12巻（福翁自伝・福澤全集緒言）』（慶應義塾大学出版会刊）
- ・富田正文『考証福澤論吉』上・下（岩波書店刊）

### 授業の計画：

- 1) 福澤書簡概観…『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討…福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討…『福澤論吉全集』と『福澤書簡集』における書簡発信年月日の異同は300通をこえる。『書簡集』新収書簡が約450通あることもあわせて、『全集』第21巻所収の「福澤論吉年譜」は見直しを迫られている。新たな「福澤年譜」編成の基礎作業としての検討を行う。
- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討

福澤書簡の名宛人は約600人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。

### 5) 書簡の読解演習

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

### 履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

### 成績評価方法：

レポート（予定）

### 質問・相談：

随時。

## 設置講座案内 (三田)

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語およびアラビア語の8外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行う海外短期語学研修および高校生

から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募集する予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程：4月6日(水) 16:30～ 531 番教室  
定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。

### 外国語教育研究センター設置科目一覧 (三田)

- \* 科目名に (a) (b) と表記されている科目は春 (a)・秋 (b) をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- \* 科目名に (I) (II) と表記されている科目は春 (I) と秋 (II) のどちらかひとつを履修してもあるいは両方履修することも可能です。
- \* 英語アカデミックライティング [三田] は「半期終了科目」です。春または秋のどちらかの履修しかできません。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語 (a)	横川 真理子	春	木・2	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語 (b)	横川 真理子	秋			半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語	横川 真理子	春 秋			通年	2
	英語翻訳 (a)	アーマー, アンドルー	春	木・2	15	半期	1
	英語翻訳 (b)	アーマー, アンドルー	秋			半期	1
	英語翻訳	アーマー, アンドルー	春 秋			通年	2
	英語テスト対策 TOEFL (I)	中村 優治	春	水・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL (II)	中村 優治	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (I)	バロウス, リチャード	春	火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (II)	バロウス, リチャード	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (I)	和田 朋子	春	火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (II)	和田 朋子	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (I)	横川 真理子	春	木・1	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (II)	横川 真理子	秋			半期	1
	英語経済・金融 (I)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融 (II)	日向 清人	秋			半期	1
	英語法律・法務 (I)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務 (II)	日向 清人	秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション (I) (初級)	ファロン, ルース	春	月・5	20	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション (II) (初級)	ファロン, ルース	秋			半期	1
英語アカデミックライティング	和田 朋子	春 秋	火・1	25	半期	1	

語種	科目名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法4(b) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法4 (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春	秋			通年	2
	ドイツ語表現技法5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッベル=タカヤマ, メヒテイルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法5(b) (中・上級文章表現法)	ドゥッベル=タカヤマ, メヒテイルド		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法5 (中・上級文章表現法)	ドゥッベル=タカヤマ, メヒテイルド	春	秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法2(I) (DELFL第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法2(II) (DELFL第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル		秋			半期	1
	フランス語表現技法3(I) (DELFL第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法3(II) (DELFL第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル		秋			半期	1
	フランス語表現技法4(I) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステイアン・ アンドレ	春		木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法4(II) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステイアン・ アンドレ		秋			半期	1
	ロシア語	ロシア語表現技法1(I) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春		金・3	25	半期
ロシア語表現技法1(II) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)		熊野谷 葉子		秋	半期			1
ロシア語表現技法2(I) (ロシア語で発信しよう)		宮澤 淳一	春		木・4	25	半期	1
ロシア語表現技法2(II) (ロシア語で発信しよう)		宮澤 淳一		秋			半期	1
中国語	中国語聴解2(I)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・3	25	半期	1
	中国語聴解2(II)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦		秋			半期	1
	中国語表現技法2(I)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法2(II)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明		秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法3(I)(上級)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法3(II)(上級)	安藤 万奈		秋			半期	1

2005年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月					英語経済・金融(Ⅰ) フランス語 表現技法2(Ⅰ) ドイツ語表現技法4(a) ドイツ語表現技法4	日向 ルカルヴェ 三瓶	英語法律・法務(Ⅰ) フランス語 表現技法3(Ⅰ)	日向 ルカルヴェ	英語オーラル・ プレゼンテーション (Ⅰ)(初級) 中国語表現技法 2(Ⅰ)(最上級)	ファロン 蔣
火	英語 アカデミックライティング	和田	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ)	和田			ドイツ語 表現技法5(a) ドイツ語表現技法5	ドゥッパル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ)	ハロウス
水			英語テスト対策 TOEFL(Ⅰ)	中村	中国語聴解 2(Ⅰ)(最上級)	山下				
木	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ) フランス語 表現技法4(Ⅰ)	横川 バリセロ	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語 英語翻訳(a) 英語翻訳	横川 アーマー			ロシア語 表現技法2(Ⅰ)	宮澤		
金					ロシア語 表現技法1(Ⅰ)	熊野谷	スペイン語表現技法 3(Ⅰ)(上級)	安藤		
土										

2005年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月					英語経済・金融(Ⅱ) フランス語 表現技法2(Ⅱ) ドイツ語表現技法4(b) ドイツ語表現技法4	日向 ルカルヴェ 三瓶	英語法律・法務(Ⅱ) フランス語 表現技法3(Ⅱ)	日向 ルカルヴェ	英語オーラル・ プレゼンテーション (Ⅱ)(初級) 中国語表現技法 2(Ⅱ)(最上級)	ファロン 蔣
火	英語 アカデミックライティング	和田	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ)	和田			ドイツ語 表現技法5(b) ドイツ語表現技法5	ドゥッパル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ)	ハロウス
水			英語テスト対策 TOEFL(Ⅱ)	中村	中国語聴解 2(Ⅱ)(最上級)	山下				
木	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ) フランス語 表現技法4(Ⅱ)	横川 バリセロ	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語 英語翻訳(b) 英語翻訳	横川 アーマー			ロシア語 表現技法2(Ⅱ)	宮澤		
金					ロシア語 表現技法1(Ⅱ)	熊野谷	スペイン語表現技法 3(Ⅱ)(上級)	安藤		
土										

## 慶應義塾大学 在外研修プログラム

慶應義塾大学では、全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季休業中に海外で在外研修プログラム「慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」「慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を開講します。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、現地研修には本学の教職員が同行します。

また、現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、環境をめぐるテーマを扱い、講義やディスカッションだけでなく豊かな自然環境を活かした体験学習旅行を含むワシントン大学でのプログラムを今年度から開設します。

このほか、春季休業期間中には、パリ政治学院の講師陣による EU に関する講義のほか、フランス語会話のクラスや EU の諸機関の訪問も含む「パリ政治学院春期講座」についても引き続き実施することを計画しています。

これら 2 つのプログラムについては国際センターのホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(月) 三田 528 教室 13:00~14:30  
4月5日(火) 藤沢 Ω12 教室 15:45~17:15  
4月6日(水) 矢上 14-201 教室 13:00~14:30  
4月6日(水) 日吉 J11 教室 17:00~18:30

### ①慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

原 田 隆 史 文学部助教授

柏 崎 千佳子 経済学部助教授

### 授業科目の内容：

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は 1693 年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

### 単位数：

4 単位

※ 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

### 教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

### 授業の計画：

現地研修期間：2005 年 7 月 29 日(金)～8 月 16 日(火)(予定)

4 月下旬より事前研修(6 回程度)、また、帰国後には事後研修(2 回程度)を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：40 名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類：①参加申込書(所定用紙)、②学習計画書(日本語及び英語。各 A4 一枚程度)、③最新の学業成績表のコピー(3 月中旬に保証人宛に送付されるもの)、④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)、⑤RESEARCH PROPOSAL(所定用紙)書類選考後、グループ分けの時に利用します。

(4) 募集期間：4 月 7 日(木)～4 月 14 日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

**成績評価方法：**

事前・事後研修の出席，中間発表，現地研修期間中の活動，Final Presentation，日本帰国後の Final Report により採点します。

②慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

中野 誠彦 理工学部助教授  
スネル，ウィリアム 文学部助教授

**授業科目の内容：**

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義，ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション，エッセイの作成・提出を中心としており，ケンブリッジ大学の教員が指導に当たります。講座期間中は，専門分野の知識を深めるだけでなく，ダウニングコレッジ内での寮生活や，ケンブリッジ大生が企画する諸活動に積極的に参加することで，幅広い異文化交流を体験することができます。

**単位数：**

4単位

※ 本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

**教科書：**

現地での開講科目の参考文献を，国際センター作成の募集要項に記載しています。また，事前研修時にリストにして配布します。

**授業の計画：**

現地研修期間： 2005年8月8日(月)～9月7日(水)

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：

Acient Greece and Western Civilization, Genethics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：

English Literature, The Science of Chaos

第4週：

Society and Politics in Contemporary Britain, Astronomy: Unveiling the Universe

9月6日(火) Closing ceremony

第2週から第4週までは，各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択，合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため，事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答(午前)

ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：60名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類：①参加申込書(所定用紙)，②学習計画書(日本語及び英語。各A4一枚程度)，③最新の学業成績表のコピー(3月中旬に保証人宛に送付されるもの)，④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)，⑤履修希望科目申告表(所定用紙)

(4) 募集期間：4月7日(木)～4月14日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

**成績評価方法：**

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

## 国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生
2. 単位 各科目2単位  
(なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)

### 3. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

## 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

---

オーストラリアのビジュアルアート

(春学期) (Spring)

### AUSTRALIAN VISUAL ARTISTS: AN INTRODUCTORY COURSE

ニコルズ, クリステーン 国際センター講師 (東京大学客員教授)

Christine Nicholls

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

---

#### **Course Description:**

In this topic Dr Nicholls will introduce students to a selection of (mainly) contemporary Australian visual artists, and their work. Approximately half of the artists whose work will be discussed in the course will be Aboriginal. This will necessitate an introduction to the religious basis and underlying philosophy of Indigenous artistic production. In addition to powerpoint presentations introducing the class to the work of individual artists, the class will view and then discuss a number of films showing the artists' approach to their work. The course will also introduce cultural theory required for understanding contemporary art: postmodernism; cultural hybridity; simulacra; theories of "the gaze"; "the spectacle" and Judith Butler's ideas about gender and performativity

#### **Text Books:**

Nicholls, Christine, 2003, Art, Land, Story, Working Title Press, Adelaide, Australia, ISBN 1 876288 41 8 , price \$13.00 Australian (about 1200 yen) and Nicholls, Christine, 2003, Art, History, Place, Working Title Press, Adelaide, ISBN 1876288434 Australian price \$13.00 Australian (about 1200 yen)

Note that I will also be using handouts, so that students can avoid buying more expensive books. Text materials can be downloaded from the following Website <http://seekbooks.com.au>

#### **Reference Books:**

Andrew Sayers, Publisher: Oxford University Press, ISBN: 0192842145

Format: Paperback AUD\$39.95

#### **Grading Methods:**

Reports, and some oral presentation in class. Attendance, Participation will also be taken into consideration.

#### **Questions, Requests:**

The two text books can be purchased on <http://www.seekbooks.com.au> at a very reasonable rate (less than \$12.00 Australian dollars)

---

異文化と自己理解

(春学期) (Spring)

### CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

#### **Sub Title:**

Looking for the hidden roots of cultural difference

#### **Course Description:**

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

#### **Text Books:**

Handouts to be supplied by the teacher.

#### **Reference Books:**

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

**Class Schedule per week:**

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

**Message to those taking this Course:**

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

**Grading:**

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

---

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

---

**Sub Title:**

Understanding Contemporary & Historical Aspects

**Course Description:**

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

**Text Books:**

None. Handouts will be given from time to time.

**Reference Books:**

Several books will be suggested during the class.

**Class Schedule per week:**

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

**Message to those taking this Course:**

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

### **Grading Methods:**

In class Exams, Attendance, Participation

### **Questions, Requests:**

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

---

現代中国の国家と社会

(春学期) (Spring)

STATE AND SOCIETY IN CONTEMPORARY CHINA

ワンク, デイビッド 国際センター講師 (上智大学教授)

David L. Wank Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

---

### **Course Description:**

#### Overview

This course assumes no prior knowledge about contemporary China, or about communist social and political organization. It is designed to provide a historical and thematic overview of post-1949 authority relations and patterns of politics in China. The first half of the course looks at the distinguishing features of state and society, such as central economic planning and one-party rule, that took shape during the first decade of the People's Republic in the 1950s. The second half of the course looks at the ensuing patterns of politics and conflict and how they have evolved over time. The course readings include original documents, autobiographies, and writings by sociologists, as well as political scientists and anthropologists.

#### Organization

Each class meeting will consist of a lecture. The lectures are a historical narrative of economy, society, and politics from 1949 to present. They are coordinated with the readings, which illustrate specific themes mentioned in the lectures. In addition we will see one Chinese movie.

### **Text Books:**

#### Readings

All readings listed in the course outline are required of all students. All readings are available online except for the following three books which are available for purchase.

GAO Yuan. *Born Red: A Chronicle of the Cultural Revolution*. Stanford University Press, 1987.

Shu-min HUANG. *The Spiral Road: Change in a Chinese Village Through the Eyes of a Communist Party Leader*. Westview Press, 1998 (second edition),

Andrew G. WALDER. *Communist Neo-Traditionalism: Work and Authority in Chinese Industry*. University of California Press, 1986,

### **Class Schedule per week:**

#### INTRODUCTION

##### Unit 1

Lecture on the "state and society" concept in political sociology

Reading on models of state and society for China

Wank, "State and Society in American Studies of Contemporary China"

#### HISTORICAL BACKGROUND

##### Unit 2

Lecture on historical background

Reading on the origins of the party-state

Mao, "The Role of the Chinese Communist Party in the National War"

##### Unit 3

Lecture on communism in China and the Chinese Communist Party, 1917-1949

Reading on defining features of the party-state

Huang, *The Spiral Road*, chps. 1-5

Movie: To Live (directed by Zhang Yimou)

#### THE NEW ORDER, 1949-1957

## Unit 4:

Lecture on stabilization immediately after the revolution, 1949–1953,

Readings on the party as an organization and status group

Vogel. “From Revolutionary to Semi-bureaucrat”

P. Link (ed.). “What if I Really Where?”, “A Bundle of Letters”, and “The Tyrant Bids Farewell to His Mistress”

Liu, “People or Monsters”

## Unit 5

Lecture on building a centrally planned economy

Readings on the “corporateness” of social institutions

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, chps. 2,4,8,9,12.

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps 1-3.

## Unit 6

Lecture on the bureaucratic administration of state and society

Readings on social inequality

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, ch. 3

Unger. “The Class System in Rural China”

## DEEPENING THE REVOLUTION, 1958–1976

## Unit 7

Lecture on the Great Leap Forward, 1958–1960

Readings on careers and social mobility;

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, ch. 4

Shirk. *Competitive Comrades*, pp. 63-178.

## Unit 8

Lecture on economic retrenchment and competition within the elite, 1961–1965

Readings on the personalization of authority

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 5, 8

Oi. “Comunism and Clientelism: Rural Politics in China”

## Unit 9:

Lecture on the Cultural Revolution

Readings on the conflict and instability in the polity

Gao. *Born Red*, entire

## CHINESE SOCIALIST MODERNIZATION, 1979–

## Unit 10

Lecture on the interregnum and further elite conflict, 1974–1979

Readings on the commercialization of power

Huang. *The Spiral Road*, chps. 6-12

Oi. “Market Reform and Corruption in Rural China”

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 6-7

Shirk. “The Decline of Virtuocracy in China”

## Unit 11

Lecture on marketization and new patterns of conflict, 1979–1989

Readings on the Democracy Movement

Han. *Cries for Democracy: Writings and Speeches from the 1989 Chinese Democracy Movement*. pp. 5-16, 28-33, 36-44, 50-57, 59-62, 72-81, 83-91, 97-111, 118-126, 134-187, 197-208, 217, 221, 231-241, 246-251, 255-280, 285-295, 299-318, 335-349, 355-367

Saich. *The Chinese People's Movement: Perspective on Spring*, 1989, pp. 25-49, 83-163.

## Unit 12

Lecture on the deepening of marketization and new conflicts

Readings on new social movement

Mallee, "Migration, Hukou, and Resistance in Reform China"

Zweig. The Externalities of Development"

### **Grading Methods:**

A. Short writing assignment (15 percent of final grade)

There will be a short writing assignment based on the movie. It will be graded Excellent, Satisfactory, Poor. If you miss the movie you will be asked to finish readings the Spiral Road and write a 1,000 word review of by the following class.

B. In-class exams (45 percent of final grade)

There will be two in-class exams of short identification and/or multiple choice answers based on the lectures. They will be graded on the regular A-F scale.

C. Final writing assignment (40 percent of final grade).

This will be graded on an A-F scale. As this assignment is considered a take-home final, failure to hand it results in an "F" grade for the entire course regardless of your grades on the other course assignments).

D. Attendance is expected of all students enrolled in course. Attendance will be taken.

---

グローバルヴィレッジ構築に向けて：日本とサブ・サハラ アフリカ地域

(春学期) (Spring)

### **BUILDING THE GLOBAL VILLAGE**

高橋良子

環境情報学部教授

Yoshiko Takahashi

Professor, Faculty of Environmental Information

フリードマン デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environmental Information

---

### **Sub Title:**

Perspectives on Japanese Policy in Sub-Saharan Africa

### **Syllabus:**

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to be combined in order to offer a fuller world view.

This course will focus on geo-political areas that stand outside the "global economy" (at this point) and issues that such areas face as they plan to integrate their economies and cultures into the "global village."

As the countries of Sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the NEPAD (New Partnership for Africa's Development) a major part of its international policy. Last year, for example, at the third TICAD (Tokyo International Conference on African Development), Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged US\$1 billion for education and health care in Africa, which made Japan as one of the largest aid donors to Africa. Yet despite these official policies, Japanese trade with some Sub-Saharan countries has actually dropped, and the Japanese public remains distantly aware of Sub-Saharan Africa and the forces that have shaped its present situation and the role of the Japanese government in Sub-Saharan countries.

This course will help deepen students' understanding of the contemporary Sub-Saharan African nations and their socio-political and cultural issues which affect global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the African Union (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

### **Texts (tentative recommendations):**

- 1) <http://web.africa.ufl.edu/asq/v5/v5i2a4.htm> (African Studies Quarterly Japan-Emerging Trends in Japan-Africa Relations: An African Perspective)
- 2) Dynamics of Japan's Relations with Africa: South Africa, Tanzania and Nigeria By: Ampiah, Kweku Published By: Routledge

### **Tentative Course Schedule (this schedule is subject to change due to the availability of various Ambassadors and embassy officials.):**

Class 1 Introduction and Organization: A short discussion of Japan's involvement in Sub-Saharan Africa and the organization of student research group based on country.

Class 2	A Short History of Africa: Overview lecture on African histories
Class 3	Sub-Saharan Africa and Japan: Overview lecture by an official of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
Class 4	Sub-Saharan African Aid and the Bretton Woods System: An examination of early aid projects to the newly independent African states and constraints by the prevailing economic theories of the Bretton Woods system; NEPAD's responses to some of the issues arisen from this system
Class 5	"Mediated" Africa: The effect of the "classic" media images of African societies on policy, perceptions and tourism *Ambassador of Kenya *Ambassador of Tanzania
Class 6	The African Response to AIDS: An examination of policies adopted to address the social and economic issues of AIDS pandemic. *Ambassador of Uganda *Ambassador of Zambia
Class 7	Mid-term Review: Discussion of the students' ideas for their individual final papers, and work with their research group on their presentation.
Class 8	African Issues and Solutions: An examination of the some of the issues of the post-colonial legacy *H.E. Dr. B. Nugbane, Ambassador of the Republic of South Africa *Ambassador of the Republic of Zimbabwe
Class 9	Models of Development for Micro-Economies: Policy options pursued by smaller African nations with non-integrated economies *Ambassador of Botsawana *Ambassador of Malawi
Class 10	African Policy and Japanese Scholarship : An intermediary role played by academic research and exchange between policy development and application. *Ambassador of Angola
Class 11	Symposium (tentative) In case of scheduling problems with the symposium this class will be a concluding lecture covering such topics as African Resources: Eco-tourism, spiritualities and communitas-the possibilities of non-material resources in development.
Classes 12 & 13	Final group project presentations and class summary

**Evaluation:**

As this class is based on the talks given by the guest speakers and the students response attendance is of the UTMOST importance. Daily participation will account for 45% of the final grade. Group work both in hosting the guest speaker from the group's chosen country and the final oral group presentation will account for a further 20% of the evaluation. A final individual research paper of 5 page minimum (single space, 12 pt font) with a separate bibliography will account for the final 35% of the grade.

**Note to Interested Students:**

1. Students interested in this course, please be present at the first meeting and have researched the following sites:  
①<http://www.mofa.go.jp/region/Africa/> 2) and ② <http://www.jica.go.jp/English/activities/regions/09afr.html>
2. Although the class will take place in 4th period, there will sometimes be an opportunity for interested students to spend sometime after the class period with the visiting Ambassadors of that day. Please consider this when planning your schedule

---

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

**Subject of the class:**

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

### **The principal book:**

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3<sup>rd</sup> ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

### **Assignments:**

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding  
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

### **Comment on the Class:**

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

### **Grading Policy:**

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

### **Office Hours:**

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

---

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期) (Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ 国際センター講師

Mario Antolinez Lecturer, International Center

---

### **Course Description:**

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general

remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

### **Text Books:**

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

### **Reference Books:**

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.  
 Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.  
 Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.  
 Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.  
 Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.  
 Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.  
 Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.  
 Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.  
 Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.  
 Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.  
 Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.  
 Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.  
 Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.  
 Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

### **Class Schedule per week:**

#### PART I

- Session 1: Introduction  
 Session 2: The Actors  
 Session 3: The Inter-American System  
 Session 4: Latin American Integration and Association  
 Session 5: Economic Outlook  
 Session 6: International Relations  
 Session 7: Latin America and the United States

#### PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants  
 Session 9: Cuba: The Socialist Way  
 Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery  
 Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy  
 Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution  
                   The Caribbean: Colonies and Micro-states  
 Session 13: Final Exam

### **Grading:**

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

---

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期) (Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

### **Course Description:**

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business

strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

### **Text Books:**

Leading the Revolution by Gary Hamel  
Supplementary Reading Materials and Case Studies  
Additional Book To Be Assigned

### **Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

### **Class Schedule per week:**

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership /and Strategy
- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

### **Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

### **Grading:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

### **Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

---

現代ロシア研究

(春学期) (Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

---

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike,

what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

---

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

(春学期) (Spring)

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer, International Center

---

### **Sub Title:**

American History, Culture and Foreign Policy

### **Rationale:**

After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation and democracy to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

### **Course Outline:**

The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: ‘Old’ and ‘New’ immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock’ n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865–1917): Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920–2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war against terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?

### **Aims:**

The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue independent thinking

### **Reference Books:**

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

———, *The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity*, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

———, *Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics*, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvestan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

### **Class Schedule per week:**

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 1 <sup>st</sup> Week:  | Shopping   |
| 2 <sup>nd</sup> Week:  | Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's <i>The Conquest of America</i> ; Sollors, <i>Theories of Ethnicity</i> ; de Tocqueville, <i>Democracy in America</i> ,   |
| 3 <sup>rd</sup> Week:  | 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian-Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues   |
| 4 <sup>th</sup> Week:  | Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."  |
| 5 <sup>th</sup> Week:  | A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, <i>The Lonely Crowd</i> ); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation. |
| 6 <sup>th</sup> Week:  | Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.   |
| 7 <sup>th</sup> Week:  | World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).  |
| 8 <sup>th</sup> Week:  | Readings form speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, <i>Representation</i> ; Taylor and Appiah, <i>Multiculturalism</i> .   |
| 9 <sup>th</sup> Week:  | American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's <i>The Clash of Civilization</i> .   |
| 10 <sup>th</sup> Week: | Henry Kissinger and others on American Foreign Policy  |
| 11 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report  |
| 12 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report  |
| 13 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation   |

### **Message to those taking this Course:**

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

### **Grading Methods:**

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. An end-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participasion 10% credit.

---

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期) (Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

---

### **Sub Title:**

The meaning of modernity and crises in Africa

### **Course Description:**

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of movement of people in contemporary Africa. Migration is an important feature of the lives of a large number of African. Contrary to a conventional view that African villagers never see the outside world, they often move away from their villages without severing their ties with homes. It is a practice of *longue durée* as well as experiencing contemporary transformations. However, movement does not merely refer to geographical movements of people but more importantly to social and cultural shifts. People commonly move between groups (therefore change their personal identities), between works, between religious faiths, between medical practices and lots more, which presupposes considerable social and cultural plurality.

Using wide range of academic disciplines, we will explore geographical movements, and social and cultural shifts in contemporary Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) urban-rural migration, (2) multiplicity of identities and their changes, (3) diversification of occupations and jobs, (4) situational changes in religious and medical practice, (5) crisis situations attributable to such movements and plurality. The course will highlight movement as modernity in Africa.

### **Text Books:**

Texts will be distributed in due course.

### **Reference Books:**

1. Trager, L. 2001. *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner.
2. Kondo, H. 2003. "Illness in Between". *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

### **Message to those taking this Course:**

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

### **Grading Methods**

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

---

国際開発協力論

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

長谷川 純一

国際センター講師 (東京大学客員教授)

Junichi Hasegawa

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

---

### **Sub Title:**

Framework for Poverty Reduction in Developing Countries

### **Course Description:**

70% of the world population live in developing countries. Discussions will be provided for the students who are expected to live and work in the global world. The main topics of the class are: 1) nature of developing countries and development strategies; 2) actual practice and methodology of aid; 3) public opinion on ODA, national interest and international society; and 4) international organizations, bilateral aid agencies and history of development cooperation.

### **Text Books:**

Printed materials will be provided for the actual cost.

### **Reference Books:**

Todaro, Michael and Stephen C. Smith, *Economic Development 8<sup>th</sup> Edition*, Harlow/Boston, Pearson Education/Addison-Wesley, 2002  
Easterly, William, *The Elusive Quest for Growth Economists' Adventures and Misadventures in the Tropics*, Cambridge: The MIT Press, 2001

### **Class Schedule per week:**

1. Introduction to International Development Cooperation
2. Economies of Developing Country
3. Evolution of Development Economics
4. Actual Practices of ODA
5. ODA, Governing Law and National Interest
6. Japanese ODA and Public Opinion
7. 50 Years of ODA and Thoughts behind It
8. Aid Organizations
9. What is the Role of NGOs?
10. Pursuing Effective Aid
11. Current Topics in Donors' Circle
12. Is Aid Effective? <Micro Macro Paradox>
13. (TBD)

### **Message to those taking this Course:**

Let us think about Development! No prior knowledge is required, but your active participation is strongly encouraged.

### **Grading Methods:**

One Term Paper will be requested. Evaluation will be made based on active class participation (50%) and Term Paper (50%).

### **Inquires**

mailto:j-hasegawa@jbic.go.jp

---

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

### **Sub Title:**

Human relations in the new global community

### **Course Description:**

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

### **Text Books:**

Handouts to be supplied by the teacher.

### **Reference Books:**

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
- 2) Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

### **Class Schedule per week:**

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact — Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture — the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning — sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development — the three reactions
7. The roots of prejudice — Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism — Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond — Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

### **Message to those taking this Course:**

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

---

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期) (Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

---

### **Course Description:**

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

### **Message to those taking this Course:**

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

### **Grading Methods:**

Grading Criteria: A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

---

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学 グローバルセキュリティ研究所 所長

Aftab Seth

Director, Keio University Global Security Research Center

---

### **Sub Title:**

A view from a practitioner

### **Course Description**

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post

which is a sub office of and Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

**Text Books:**

象は痩せても象である—英語版・“Even if an elephant gets thin, it is still an elephant”

**Reference Books:**

- Leadership in an interdependent world by Ghita Ionescu, Longman
- Reconciliation in the Asia Pacific edited by Yoichi Funabashi, US Institute of Peace Press
- Peace and security in the Asia Pacific region edited by Kevin Clements, UN University Press
- Contemporary Conflict Resolution, Hugh Miall, Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse by Polity Press
- South Asia in the world edited by Ramesh Thakur and Oddny Wiggen UN University Press
- The debate over Vietnam by David W. Levy, Johns Hopkins, University Press
- Origins of the Cold War edited by Melvyn P Leffler and David S Painter Routledge publishers
- Beyond the Judgement of Civilisation by Ushimura Kei Translated by Steven J Ericson by International House of Japan, Japanese title Bunmei no sabaki o koete.
- Is Japan still number one, Ezra E Vogel Pelanduk Publications 2000
- Victor's Justice Tokyo War Crimes Richard H Minear Princeton University Press
- Japanese Higher Education a Myth by Brian J McVeigh published by ME Sharpe 2002
- The Journal of Oriental Studies: Special Series The Spirit of India VOL 13 2003, by the Institute of Oriental Philosophy
- The Man who Harvests Sunshine by Andras Erdelyi: the Modern Gandhi: MS Swaminathan (to be continued)
- Ten Years of the Sasakawa South East Asia Cooperation Fund by Sasakawa Peace Foundation
- Innovation and Change selected essays and Christianity in the Arab World by Prince El Hassan bin Talal of Jordan published by Majlis El Hassan Amman Jordan 2003 and SCM Press London respectively.
- Bulletin of the Royal Institute for Inter-Faith Studies Vol 5 Number 2 Autumn/Winter 2003 printed by the Institute in Amman Jordan

**Class Schedule per week:**

- 1) Introduction
- 2) & 3) India and Japan in a resurgent Asia-2 lectures including the role of an embassy
- 4) Cross fertilization in civilizations. A shared past
- 5) The Cold War, origins and demise
- 6) Asian Integration: Economic and Cultural
- 7) Conflict Prevention, Management and Resolution
- 8) South Asia-Perspectives and prospects
- 9) Leadership-its role in diplomacy: governance and inner peace
- 10) Regionalism, Multiculturalism and Multilateralism
- 11) Vietnam: perspective and prospects
- 12) Europe-Unity-Peace
- 13) Role of NGO's in international relations a case study: the MS Swaminathan Foundation, Institute of Satya Sai Education, Sasakawa Peace foundation, Toyota Foundation, The Royal Institute for Inter-Faith Studies

**Message to those taking this Course:**

There will be an attempt to invite guest speakers who will be Ambassador from other countries. This may lead to some changes in the titles of the lectures and the structure. The aim is to share experiences in the craft of diplomacy, the practical aspects of conducting international relations, including bilateral relations between 2 countries. Students from all faculties are welcome.

**Grading Methods:**

- Written Exam
- Graded on the basis of participation in class and group discussions and regular attendance.
- There will also be an oral interview for meritorious students

## VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

**Course Description:**

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the “hidden” ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

**Text Books:**

A partial list of films on the course syllabus:

*CEDDO* (SENEGAL, 1978)

*HEARTS AND MINDS* (U.S.A., 1975)

*THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN* (W. GERMANY, 1979)

*QUILOMBO* (BRAZIL, 1984)

*SANS SOLEIL* (FRANCE, 1982)

*TANGO* (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

*WALKER* (U.S.A., 1987)

*Last Samurai* (U.S.A., 2003)

**Grading Methods:**

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation (40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper (60%).

## DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

**Sub Title:**

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

**Course Description:**

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively “unknown” world, and so doing, to reconsider such questions as what is “development” and what is “prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

**Text Books:**

give you hand-out

**Reference Books:**

倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

**Class Schedule per week:**

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

**Message to those taking this Course:**

read several books on developing countries in Southeast Asia

**Grading Methods:**

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance, Participasion (requires 70% attendance)

---

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期) (Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

**Text Books:**

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

**Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

**Class Schedule per week:**

- Introduction
- How to Succeed in Asian Markets
- Asian Market Leaders
- Hybrid Management Styles
- Leading Foreign Firms Successfully
- Local Company and Country Trends
- Country Information Presentations
- Pan-Asia Strategy
- Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
- Political and Economic Risks in Asia

Executive Development and HR  
Challenges in Asia  
Competition with Family Businesses  
Business in Frontier Markets  
Company Presentations

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

**Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

**Evaluations:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

**Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

---

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ

(秋学期) (Fall)

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

林 秀毅

経済学部非常勤講師 (新光証券商品企画部部长・グローバルストラテジスト)

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, General Manager Financial Products Planning Department Shinko Securities Co., Ltd)

---

**Course Description:**

This course is intended to understand the EU-Japan relations, offered in English. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical.

In each lecture, points will be discussed based on Powerpoint documents. As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed in the following week will be announced. Students are supposed to submit report on the topic one week after.

**Text Books:**

Julie Gilson, "Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century", Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

**References:**

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

**Class Schedule (Subject to change):**

Lectures will be based mostly on chapters of the text.

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)

Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)

Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)

Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Each number in parenthesis indicates the number of the lectures subject to change. Additional articles and materials will be introduced, if necessary.

### **Message to Those Taking This Course:**

The knowledge on European language (French, German, Italian, or Spanish) is preferable, but not essential.

### **Evaluation:**

Exam. Reports. Attendance.

### **Questions and consultation:**

Anytime during the class, also by e-mail.

---

産業史各論（科学技術政策史）

（春学期）（Spring）

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部非常勤講師（一橋大学助教授）

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

---

### **Course Description:**

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

### **Reference Books:**

Etzkowitz, Henry, 2002. *MIT and the Rise of Entrepreneurial Science*. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. *Science*. Open University Press.

Levy, Pierre, 2001. *Cyberculture*. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. *Science, technology and society in contemporary Japan*. Cambridge University Press.

Penely, Constance. 1997. *NASA/Trek: popular science and Sex in America*. Verso.

Samuels, Richard J., 1994. *Rich Nation, Strong Army*. Cornell University Press.

加藤弘一 著「電脳社会の日本語」文春新書, 2000

中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

### **Class Schedule per week:**

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

### **Evaluation:**

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

### **Inquiries:**

Jonathan\_lewis@mac.com

<http://www.lewis.soc.hit-u.ac.jp>

# 日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション 1—日本のコミュニケーションパターンから見た場合—

(春学期) (Spring)

## INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

### **Sub Title:**

Seen from Japanese communication patterns

### **Course Description:**

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

### **Text Books:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

### **References:**

*Japanese culture and behavior: selected readings* by Takie Lebra & William Lebra

*Japanese patterns of behavior* by Takie Sugiyama Leba

*An introduction to intercultural communication* by John C. Condon & Fathi Yousef

*Intercultural communication :a reader* (6th edition) by L. A. Samovar & R. E. Peter

### **Course Schedule:**

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. *Amae* psychology: prototype of *Amae* and definition of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi, Enryo and Honne* vs. *Tatemae*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2
14. Wrap-up

### **Message to Those Taking This Course:**

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

### **Evaluation:**

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and final individual project paper based on group project.

**Inquiries:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

---

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期) (Spring)

**JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION**

キンモンズ, アール H. 国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

---

**Course Description:**

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

**Recommended Reading:**

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction to the course — “Whose images of which Japan?”
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril
5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation — Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation — progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching — the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother — the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment — rational choice versus revisionism in the American view of Japan’s “bubble economy”
13. “Comfort Women” and “The Rape of Nanking” — American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state — American images of “post bubble Japan”

**Message to Those Taking This Course:**

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

**Evaluation:**

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

**Inquiries:**

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

## CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN

稲葉エツ

国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba

Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

**Sub Title:**

Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies

**Course Description:**

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as “best practice” will be pursued through case studies, company visits and student’s own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

**Recommended Readings:**

Will be advised at the beginning of the course.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

**Message to Those Taking This Course:**

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

**Evaluation:**

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student’s own initiative.

**Inquiries:**

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

## THE AWAKENING

アーマー, アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

**Course Description:**

Japanese prose literature of the modern period will be discussed in this lecture course. In “Journey Through the Floating World” last summer, we covered the pre-modern literature of the Tokugawa period, an era that came to an abrupt end with the Meiji Restoration of 1868. The resulting political and social upheaval had a traumatic effect on many aspects of Japanese life, and literature was no exception. Some savored the sharp break with the past, while others looked back on their own cultural heritage for inspiration and continuity. We will focus on the development of the modern novel through the works of such writers as Natsume Soseki, Mori Ôgai, Akutagawa Ryûnosuke, Kawabata Yasunari, Tanizaki Junichirô and Mishima Yukio. Modern film adaptations will also be introduced

**Text Books:**

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/mezame.htm](http://www.armour.cc/mezame.htm))

**Recommended Reading:**

A list of reference works and useful links are available on-line.

**Class Schedule (Subject to change):**

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

**Message to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

**Evaluation:**

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

## JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘 商学部助教授

Mitsuhiro Umezu Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

**Course Description:**

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

**Recommended Reading:**

TBA

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

**Message to Those Taking This Course:**

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

**Evaluation:**

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

---

美術を「よむ」－日本美術史入門

(春学期) (Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

---

**Description:**

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Modernity was first and foremost articulated through the construction of the nation state “Japan.” Visual arts played a central role in providing the modern nation with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider broader issues such as commodity consumption, gender, and imperialism in the context of visual representation.

**Requirements:**

1. Short paper (4-5 double-spaced pages)
2. Take-home midterm exam
3. Take-home final exam
4. Two field trips to museums in the area

## Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be put on reserve.

## Proposed Syllabus:

1. *Introduction*
2. *Constructing "Japanese Art"*  
READING: Ellen Conant, "Refractions of the Rising Sun: Japan's Participation in International Exhibitions 1862-1910," (1991); Christine Guth, "From Temple to Tearoom," (1993).
3. *From Edo to Meiji: Takahashi Yuichi and Kanô Hôgai*  
READING: Tôru Haga, "The Formation of Realism in Meiji Painting: The Artistic Career of Takahashi Yuichi," (1971); Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," (1995).
4. *Body and the Nude*  
READING: Norman Bryson, "Yôga and the Sexual Structure of Cultural Exchange," (1994).
5. *Okakura Kakuzô and the Aesthetic Ideology of Asia*  
READING: Excerpts from Okakura Kakuzô, *The Ideals of the East*, (1903) and *The Book of Tea*, (1906); Emiko Usui, "National Identity, the Asiatic Ideal, and the Artist: Okakura Presents the Nihon Bijutsuin in Boston," (1999).
6. *The Modern Artist, Urban Spectacle and the Modernist Vision*  
READING: John Clark, "Artistic Subjectivity in the Taisho and Early Showa Avant-Garde," (1994); Miriam Silverberg, "Constructing the Japanese Ethnography of Modernity," (1992).
7. *Orientalism, Nativism, and Traditionalism*  
READING: Alexandra Munroe, "Circle: Modernism and Tradition," (1994); Yoko Kikuchi, "Hybridity and the Oriental Orientalism of Mingei Theory," (1997).
8. *Images After Ground Zero*  
READING: John Dower, "Japanese Artists and the Atomic Bomb," (1993); Yamanashi Emiko, "Painting in the Time of 'Heavy Hands'," (1997).
9. *Action and Expression: the Gutai Association*  
READING: Sin'ichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," (1998).
10. *"Anti-Art" in the 60s*  
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," (1994).
11. *The Postwar Unconscious: Performance and Photography*  
READING: Mark Holborn, "The Object Eye," "Junin-no-me," and Eikoh Hose," (1986); Susan Klein, "The Origin and Historical Context of Ankoku Butô," (1988).
12. *Architecture and the Public Space*  
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," (1986).
13. *Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond*  
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," (1996); Yuko Hasegawa, "Pachinko, Mandala and Merry Amnesia," (1997); Alexandra Munroe, "Hinomaru Illumination: Japanese Art of the 1990s," (1994).

## Bibliography:

Bibliography will be distributed at the first class.

---

日本の近代思想：福澤諭吉と丸山真男

(春学期) (Spring)

JAPANESE TRADITION OF MODERN THOUGHT: FROM YUKICHI FUKUZAWA TO MASAO MARUYAMA

坂本 達哉

経済学部教授

Tatsuya Sakamoto

Professor, Faculty of Economics

---

## Sub Title:

Seminar for reading and discussing some key texts from the works of the two most influential thinkers

## Course Description:

This course aims to introduce students to a long and complicated history and its unique characteristics of Japanese modern thought as best represented by the works of Yukichi Fukuzawa, the founder of Keio University, and those of Masao Maruyama, the most single influential thinker in the post-war Japan.

### **Text Books:**

No particular text book will be used, but excerpts from the central writings by Fukuzawa, Maruyama and other great Japanese thinkers will be provided as the course develops.

### **Class Schedule per week:**

A feature of the course is its seminar style presentation. It uniquely attempts to include ample opportunities for an exchange of opinions between instructor and students and between students. Every class will be divided into three parts. First, an introductory lecture by the instructor will be made to highlight the historical and intellectual backgrounds of the relevant texts to be discussed every time. This is followed by a prepared essay presentation by students. The rest of the class will be devoted to a class discussion. The first half of the entire course will deal with the works of Fukuzawa and the second those of Maruyama.

### **Message to Those Taking This Course:**

This course is intended for international as well as Japanese students who eagerly wish to learn the wealth of Japanese intellectual tradition from Fukuzawa to Maruyama in English.

### **Grading Methods:**

Grading will be based on attendance, in-class presentations and a short term paper.

---

日本人の心理学 (1)    コンフリクト・マネイジメント	(春学期) (Spring)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	
手塚 千鶴子                      国際センター教授	
Chizuko Tezuka                Professor, International Center	

---

### **Sub title:**

Conflict Management

### **Course content:**

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict in the West claims that it is inevitable yet not necessary bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts at any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological backgrounds, and the challenges for both Japanese people and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some social psychological measures for self-understanding.

### **Textbooks:**

no designated textbook and handouts will be distributed.

### **References:**

*Conflict in Japan* edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G.Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

*Japanese Culture and Society: model of interpretation* edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Frantz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

### **Course schedule (subject to change)**

1. Orientation to the course and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs Conflict Model of Japanese society and orientation to writing conflict episode journals
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi and Gaman* in Japanese Work Place
5. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
6. How Japanese express anger
7. Comparison of conflict management between Japan and U.S.A.
8. Intercultural conflict around the *Ehimemaru* Incident in Jan, 2001

9. Intercultural conflict between Japanese teachers and int'l students
10. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori
11. How to make use of our own anger creatively
12. Wrap-up session

**Messages to students:**

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions. Active participation in pair-work, group work and class discussion is a must.

**Evaluation:**

Overall grade will be based on attendance, essays, participation in class, final presentation, and its resultant final paper. .

**Questions and consultation:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

**Course Description:**

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

**Textbooks:**

No specific textbook will be used.

**Recommended Readings:**

The reading list will be given at the beginning of the term.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

**Evaluation:**

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

## INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

**Sub Title:**

Identity of Japanese sojourners

**Course Description:**

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

**Textbooks:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

**Recommended Reading:**

*Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

*The White Plum: a biography of Ume Tsuda* by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

*Intercultural Communication: reader 5<sup>th</sup> ed.*, Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

*Japanese Culture and Behavior (revised edition)* ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

*Japanese Patterns of behavior* ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

*Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness* ed by Ray

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment I: culture as mental software, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world
14. Wrap-up

**Messages to Those Taking This Course:**

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

**Evaluation:**

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

**Inquiries:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or

---

日本キリスト教史

(秋学期) (Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ボールハチエット, ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet

Professor, Faculty of Economics

---

**Sub Title:**

A case study of cross-cultural contact

**Course Description:**

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to about 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, students will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

**Recommended Reading:**

There will be a selection of assigned readings for each class (in Japanese, English and occasionally in other European languages or Chinese). Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

**Class Schedule per week:**

1. Orientation and overview
2. The background: Christianity missionary activity and religion in Japan
3. Jesuit approaches to Japan
4. Japanese approaches to Christianity
5. Christianity and Japanese politics
6. Christianity in Tokugawa Japan (1) Government policies
7. Christianity in Tokugawa Japan (2) Responses to government policies
8. The return of Roman Catholic missionaries and the 'hidden' Christians
9. Christianity and social change in Japan 1859-1945
10. Christianity and patriotism in Japan 1859-1945
11. Christianity in Japan in the second half of the twentieth century
12. Christianity in Japan today
13. Concluding remarks

**Message to those taking this Course:**

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

**Grading Methods:**

Oral presentations (30%), Reports (At least one short and one long) (50%), Attendance and Participation (20%)

### **Questions, Requests:**

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>)

---

多民族社会としての日本

(秋学期) (Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

---

### **Course Description:**

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

### **Texts:**

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

### **Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. *Zainichi* Koreans: past and present
5. *Zainichi* Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

### **Message to Those Taking This Course:**

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

### **Evaluation:**

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

---

政策決定、歴史的記憶、人種から見る明治期日本外交

(秋学期) (Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

飯倉章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor Josai International University)

---

### **Sub Title:**

Decision-making, historical memory and race

### **Course Description:**

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

### **Text Books:**

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

### **Reference Books:**

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

### **Class Schedule per week:**

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations
4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

### **Message to those taking this Course:**

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

### **Grading Methods:**

The final exam will be given based on the lecture. A short term paper on one of designated questions will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

---

日本の文学

(秋学期) (Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

---

### **Course Description:**

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

### **Texts:**

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/jlit.htm](http://www.armour.cc/jlit.htm)).

### **Recommended Readings:**

A list of reference works and useful links are available on-line.

### **Class Schedule (Subject to change):**

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

### **Messages to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

### **Evaluation:**

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

---

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(秋学期) (Fall)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside

Professor, Faculty of Law

---

### **Course Description:**

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20<sup>th</sup> century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki.

### **Reference Books:**

Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

*English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour*

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

*English Translation: A strange Tale from East of the River*

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』、『地獄変』、『河童』

*English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa*

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』、『蓼喰う虫』

*English Translation Naomi; Some Prefer Nettles*

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渴き』、『憂国』

*English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"*

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

*English Translation Silence*

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

*English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!*

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

*English Translation Hard-boiled Wonderland*

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

### **Grading Methods:**

Reports

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部助教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Sub Title:**

The slow pace of economic reform

**Course Description:**

This course aims to help the student to understand the Japanese economic system, the style of economic regulations/deregulations and how the central/local government's involvement in many areas of the economy differs from other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) show several illustrative videos and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries. There will also be some special one-off guests who will talk about their experiences in dealing with regulations in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English).

**Text Books:**

Edward, J. Lincoln, Arthritic Japan: the slow pace of economic reform, Brookings, 2001.

(Now available in Japanese translation (Nippon-hyoron-sha, 2004))

**Reference Books:**

Additional materials will be provided during some sessions as necessary.

**Class Schedule per week:**

(Subject to some changes):

Session 1 guidance and introduction

Session 2-4 the Japanese postwar economic system and related theories

Session 5-6 industrial policy and government involvement in the economy

Session 7-8 the bubble economy and macroeconomic policies

Session 9 the arguments about the current "structural reform" issue

Session 10-11 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system

Session 12-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform and deregulation

**Message to those taking this Course:**

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles (such as those from the Japan Times) as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures.

**Grading Methods:**

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

**Questions, Requests**

The lecturer's contact address is [noriko@fbc.keio.ac.jp](mailto:noriko@fbc.keio.ac.jp)

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

---

**Sub Title:**

'Amae' Reconsidered

**Course content:**

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

**Textbooks:**

no designated textbook and handouts will be distributed.

**References:**

*The Anatomy of Dependence* by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

*The Anatomy of Self* by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

*Dependency and Japanese Socialization* by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

**Course schedule:**

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan
11. Functions of healthy *Amae*: social support?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples
14. Wrap-up session

**Messages to students:**

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

**Evaluation:**

Overall grade will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

**Questions and consultation:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

---

日本の宗教：救済の探求

(秋学期) (Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

---

**Course Description:**

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

---

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

---

**Course Description:**

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

**Text Books:**

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

**Class Schedule per week:**

1. Introduction  
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press, 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"  
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp, 2003.  
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".  
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"  
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment  
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"  
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".  
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"  
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"  
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press, 1997  
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".  
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth  
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"  
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".  
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.  
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way

out”.

Richard Katz, chapter 13 “What is structural reform?” chapter 14 “Financial reform” chapter 15 “Corporate Reform-No competitiveness without more competition”.

11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.

Chapter 4. “Mounting Downside Risks: Financial and International”

Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model” in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete?

Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”

Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,

Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”

Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete?” Macmillan Press Ltd. 2000

Richard Katz, chapter 16 “Competition policy — Not enough competition, even less policy”.

13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not.”

Chapter 19. “Tax Reform — Don’t Exacerbate Anorexia”.

### **Message to Those Taking This Course:**

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.

High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

### **Evaluation:**

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

---

家族の近代

(秋学期) (Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビッド

経済学部助教授

David M. Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

---

### **Course Description:**

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

### **Text Books:**

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

### **Grading Methods:**

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, essays, and a final paper.

---

日本の金融ビッグバン

(春学期) (Spring)

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

ハリス, グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師

Graham Harris O.B.E.

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

---

### **Course Description:**

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

### **Text Books:**

Current materials will be used.

### **Class Schedule (Subject to change):**

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign

and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established — many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the current and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

**Evaluation:**

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation

---

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期) (Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

---

**Course Description:**

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

**Recommended Readings:**

“Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

“Balance Sheet Recession — Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications”, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

**Message to Those Taking This Course:**

Active participation by students strongly desired.

**Evaluation:**

Report and in-class exam

## 情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

### 1 ガイダンス

4月4日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

### 2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(金) 9:00~16:00

4月11日(月) 9:00~16:00

4月12日(火) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

### 3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

### 4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

### 5 平成17年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料(12,000円)が必要です。なお文学部、経済学部、法学部、商学部生が当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目(文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報リテラシー基礎)を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ(パソコンによる情報整理学)」を申し込む場合には受講料は免除されます。申込み方法は変更ありませんが、学生証を提示してその旨申し出てください。

平成17年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅱ	JAVA	12A 藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13B 江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	Cobol	14A 田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32A 鴻巣 努			5,000円	

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

参考：平成17年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅰ	11A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
	11B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	13A	河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	31A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

## 情報処理概論Ⅱ (Java) (通年) 4 単位

Java 言語によるプログラミング入門

藤 村 光

### 授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

### テキスト：

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

### 参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

### 担当教員から履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

### 成績評価方法：

- ・レポートによる評価（春秋各学期末に実施。上記授業計画の 9. と 15. に該当）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（各講義の最後に、その日の講義に関する簡単なレポートをメールで送信する）

### 質問・相談：

fujimura-java@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48 時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

## 情報処理概論Ⅲ (通年) 4 単位

パソコンによる情報整理学

江 島 夏 実

### 授業科目の内容：

コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出てからも役立つことが目的である。

### テキスト：

Computer System Workbook「日本語文書処理」、同「表計算1」、(株)コンピュータ教育工学研究所

### 参考書：

Computer System Textbook「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

### 授業の計画：

〔春学期〕情報の表現力を中心に

- ・実践的な文書表現力 4 回
- ・効率的な文書表現 2 回
- ・視覚に訴える表現力 4 回
- ・コンピュータならではの機能の利用 3 回

〔秋学期〕情報の収集・加工を中心に

- ・情報の収集・加工の基本＝作表 3 回
- ・関数を利用した情報の加工 3 回
- ・視覚に訴えるための情報の加工 4 回
- ・大量データの効率的処理 3 回

### 担当教員から履修者へのコメント：

ワープロソフトや表計算ソフトの基本的操作を習得していることを前提に、演習問題を通して徹底的なパソコンの活用技術の向上を目指す。教科書はバラエティに富み、かつ、分野に偏らない演習を豊富に用意してあるので、パソコン活用の幅を広げ、大学生活や社会人としての活動に役立つ基礎を身につけてほしい。

### 成績評価方法：

- ・レポートによる評価（春学期、秋学期それぞれ条件に叶う作業を課題として与え、その成果により評価）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席の採否と、平常授業において作成したファイルを提出させ、その状況を評価）

### 質問・相談：

メール等を利用した質問を受け付ける。メールアドレス等については授業開始時に伝達する。

## 情報処理概論Ⅳ (春学期) 2 単位

COBOL

田 窪 昭 夫

### 授業科目の内容：

ビジネス（業務処理）を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理（業務処理）のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++、JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

### テキスト：

大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 一JIS 1992 年版準拠一 サイエンス社

### 参考書：

### 授業の計画：

主な学習項目は次の通り。

1. COBOL 言語の仕組み
2. データの入出力とファイル
3. ファイル処理の基本アルゴリズム
4. 並び替え（ソート）機能を使ったプログラム

### 担当教員から履修者へのコメント：

コンピュータやデータ処理に関する予備知識は必要としない。パソコン実習の課題（3～4 題）で評価し、試験は実施しない。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

### 質問・相談：

メール (arttech@sie.dendai.ac.jp) にて受け付けます。

## 情報処理応用Ⅱ (統計解析) (春学期) 2 単位

SPSS による統計解析および多変量解析の実習

鴻 巢 努

### 授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得

られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

**テキスト：**

室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

**参考書：**

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

**授業の計画：**

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定, ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析, 重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

**担当教員から履修者へのコメント：**

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

**成績評価方法：**

平常点および期末レポートによって評価する。

## 知的資産センター設置講座（平成 17 年度開講）

### 1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、起業の支援と拡大しています。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品を生み出しています。さらに、バイオ分野を中心にベンチャー企業のスタートアップも相次いでいます。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

### 2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

### 3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―  
(ナテグリニド特別講座)

知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

#### 授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

#### テキスト：

講義資料を配布します。

#### 参考書：

「知的創造時代の知的財産」 清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」 竹田著 ダイアモンド社

「著作権の考え方」 岡本著 岩波新書

#### 授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み

- 3 著作権の仕組み
- 4 商標ブランドの価値
- 5 マルチメディアに関する知的財産
- 6 キャラクタービジネス
- 7 音楽に関する著作権問題
- 8 企業における知的財産戦略
- 9 知的財産に関する世界の動向
- 10 知的財産の紛争処理
- 11 ベンチャー・起業の仕組み
- 12 知的財産ビジネス
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

**履修者へのコメント：**

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

**成績評価方法：**

平常点及びレポートによる評価

**質問・相談：**

授業の最後に質問の時間を設けます。